

11. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・例年、雪解けと同時に輸送量が増加する傾向があるため、今後についてはやや良くなる。
		商店街（代表者）	・春になるにつれ客足が伸びてくるとみられる。北海道新幹線開業の1周年効果もある程度期待している。
		百貨店（担当者）	・来客数の増加につながるような兆しは感じられないものの、近隣で大型複合施設がオープンするなど、新年度において当社を取り巻く外的環境に変化が起ころうため、これを起爆剤としたトレンドの変化が見込める。
		百貨店（販売促進担当）	・1月末から春節、さっぽろ雪まつり、冬季アジア大会とイベントが目白押しであるため、本州からの観光客に加えて、アジア圏からの外国人観光客の増加が見込まれ、来客数の増加や販売量の増加につながることを期待でき、今後の消費は拡大することになる。
		乗用車販売店（経営者）	・外部要因に多少不安があるが、新車販売、サービス工場の売上げが見込める。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車効果により、やや良くなることを期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・2～3か月後は雪がなくなり、暖くなる時期であり、その時期にあわせて新しく車を乗換えたいという客の要望が多くなる時期である。これから契約すると、ちょうど良いタイミングで納車されるため、この先は販売量が右肩上がりになることが期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・新規採用数が増えており、自動車の新規購入数も増えることが期待できる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・春節に伴う外国人観光客の観光需要に加えて、さっぽろ雪まつり、冬季アジア大会とイベントが続くため、今後はプラス傾向で推移する。
		旅行代理店（従業員）	・天候が安定していれば、2～3月の当地域は冬場の体験型観光が充実してきていることもあり、観光客の増加が期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・台風による被害以降、当地域では客の自粛ムードも重なり、9～12月の客足が明らかに鈍っていたが、年明け以降、来客数が微増傾向にあるため、今後は回復傾向に向かうことが期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・例年の同時期と比べて、先行受注の問い合わせ件数が多いことから、今後についてはやや良くなる。
		タクシー運転手	・観光客の予約状況は伸び悩んでいるが、冬季アジア大会などのイベントが予定されていることから、やや良くなることを期待できる。
		通信会社（社員）	・新入学や就職のシーズンを迎えるという季節要因もあり、今後の景気は少しずつ良くなる。
		美容室（経営者）	・卒業や入学の時期を迎えて、客の来店が増えることが期待できる。
		商店街（代表者）	・デフレが解消しない限り、個人消費は回復しないとみられるため、今後も変わらない。
	商店街（代表者）	・今の状況は米国の新大統領の発言次第の面があり、今後の動きが不透明である。	
	商店街（代表者）	・地域住民の消費が伸びる要因は見当たらない。また、消費にとってプラスアルファとなる観光客についても、増加するような時期ではないため、今後の売上げが増加するような理由が見当たらない。	
	商店街（代表者）	・観光のオフシーズンであるため、今後も変わらない。	
	商店街（代表者）	・東南アジアからの外国人観光客の需要が高まり、11月以降の落ち込み幅が小さくなってきていることから、これから大きな雪害などがなければ、売上げが回復してくることが期待できる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・1月の売上をみても、中国系の観光客によるものが50%を超えており、外国人観光客に助けられている面があり、国内の景気が上向いているという雰囲気は全く感じられないため、今後も変わらないまま推移する。
		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・外国人観光客の購買は為替の動きに左右される。今後も円安傾向が続けば、外国人観光客の消費にプラスとなるが、逆に円高に振れると悪影響を及ぼすことになる。一方、国内の状況は、今の時点で株価が堅調に推移しているが、米国の新大統領の政策によって大きな影響が生じるとみられるため、全体としては変わらないまま推移する。
		一般小売店〔酒〕(経営者)	・ここ数か月、一進一退の状況が続いている。消費の下支えはあるものの、大きく伸びてこないといった状態が何か月間も続いているため、今後も同じような流れで推移する。
		百貨店(売場主任)	・外国人観光客による売上は前年春からダウン傾向となっているため、今後の業績を大きく左右するようなマイナス要素はないとみられる。一方、地元客については、需要が特定の顧客に集中したままであり、需要の拡大が感じられない。これらのことから、今後についても変わらないまま推移する。
		百貨店(営業販促担当)	・足元の動向をみると、セールなどで好調をキープし、イベントなどでも客を取り込めているが、これから定価品販売が中心となる時期を迎えた際にブレーキがかかることを懸念している。ただ、紳士物の商材が一時の不振から回復傾向に入ってきていることは良い傾向である。
		スーパー(店長)	・社会行事や学校行事の関連商材の動きが良く、4月まではやや良い状態が続く。
		スーパー(店長)	・顧客の信頼を得ている商材は高額でも購入されているが、客の節約志向は継続している。ばら売りなどのセール日はレジ待ちの行列ができるほどであり、今後も変わらないまま推移する。
		スーパー(店長)	・景気が変わるような要因が見当たらない。
		スーパー(役員)	・地域の人口減少や高齢化が進んでいる中で、商品単価が上昇しているため、景気が今以上に良くなることは期待できない。また、最低賃金の引上げに伴い給料が多少増加しても、社会保険料の負担増により可処分所得が減少している人が多い状況であるため、今後も変わらないまま推移する。
		コンビニ(エリア担当)	・アルコールを中心に夜間の売上低迷が継続している。販売量の増加や客単価の上昇もみられず、依然として消費マインドが低調なため、今後も変わらない。
		コンビニ(エリア担当)	・年が明けても漁の厳しい状況が続いており、今後も回復の見込みがない。前年は一部行われた北洋さけます漁も今年は完全に中止されており、沿岸部などの景気は更に厳しくなるとみられる。
		コンビニ(エリア担当)	・来客数増加の動きは前年に引き続きみられず、今後、状況が劇的に変化するような要因が見当たらない。
		衣料品専門店(店長)	・売上が前年を上回ってこないため、今後も厳しいまま変わらない。
		家電量販店(店員)	・下見で来店している客が少なく、商材の付加価値を説明しても反応が薄いため、今後も変わらない。
		乗用車販売店(経営者)	・当地区の軽自動車を除いた新車市場は前年を上回って推移している。また、当社の受注台数も高水準であった前年並みのレベルにあることから、現在の好況が当面続く。
		自動車備品販売店(店長)	・現状、車検台数は前年並みの水準にあるが、今後の予約件数に減少傾向がみられ始めている。新車受注も遅れ始めている。
		その他専門店〔医薬品〕(経営者)	・セルフメディケーション税制が始まったが、客の関心が薄い。越えるハードルも高すぎるため、このままでは医療費削減につながらない。
		その他専門店〔造花〕(店長)	・前月、前々月よりは来客数が回復傾向にあるが、先行きに不透明な部分がある。
		高級レストラン(経営者)	・米国の新大統領就任後の日本との関係が不透明であるため、今後についてはどうなるのかまだ分からない。
		高級レストラン(スタッフ)	・外国人観光客の好調さや冬季アジア大会の開催などから、宿泊施設の景気は悪くないと思うが、地元客中心の飲食店では景気回復につながるような要因が見当たらない。
		旅行代理店(従業員)	・景気が良くなる材料が全くない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・2月にはさっぽろ雪まつり、冬季アジア大会などの大きなイベントがあるため、外国人観光客が増えるともみているが、まだタクシーの利用は少ないことから、前年並みで推移する。また、乗務員不足も解消しないため、会社の売上は前年を下回る状況が続く。
		タクシー運転手	・冬季イベントなどがあるため、外国人観光客の入込は見込まれるが、タクシーを利用する機会が少なく、当業界の活況にはつながりづらい。
		タクシー運転手	・今後、特に多くの需要を見込めるような要素はないが、今年は雪が多いことから、このまま変わらず順調に推移する。
		タクシー運転手	・地方の景気対策が打ち出され、地域の景気が上向いてこない限り、今の状況のままで変わらない。
		通信会社（企画担当）	・新生活、新入学商戦における客の反応が前年並みであるため、今後も変わらない。
		観光名所（従業員）	・北海道新幹線開業から1年を迎え、効果が落ち着きを見せ始める時期となるため、今後も変わらない。
		観光名所（職員）	・外国人観光客や国内旅行者を中心に来客数が伸びている。ただし、海外の経済情勢や北海道への風評の変化など、ちょっとしたきっかけで下降線をたどるとみられるため、今後も注視が必要である。
		美容室（経営者）	・客の来店サイクル、客単価などが固定化している傾向がみられる。そのため、今後も当分は同じような状況で推移する。
		美容室（経営者）	・季節要因により今よりは良くなるとみているが、景気全般が良くなるような要素は見当たらない。
		住宅販売会社（経営者）	・株式市場の動向が不透明なため、先行きの消費動向について分かりづらい面もあるが、今後も低金利の状況が続き、消費税増税までの期間もまだしばらくあることから、住宅市場、特に貸家市場は堅調に推移する。
		百貨店（役員）	・年末商戦から初売りにかけては季節要因もあり、まずまずの状況であったが、来客数や買上客の動向などから、今後の景気が上向き見込みはない。
		スーパー（店長）	・米国の新大統領就任による影響で米国の経済動向が不透明であり、今後、ドル安、円高傾向になれば、輸出企業の業績に暗雲が立ちこめることになり、景気がやや悪くなる。ガソリンなどの値上げも家計を圧迫してくるようになる。
		スーパー（企画担当）	・米国の新大統領の施策が醸し出す世情不安、国内の社会保障関連の将来不安などから、食料品を中心とした日用品に対する慎重な購買行動は好転の兆しがみえず、低価格競争の再燃が見込まれる。
		スーパー（役員）	・北海道新幹線の開業から1年を迎えて、前年ほどの観光客の入込が期待できないことから、今後の景気についてはやや悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・休止になった公共事業があり、そのあおりを受けることになる。
		高級レストラン（スタッフ）	・前年と比べると、外国人観光客の入込に減少傾向がみられるため、今後についてはやや悪くなる。
		観光型ホテル（役員）	・今後、円高傾向が進むことになれば、外国人観光客の団体客の減少が見込まれる。また、日韓関係の悪化により韓国からの集客の減少も見込まれる。
		旅行代理店（従業員）	・ここ1年の販売状況を見ると、緩やかだが確実に前年よりも売上、来客数が減ってきている。こうした動きを打開する特需も見込めないため、今後についてはやや悪くなる。
		パチンコ店（役員）	・T P Pの動向、原油高などの問題があるため、今後について明るい兆しがみえてこない。
		住宅販売会社（経営者）	・米国の新大統領が採る政策が日本経済にどのように影響してくるかが不確かな状況が当面続くため、経済が停滞することになる。
	x	タクシー運転手	・T P P問題の再燃により、地場産業の行方が不透明になってきたため、今後については悪くなる。
企業 動向 関連 (北海道)		建設業（経営者）	・公共土木工事については、年度内にゼロ国債工事が発注、契約となり、早ければゴールデンウィーク前後から工事に着手することになる。建築工事についても、土木工事ほどではないが、引き合いがみられ始めている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・これから衆議院選挙が行われることになれば、景気対策の効果が生じると期待できる。
		食料品製造業（従業員）	・3月までは現状のやや前年を下回った売上のまま横ばいで推移する。
		食料品製造業（従業員）	・為替状況の先行きが不透明でどちらにも動く可能性があり、原材料価格への影響がどうなるかが現時点でも分からない。販売量などについては、現状ではプラス材料もマイナス材料も見当たらないため、変わらない。
		家具製造業（経営者）	・百貨店や専門店の低調が続いており、先行きは見通しにくい。当社としては直接小売に注力してはいるが、業績は足踏み状態である。
		建設業（従業員）	・予算の厳しい大型建築工事が公告されたが、予想以上の応募参加者が見込まれ、建築工事の年度明け新規着工量が多くないことを感じさせる。
		建設業（従業員）	・今後の公共工事の受注確保に不透明感はあるものの、民間建築工事は商材もあり、全体では引き続き現状を維持できる見通しにある。
		輸送業（支店長）	・例年と同様に1～2月が底とみているが、雪解け後の仕事量の増加につながるような具体的な案件もまだ決まっていないため、今後も変わらないまま推移する。
		金融業（従業員）	・米国の新大統領の保護主義への政策転換が民需の足かせになることが懸念されるが、公共投資の下支えもあり、道内景気は今後も現状程度で推移する。
		司法書士	・例年、1月は経済活動が全般的に下向き時期であり、3月中旬以降になれば回復に向かうことになる。
		司法書士	・景気回復のための政策がみえてこない。補正予算の成立により景気が若干良くなるのではとの期待もあるが、米国との経済摩擦が不安材料となり、現状のままで推移する。
		コピーサービス業（従業員）	・購買に対して客先が慎重な姿勢であることが変わらないため、今後も変わらないまま推移する。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・災害復旧工事が当面続く。関連した各業種にも波及することが期待できる。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・3月は決算期の影響で大型設備案件を含めて売上が見込まれるが、4月はその反動で落ち込むことになる。
		通信業（営業担当）	・米国内優先の米政府の姿勢による国内への悪影響が周囲の景況感にも及ぶことが懸念される。
	×	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・新年度の新しい案件の話が聞こえてこない。例年とは比較にならないほど少ない。
雇用 関連 (北海道)		-	-
		求人情報誌製作会社（編集者）	・前年8月の台風災害から5か月が過ぎ、2次産業や3次産業に対して具体的な先行きが見えつつあることで、徐々にではあるが回復基調に転じてきている。
		人材派遣会社（社員）	・新年度を迎える4月以降も企業経営のスタンスは拡大基調で推移すると見込まれるため、現状のまま継続する。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・人材不足の状況は変わらないため、前年並みの求人が行われると見込まれる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・じり貧状態で緩やかに景気が下向いている。人口減少による個人消費の落ち込みの影響も顕著に表れてきている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・前年の台風被害、特に農業関連の被害状況が徐々に明らかになってくるとみられるが、その結果によって、特に農業関係者の消費性向が弱くなる懸念される。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率が5か月連続で1倍を超えている中、この3か月の新規求人数を前年と比べると全体で1.9%、正社員求人で3.6%減少している。月によって多少の増減はあるものの、増減幅が小さく、今後の求人に関する新たな情報もないことから、求職者の減少傾向が続き、有効求人倍率は1倍前後で推移する。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率が1年7か月連続で1倍超えの高水準が続いているため、今後も変わらないまま推移する。
		職業安定所（職員）	・新規求人数が大きく増減するような要因や大量雇用調整の動きがないことから、今後も新規求職申込件数が減少し、新規求人数が増加する傾向が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・観光の好調さにより春から秋まではにぎわいがあつたが、北海道新幹線の開業2年目を迎えてどうなるかが不透明である。水産加工中心の地元製造業や地元客相手の小売業の不振が気がかりである。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人難の傾向は続いているが、景気がそれほど良いわけではないのに人手不足という状況であり、企業の求人のための予算が厳しくなっている。求人媒体の選別や求人のタイミングをみるなどの対応が進んでおり、今後についてはやや悪くなる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・米国を中心に世界の動向がみえづらくなっている。各企業の採用活動も対象が現3年生に移行するが、国内景気をみながら慎重な採用活動を行うことが見込まれるため、就活学生にとって若干厳しいスタートとなる。
	x	-	-

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (東北)		衣料品専門店（経営者）	・3月には春支度が始まるため、今より悪くなりようがない。
		衣料品専門店（経営者）	・春物本番を迎えるのが、待ち遠しい。
		タクシー運転手	・景気が悪くなるような要因は見当たらない。客を乗せても景気の良くない話を聞くことはない。当市で開催される会議も多く控えている。これからもまだ景気は良くなるとみている。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	・今年度も災害復興住宅への引越しが続くと見込まれるため、それに付随する商品の納品を期待している。
		百貨店（総務担当）	・客からは、4月から給料が上がるなどという話も聞こえている。そのため、少しは景気が良くなるのではないかと。
		コンビニ（経営者）	・来客数の減少に伴い売上も減少しているが、正月明け以降は客足が戻っている。また、コーヒー、たばこは1点買いが多いものの、全体で見ると買上点数の増加にかなり期待が持てる状況である。
		コンビニ（店長）	・雪解けとともに、来客数は戻ってくる。また、除雪費用の支払も終わるため、やっと普通に経営ができる。
		衣料品専門店（店長）	・入学、就職のフレッシュな商戦による、客単価の上昇に期待をしている。
		乗用車販売店（経営者）	・雪解けに合わせて購入する客が2～3月にかけて一気に動き出すとみている。
		乗用車販売店（店長）	・2月に新型車の発表がある。また、3月決算月を迎えて客の動きも活発になるため、販売量は増える見込みである。
		住関連専門店（経営者）	・仏具の販売が中心のため、この先の彼岸では通常の月より小物の売上が増える見込みである。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・年度末を控えて動きは活発化するが、予算の減額や人員削減の影響が表れてくるとみている。また、大手の販売店が今まで回っていなかった小口の客にも営業をかけており、客の取り合いになることが見込まれる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・初売り以降、衣料品の動きが出てきている。また、春に向けたファッション関係の動きにも明るい兆しが見え始めている。
		高級レストラン（支配人）	・例年に比べて予約状況が好調である。また、周辺の同業者からも良い話が聞こえてきており、明るい兆しが見られている。
		一般レストラン（経営者）	・3月は転職のシーズンとなるため、現在よりははやや良くなるのではないかと。
		一般レストラン（経営者）	・これから先、雪が解けて何をすることも楽な時期になり人も増える。また、歓送迎会のシーズンとなるため、現在よりは景気が上向くとみている。
	観光型旅館（スタッフ）	・卒業、入学、人事異動など、何かと人の動きが多くなる時期は、宿泊、宴会の利用が多い。	
	旅行代理店（店長）	・現在がどん底であるが、3月以降の問い合わせは少しずつ増えてきている。	
	通信会社（営業担当）	・IoTやロボット関連企業が好調になってきており、今後の景気向上が期待できる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（営業担当）	・行政のトップが代わり、中小企業などの市内経済界が徐々に活発化してきている。その影響もあり、消費者の生活も少しずつ前向きになってきている。これまで厳しかった個別の客への営業活動にも結果が出てきており、新年度に向けても期待ができる。
		観光名所（職員）	・今年も降雪が少ないため、春先の営業に期待が持てる。
		住宅販売会社（経営者）	・受注量を増やすために注文建築以外にも建売を始めているが、好調な実績が出始めている。
		商店街（代表者）	・ここ3か月は雪も少なく好天に恵まれており、年末年始にかけては、若者の忘年会新年会などの会合が多くなっている。このことから飲食関連が少し伸びているが、小売、物販は横ばいが続いている。今後來客数が増えても、売上は伸びないとみている。
		商店街（代表者）	・商店街に客が来ない状況に変化はないとみている。
		商店街（代表者）	・米国の新大統領就任による影響で、株高などによる景気回復が期待されるが、地方への経済効果は時間を要する。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・客の消費性向は変わらないが、購入商品の選択はより厳しくなることが見込まれる。商品のラインナップの見直しによりカバーできるかどうかを検討している。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・現在の円安と株高は、富裕層だけが恩恵を受けている。一般市民はなかなかその恩恵を受けられないため、消費も低調な状態が続くとみている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・現在の状況は3か月前と比べても遜色がなく、この先の来客数は順調に推移するとみている。
		百貨店（売場主任）	・天候が回復しても来客数が戻らず、クリアランスに対する期待感がつかえない。消費者からは、価格に対するシビアな購買姿勢と、防寒用品関連の買換えを見極める姿勢が強くみられている。
		百貨店（企画担当）	・来客数の減少傾向が続いており、売上の前年比マイナス推移にも変化はない。この先大幅に改善する要因もなく、現在の状況が継続するものとみている。
		百貨店（営業担当）	・婦人コートなどは、メーカー側が生産を抑えているため、今後も急激に売上が回復する見込みはない。ただし、消費マインドが落ち込んでいるわけではないため、全体的な景気はあまり変化せずに推移していくとみている。
		百貨店（営業担当）	・商品の購買単価が下がっている状態が続いている。
		百貨店（買付担当）	・景気に変化するような要因が見当たらない。
		百貨店（売場担当）	・冬物商戦では防寒コートが苦戦しているが、その反動により、セールでは防寒アイテムが非常に好調である。オケージョン用途も動きが早く、好調に推移している。ただし、2～3か月先においては、特別な要因でもない限り、売上が増加することは考えにくい。
		百貨店（経営者）	・株価やインパウンドなど、外的要因に期待すべき大きな変化はない。むしろ、これらに対する不透明感が、新年度に向けた商戦にマイナスに働くことを懸念している。今後は、プレミアムフライデーなどの消費刺激策に乗りながら、購買喚起策を打っていく必要がある。
		スーパー（経営者）	・株高はプラス要因であるが、米国に起因する不安感があり、客のマインドは改善しないとみている。
		スーパー（経営者）	・米国の動向次第では、貿易、資源、原油価格、IT業界、人的交流を含めて、大きな影響が表れるのではないかとみている。ただし、株価や為替は様子見も含めてしばらくは現状のまま推移する見込みであり、地方においては大きな変化要因も見当たらないため、当面は消費傾向に大きな変動はないとみている。
		スーパー（店長）	・来客数、客単価の微減が続いており、この傾向は今後も続くかとみている。
		スーパー（営業担当）	・売上は12月までの累計で前年並みの数値を維持しているが、新店や改装、販促策の強化によるものであり、相変わらず客の節約志向は強い。景気回復による消費拡大は実感できない。
		コンビニ（経営者）	・景気を左右するような要因が見当たらない。
		コンビニ（エリア担当）	・景気の変動するような外部要因は見当たらない。
		コンビニ（エリア担当）	・人口増加を含めた、外的環境の好転に期待ができない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・乗客数が減少傾向にあり、改善の兆しがみえていない。
		コンビニ（エリア担当）	・今後も復興需要は減少していくとみている。また、東京オリンピック事業へ労働力が流れてしまうなど、マイナス要因も多い。今後も大きく景気が回復する要因に乏しく、現状維持が続くとみている。
		コンビニ（店長）	・客の出足が悪い冬の時期を脱すれば、多少は改善するかもしれないが、期待できるトレンドが見当たらない。現状より悪化しないことを望むばかりである。
		衣料品専門店（総務担当）	・客単価が若干上昇するも、乗客数と買上点数が前年割れという現在の状況からは、この先の景気が良くなり、消費動向が上向くとは考えにくい。
		家電量販店（店長）	・乗客数の減少傾向は今後も続くとみている。
		家電量販店（店長）	・ここ最近ではヒット商品が出ていないが、故障品の買換え需要は根強く、単価も比較的安定している。そのため、この先の景気は大きく変動することはなく、前年並みで推移していくとみている。
		家電量販店（従業員）	・乗客数の横ばいが続いており、この先も同様の傾向が続くとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・今月は初売りがあったが、乗客数はいつもの月と変わっていない。このような状況は今後も続くとみている。
		住関連専門店（経営者）	・2～3か月先において、景気が好転するような材料は見当たらないため、現状維持で推移するとみている。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・雪に対する負担がある程度軽くなる分、消費者には余裕が出てくる。しかし、地方ではまだまだ先行きが不透明であることに変わりはなく、楽観視はできない。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	・良くなる要素がなかなか見当たらない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・暖房用の燃料の需要期も半ばを過ぎる。前年と比較して販売量は増えたが、収益は下回っている。この状況は今後も改善されず、継続するとみている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・変化をもたらす要因が見当たらないことから、良くも悪くも変わらないとみている。
		一般レストラン（経営者）	・少し前までは、米国の新大統領のお陰で景気が良くなることを期待していたが、就任後の言動をみると、先行きは不透明である。
		一般レストラン（経営者）	・かつては、百貨店、レストランなどは非常に良い時代であったが、今は完全に時代から取り残されている感が否めない。今後も厳しい状況が続くとみている。
		観光型ホテル（経営者）	・乗客数が前年を下回っているが、予約状況からも、今後も同様の傾向が続くとみている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・2月以降の予約数は、前年並みである。
		観光型旅館（経営者）	・景気が上向くような要因が見当たらないため、現状とあまり変わらないとみている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・フリー客の減少分を好調な予約受注でカバーしていたが、その予約受注に停滞感がみえ始めている。ただし、予約受注は急激に悪化しているわけではなく、状況によっては改善の余地がある。そのため、全体としては減少傾向ではあるものの、しばらくはこのままで推移するのではないかと。
		旅行代理店（経営者）	・この先は年度末の需要などがあるものの、あまり良くなる要因は見当たらない。
		旅行代理店（従業員）	・戦争やテロの要素以外にも、世界経済、情勢の先行き不安が続くとみられており、海外旅行については様子見の状況が続く見込みである。
		通信会社（営業担当）	・景気が大きく変化する要因に乏しい。
		通信会社（営業担当）	・客からも業績が良いという話を聞かない。
		テーマパーク（職員）	・数か月前より客単価は減少傾向にある。高額商材に対して、客は安ければ買ったのにと不満をもらしている。
		観光名所（職員）	・インバウンド客が好調であるが、中国の春節が終わるため、先行きの景気は変わらないとみている。
		遊園地（経営者）	・エンタランスをリニューアルするなどして集客に努めているが、景気動向や物価動向などがなかなか見通せない。
		美容室（経営者）	・現在のやや悪い景気の状況は今後も継続するとみている。また、直接的ではないものの、米国の新大統領就任による世界への影響が、消費者にも反映していくのではないかと。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	・競争相手も多く、今まで来ていた客がだんだんと減ってきている。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・外部の要因による影響が不安材料である。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・今後の供給につながる受付件数は前年並みである。
		商店街（代表者）	・これから先の景気が良くなるような要素は全く見当たらない。
		商店街（代表者）	・現在の米国の新大統領による騒動には、過去、日米繊維交渉などの貿易摩擦により、一度ならず何度も米国に煮え湯を飲まされた記憶が呼び起こされる。恐怖のアメリカファーストであり、同盟国や友好国といったところで、国の経済に関しては一欠片の価値もない。1億ジャパンファーストで頑張っていくしかないが、やはり心配である。
		商店街（代表者）	・例年のことであるが、1月初旬の勢いは継続しない。また、当商店街は空前の活況を呈している駅前地区から最も遠く、近年は中央資本、サービス関連業、飲食店などの進出が著しいことも踏まえれば、対応策構築が急務であるといえる。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・米国の新大統領の政策が不安感を増しており、特に輸出企業などは設備投資計画を見直すのではないかと。日本経済にとって基礎的といえる需要に、一時的であれ大きな落ち込みが発生すれば、さまざまな悪影響が広がる可能性がある。
		スーパー（店長）	・来月以降には競合店の新規出店の予定がある。外的環境の変化から、来客数の減少が見込まれる。
		スーパー（店長）	・今月末に店舗周辺に競合店がオープンする。周辺の店舗の売上などが分散されるため、1店舗ごとの景気は若干悪くなるとみている。
		スーパー（総務担当）	・米国の新大統領の発言で市場が左右に動くといった状況で、非常に不安定である。円高に進んだ場合、株価の下落などにより景気はマイナスに進むのではないかと。
		スーパー（営業担当）	・ガソリン価格高騰の影響により、食品など、商品の動きが鈍る可能性がある。
		コンビニ（エリア担当）	・人口減少に対する対応としては、現在のやるべき事の精度を上げるしかない。ルールも含めて構造改善を行わないと、今後の顧客のニーズにはこたえられない。
		コンビニ（店長）	・ガソリン価格の値上がりや、直接的には関係ないが米国の新大統領の就任による影響が不安要因となっている。建設業界の客も財布のひもが固くなっており、先行きには暗雲が立ち込めている。
		衣料品専門店（経営者）	・冬物セールの不振で在庫状況が悪化している。春物の仕入に悪影響を与えており、今後の売上への影響も懸念している。
		衣料品専門店（店長）	・これから先は、春の進学や就職による来客数が増える時期である。しかし、春のビジネスマンの買換え需要のなかで、主要となる30～40歳代の客の動きが非常に鈍い。この客層が動いてくれないと、衣料品業界は厳しい。バーゲンにおいても動いていないことが気にかかる。
		衣料品専門店（店長）	・年明け以降は本格的に寒くなり、冬物在庫の消化が進んでいる。しかし、この寒さが春まで続くとなると、春物商材の立ち上がりの遅れが懸念される。
		家電量販店（店長）	・就職、進学などの新生活に関連する商品への問い合わせが、前年と比較して少ない。
		乗用車販売店（経営者）	・税制改正により、エコカー減税の軽減率が下がるため、該当する車種の販売量の落ち込みを懸念している。
		乗用車販売店（経営者）	・米国の新大統領の節度ない言動による日本経済への影響を懸念している。
		乗用車販売店（従業員）	・決算時期であるにもかかわらず、商談の量が増えていない。このことから、2～3か月先は苦戦するのではないかと。
		住関連専門店（経営者）	・これから年度末を迎えるが、その後の4月以降の受注がなかなかできていない。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・販売量の動きが鈍ってきているなか、春先には地方選挙の予定があり、飲食店の落ち込みが懸念される。その分店頭での動きが良くなるとも考えにくいので、地元以外の販売を強化する必要がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔食品〕 （経営者）	・大雪の影響により、各家庭で光熱費、燃料費が増加するため、食品などへの支出が抑えられてしまうことを懸念している。
		高級レストラン（経営者）	・あまり良くなる要素はない。暖くなれば新しい芽も出るだろうが、この先1～2か月で景気が上向くとは考えにくい。
		一般レストラン（経営者）	・米国の新大統領就任による影響が、どう日本に表われるかが不透明であり、今後景気が良くなるような要素は見当たらない。
		スナック（経営者）	・2月は営業日数が少ない。雪の影響などもあり来客数が若干落ちている現状を踏まえると、売上は多少落ち込むとみている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・就職率は良いものの、大学生、高校生共に首都圏で就職する割合が年々大きくなってきている。若者が県外に出てしまうと、県内の景気は鈍ってしまう。首都圏は好景気に沸いているが、地方はそれが心配である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会などの法人利用は、来月以降の先行予約が減少気味であり、全体的には厳しい状況である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新たなホテルのオープンが予定されているため、宿泊の稼働率が低下するのではないかと危惧している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・米国の新大統領就任による影響で、この先の輸出企業の業績が不透明となる。
		旅行代理店（店長）	・米国の新大統領の政策方針や欧州におけるテロ懸念など、環境的に海外旅行は控えられとみている。
		通信会社（営業担当）	・今まで景気が良かった企業が、新たな分野の設備投資などの準備期間に入る時期である。また、中国人観光客の爆買いも下降気味のため、消費需要も停滞しており、この先3か月は景気が悪くなるとみている。
		競艇場（職員）	・全体的に来客数及び購入単価が減少している。今月がピークであり、今後は冬季特有の積雪や天候に大きく左右されるため、今以上に売上が増えるとは考えにくい。
	×	スーパー（経営者）	・可処分所得の減少に伴う節約、儉約志向が更に高まるとみている。
	×	スーパー（店長）	・周辺に競合店が出店する予定であるため、今後は大分厳しい状況になるとみている。
	×	コンビニ（経営者）	・ここ3か月間の様子をみても、少しずつ状況は落ち込んでいる。この先も同様に客の目的買いが増えて、衝動買いが少なくなっていくのではないかとみている。
企業 動向 関連 (東北)		建設業（従業員）	・復興関係の大型公共工事の受注者が決定する見込みのため、来年度初頭から全体的に景気は上昇傾向になるとみている。
		窯業・土石製品製造業（役員）	・年度末を控えて、需要が多少増える見込みである。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・半導体関連の下請受注は今後も伸びていく見込みであり、このことで少しは景気が良くなるのではないかとみている。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・業界の再編や設備投資が進み、景気は良い方向に推移するとみている。
		建設業（経営者）	・受注量もあるため、この先の景気はやや良くなるとみている。
		広告代理店（経営者）	・市町村によるコンペの案件が多く出てきているため、多少の明るい兆しがみえている。
		公認会計士	・3月にかけては工事の完了検査などの関係で建設関係は忙しくなる。また、小売関係も春物商戦で若干の上向きが見込まれる。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・今まで抑え気味であった得意先の受注量に、来期に向けての動きがみえてきている。そのため、現在よりは受注量が増えると見込んでいる。
		その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	・統計データや客先の話からは、販売量の減少に底打ち感が出ている様子である。
		農林水産業（従業者）	・前年の果物農家の販売単価は例年並みであったため、生産資材購入に資金をまわすことができている。
		食料品製造業（経営者）	・お土産業界は日本全体の景気に左右される。そのため、今の経済状況では楽観視できない。
		食料品製造業（営業担当）	・既存商品の動きが鈍いうえ、新商品の販売状況も思わしくないため、状況に変化はないとみている。
	食料品製造業（総務担当）	・円安の影響で原油高となるが、個人消費に対する影響は、すぐには表われないとみている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		木材木製品製造業（経営者）	・住宅部材の価格改善が進んでいない。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・年度末は忙しくなるが、その分、4～5月は一気に冷え込むのではないかとみている。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・入学、進学シーズンであり、年度切替もあるため期待しているが、現在の受注量は横ばいで推移している。
		一般機械器具製造業（経営者）	・受注状況が大きく伸びる要因が見当たらない。また、為替の動向が不透明である。
		建設業（企画担当）	・工事受注額は当初の見込みどおりであるため、年度内は現状のままで推移するとみている。
		通信業（営業担当）	・現在の好調な受注傾向が継続するとは考えにくい。前年度と比較しても案件内容の傾向が変わってきており、予断を許さない状況である。
		通信業（営業担当）	・政治が不安定であり、景気が大きく動く要因は見当たらない。
		金融業（営業担当）	・特に大きな変化要因はない。
		金融業（広報担当）	・基本的には持ち直し傾向は継続している。ただし、米国の新大統領の言動が金融市場に与える影響や、天候や漁獲状況などが地元経済に与える影響に関して留意する必要がある。
		広告代理店（経営者）	・期末に向けての受発注量は前年並みである。取引先のマーケティング活動も、様子見の状態であり、スピード感が無い。
		経営コンサルタント	・米国の新大統領就任により、製造業及び農業などが打撃を受けるなど、東北経済への影響を懸念している。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・地方では、大手企業や輸出企業が少ない。したがって内需があまり思わしくないため、ほとんどの企業で給料が前年を下回っている。このような状況がしばらく続くとみている。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・最近の外食産業では、団塊世代が本格的に定年を迎えた影響なのか、居酒屋の前年割れが続いている。団塊世代と若者の消費マインドは全く異なるため、今後も仕事帰りの一杯は増えそうにない。
		金属工業協同組合（職員）	・業種間の二極化が拡大している。板金、組立などは非常に忙しく、人手不足、設備不足により、一部受注を断っている企業がある。一方、一般機械加工業などの部品加工関係などは、売上が減少するなどぱっとしない状態が続いている。そのため、今後も現状維持が続くものと見込まれる。
		農林水産業（従業者）	・大雪による農業設備の被害により、出費がかさむとみている。
		繊維工業（経営者）	・全体的に販売店の売上が悪い。
		輸送業（経営者）	・一部の取引先が、3月末で生産停止をする予定であり、その影響は大きなものになると見込んでいる。
	司法書士	・例年に比べて登記所受付件数が低調であり、変化の兆しがみえていない。	
	コピーサービス業（従業員）	・ここ最近では、売上の前年比が数%減少した状態で変化なく推移している。これから官公庁中心に年度末の商談が増えてくる時期であるが、問い合わせの量及び商談予定金額自体も少ない印象を受けている。	
	×	広告業協会（役員）	・マスメディア、折込広告などの2月の受注状況は、東日本大震災後では最も悪い状態であり、原因がつかめていない。
雇用 関連 (東北)		人材派遣会社（社員）	・1月から新たに始まった大口の受託業務も円滑に進んでおり、年度末と新年度初めは期待できる感触である。
		人材派遣会社（社員）	・メーカーの設備投資は堅調である。また、2～3年後を見据えた新部門の立ち上げなど、積極的に投資をしていく方針を掲げている企業が増えている印象がある。
		人材派遣会社（社員）	・例年どおりであれば年度替りは求職者動向も活発になるため、求人依頼が増える見込みである。
		職業安定所（職員）	・学卒求人や新卒予定者の内定率は上昇傾向にあり、企業の景況感の高まりを実感している。
		人材派遣会社（社員）	・新卒を採用したい企業が、大学3年生を対象にインターシップを企画し、前年と比較してもその数は増えている。学生が選べる状態になっているため、不人気業種である飲食業、小売業においては、企業の採用意欲は高いものの、学生の集まりが悪い。
		人材派遣会社（社員）	・この先も求職者が増えるとは考えにくい。
		人材派遣会社（社員）	・採用難の状況はしばらく継続するとみている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・米国の新大統領の保護主義政策で、本県の自動車産業など輸出関連への影響が懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は上がっているものの、景気回復の実感はない。また、今後は米国の新大統領の発言を注視する必要がある。
		職業安定所（職員）	・44か月連続して求職者数は減少しており、有効求人倍率は高止まりしているが、求人倍率ほど景気が良いという感触はない。
		職業安定所（職員）	・工場の再建に伴う新たな求人がみられるが、件数として大きな割合ではない。そのため、状況としては大きな変化は見込めない。
		職業安定所（職員）	・今月は新規求人数の前年同月比が減少したが、有効求人倍率の高止まり傾向は変わらない。また、現在のところ企業の大規模な創業及び大規模な人員整理の情報はなく、近い将来景気が大きく動く印象はない。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は前年と比較して上昇を続けている。しかし、上昇要因は有効求職者の減少によるところが大きく、この先に景気が上向くような要因は見当たらない。
		職業安定所（職員）	・求人においては、幅広い業種で人手不足感がみられている。一方で、事業所廃止、合併、人員整理などの情報も相次いでおり、先行きの不透明感が続いている。
		職業安定所（職員）	・求人窓口や事業所窓口の感触では、全体的に人手不足が継続する見込みである。ただし、製造業では今後の世界経済の動向を不安視しており、建設業においては長期的な業務の縮小を予定している。
		民間職業紹介機関（職員）	・求人は依然として介護関係、サービス業が多く目立っているが、その他の業種は減少傾向にある。
		学校就職担当者	・事前の採用計画を確認したところ、新規採用や増員を予定している企業は少なく、状況に大きな変化はない。
		アウトソーシング企業（社員）	・来年度は復興予算が打ち切られるものが多いため、かなりの落ち込みが見込まれている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・米国を始めとした世界的な政情不安により、先行きが不透明である。その影響がはっきりとする2～3か月先までは、景気の悪い状況が続くとみている。ただし、もともと地方は首都圏との経済的な格差が大きいため、その影響はまだ少ないのではないかと。
	x	*	*

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北関東)		コンビニ（経営者）	・気温が高くなり花見客が増えて、飲料やアルコール、フライドフーズの動きが良くなる。
		都市型ホテル（副支配人）	・2月後半から3月中は、梅祭りやスポーツ大会で、繁忙時期を迎える。予約も順調に伸びてきている。
		ゴルフ場（経営者）	・ふるさと納税や地方創生などで、地域の一部は潤っているので、少しは波及効果があるとみている。
		商店街（代表者）	・中学校の学校販売は終わり、次は高校になるが、生徒募集数を見ても今のところそれほど減っていないし、中学の様子からみると、やはり必要な物は買ってくれるという感じで、景気にそれほど左右されないと感じている。
		スーパー（副店長）	・今年に入り降雪が非常に多く、どうしても生活圏が狭くなったり、買い控えにつながっている。数か月先には北国の待ち遠しい春の訪れとともに、気持ちも景気も少しは上向きになって欲しいと期待を込めている。
		コンビニ（経営者）	・1月あるいは2月も含めて売上は最低だが、それに比べると、春になって気温も暖かくなり、客足も増えてくると期待できるので、若干良くなる。
		コンビニ（経営者）	・春に向かって行楽シーズンとなり、来客数の動きが増える。
		コンビニ（経営者）	・前年に工事の特需があったため、3月までは前年割れ、4月からは前年比増を見込んでいる。節分などのイベント消費が良くなっているようである。
		衣料品専門店（統括）	・年末年始と来客数が激減している。これから春にかけてやや上向きになると期待できるのではないかと。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（販売担当）	・例年どおりだが、3～4月は卒業、入学、就職シーズンにあたるので、新卒の方に輸入車の新車は無理でも国産車の新車、中古車等が買ってもらえるため、販売は、毎年3～4月は良くなる。また、それに引きずられて、車検、修理等も、例年3～5月は少しずつ上向きになってくる。
		乗用車販売店（管理担当）	・ハイブリッド車の販売が好調に推移していることから、今後もハイブリッド車の人気は続く。
		住関連専門店（経営者）	・経済環境は踊り場のように感じるが、漠然とした静かな冷え込み状況からは脱却してきているようである。買物客が付加価値品にも手を伸ばすようになってきている状況や買上点数が伸びてきていることから感じる。
		スナック（経営者）	・間違いなく景気は良くなってきている。不安要素もあるだろうが、地方にはそれほど早く波及してこない。まだしばらくは上向いたままだと思う。
		都市型ホテル（スタッフ）	・これから歓送迎会シーズンに入るので、必然的に良くなるのではないかと。もっと売上を伸ばしたいと思うが、なかなか思うようにいかない。
		都市型ホテル（営業担当）	・季節的な要素は多いが、例年3～4月は良くなるため、この時期は良くなるという見方をしている。例年に比べて、特別な要素で大きく良くなるかどうかは分からない。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・長生きをした親を送る年取った子供から、「親戚も少なく、親の知り合いもほとんどいない。その上、お寺との付き合いもない」といったかなり具体的な相談が増えている。
		その他サービス〔貸切バス〕（経営者）	・前年の地元神社祭礼の慰労会や反省会旅行が実施されるため、やや良くなる。
		商店街（代表者）	・路面小売店はますます苦戦が続き、安売り大型店は栄えている。大型店の数字で景気の上下をみるのでは、景気判断はできないような気がする。
		商店街（代表者）	・イベント時のにぎわいも一過性で終わってしまう。人口減の影響が極端に出ている。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・毎年のことだが、早く暖かくなってくれないと、人が動かない。寒いので大型店は結構繁盛している。今年は、米国の新大統領就任による影響が、話題に上っているので難しい。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・新入学や新社会人生活に向けて、新たに生活用品を準備することは少なくなり、備え付けの住居を選択するケースが多い。売上に季節感もなくなり、厳しい状況は続いている。
		百貨店（営業担当）	・株は若干上がったたりしているが、個人消費が上向き見込みはない。先行きへの不安感が付きまとい、消費までには回っていない。
		百貨店（営業担当）	・クリアランスに入って好調な売上を見せ始めた衣料品群だが、今後は春物の定価品の品ぞろえとなり、再び苦戦が予想される。全体として客単価が下落していることから、2～3か月先も良くなるとは思わない。
		百貨店（販売促進担当）	・低迷した現状を覆す材料は見当たらない。化粧品や婦人雑貨など一部堅調に推移している商材もあるが、婦人、紳士衣料の不振をカバーするには至らない。
		百貨店（店長）	・前年1月は大雪の影響で落ち込んでいたこともあり、前年よりは良いものの、天候要因を除くと前年割れであり、依然として売上は厳しい。一時落ち込んでいた衣料品が多少戻している感じはあるものの、まだ鈍い。
		百貨店（店長）	・客の来店が増えない。
		スーパー（経営者）	・価格訴求性の高い商材の動きが良かったため、収益の改善については不透明である。
		スーパー（総務担当）	・食品が厳しいので、景気の良くなる兆候がみえない。
		スーパー（商品部担当）	・商圈エリア内にドラッグストアが出店したが、大きな変化はなく、現状維持ができればよいと考えている。今の課題は集客で、販促次第で良くなる可能性はありそうである。
		コンビニ（経営者）	・年末はクリスマスケーキやおせちがたくさん売れたので良かったが、1月以降はそうしたイベントがないので、売上はあまり増えず、良くなるとは思えない。
		衣料品専門店（経営者）	・今月いっぱい、41年間営業していた大型店がこの町から撤退する。大型店の影響で閉店廃業した個人店もあったが、その大型店が撤退する。この町から消費者は流出しており、購買の仕方も大きく変わっている。グローバル化で恩恵を得たものもあるが、多くの物と文化を失っている。割り切らないとならないが、リーダーたる者の資質が問われている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（経営者）	・製造業、建設業は人手不足である。大手企業は高めの賃金なので充足率はまあまあだが、中小、零細は慢性的な人手不足のようである。また、大規模小売店は来客数はそこそこあるが、売上はあまり伸びてはいない。
		乗用車販売店（経営者）	・自社の主力商品である軽自動車販売は減少している。エコカー減税の縮小や軽自動車税増税の影響もあり、今後販売が拡大する様子はみられない。
		乗用車販売店（販売担当）	・今月展示会をやったが、さっぱりだめだった。2月も第1、第2週の土日に展示会をやる。客が、2月も来ないような気がしている。この先、良くなる様子はない。
		自動車備品販売店（経営者）	・身の回りの交通量や人の出入りなど、活気、活況があるとは思えず、これからも変わらない。黙って商売をしている、じり貧である。とにかく、いろいろ考えて、販売増、利益増を試行錯誤するしかない。
		自動車備品販売店（経営者）	・所得が増加しないなかで、消費動向は低迷している。
		住関連専門店（店長）	・直近2～3か月間の来客数、売上点数がほぼ前年並みで推移している。
		住関連専門店（仕入担当）	・競合店の出店計画が数多く出されており、既存店の売上維持は厳しい。為替相場を含め不安定な状況で、楽観的な予測はできない。
		一般レストラン（経営者）	・大河ドラマの放映も終わり、現状維持ができれば御の字ではないかと思っている。
		スナック（経営者）	・これ以上悪くならないように変わらないで欲しいと願っている。現政権の政策が本当につま先で行っているのか。また、米国の新大統領就任による影響で、不安材料がどんどん出てくるような気がしている。人のせいにしては仕方ないが、本当に何か良い方法があれば教えて欲しい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・現在の売上が既に前年同期比102%程度で推移しているため、ここから更なる上積みは難しいが、会場の問い合わせは増えており、市況は良い。
		都市型ホテル（営業）	・地元企業が好調で、現在の良い状況を維持していくとみている。
		旅行代理店（従業員）	・世界情勢が不安定であり、また、米国の経済状況や動向も不透明である。
		タクシー運転手	・タクシー業界は、忘新年会シーズン、あるいは、降雪シーズンに売上が上がらなければ、低迷である。今後、2～3月、花見の時期までは、やや低迷するとみている。
		タクシー（経営者）	・全体的に動きが良くないので、この先も変わらない。
		タクシー（役員）	・客の様子から、変わらない。
		通信会社（経営者）	・加入促進に結び付くような良い材料が見当たらないため、今後も厳しさは変わらない。
		通信会社（店長）	・特段、良くなる施策も目玉も予想できない。
		通信会社（営業担当）	・例年どおりで、大きな変化は期待できない。
		通信会社（局長）	・インターネット利用は、他社携帯電話会社のセット販売の光通信の影響が大きく、新規加入が伸びない。
		テーマパーク（職員）	・好転する材料はなく、天候も不順なことから、良くなるとは思えない。
		観光名所（職員）	・雪不足の心配はなくなったが、残りのスキーシーズンは、例年客の動きが鈍い。近隣町村へ訪れるインバウンド客は大幅に伸びているが、すぐ隣である当地にはほとんど訪れていない。誘客にいろいろと工夫はしているものの、これといった決定打が見出せていない。
		ゴルフ場（総務部長）	・前年3～4月の予約状況と比較すると前年並みかやや下回っている。現在の寒さが厳しいことが要因で、景気の良し悪しではないと思われるため、変わらない。
		その他サービス[立体駐車場]（従業員）	・春の定期異動等に伴う予約や、各テナント、ホテル等の予約状況も横ばいである。単価等も変わらないということで、相対的に販売量も変わらない。
		その他サービス[イベント企画]（職員）	・世界の動きに対して、日本がどうなるのが気に掛かる。
		設計事務所（経営者）	・手間のかかる仕事依頼が多い割に、収入は少ない。
		設計事務所（所長）	・会社は全体的に下降気味で大きな変化はない。マイナスとにならないよう確実に予算をクリアできるようにしたい。
		設計事務所（所長）	・これから上向くかどうかまだ判断できない。
		住宅販売会社（経営者）	・減税等の政策がなく、長期金利も上昇する傾向でプラス要因に乏しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔衣料〕 (経営者)	・天気が良い日は続き、地域に外国人客は来ているようだが、各店から売上が増えて良かったという声は聞こえてこない。そうしたことから、景気はやや悪くなるような気がしている。
		一般小売店〔乳業〕 (経営者)	・地方の消費意欲が高まる要素がない。前年後半から高齢者の支出引締め傾向を感じる。
		一般小売店〔青果〕 (店長)	・この街のシンボルともいえる、一部上場の大企業が、接待禁止等、外での飲食等への制限をしている。街で有数の高級料理店の閉店が目に見える状況である。
		スーパー(統括)	・政治、経済情勢の振幅が不安定なためか、来店頻度は高まっているものの、1人当たりの買上点数や客単価が少しずつ落ち込んでおり、消費の先細りが懸念される。
		コンビニ(店長)	・年末年始にかけて、今までにないほど強力で予約活動を行い売上が伸びる努力をして、それが良い結果をもたらしている。ただし、若干疲れが出てきて、2~3か月後は一時中断して、それが客数減につながると思われる。
		コンビニ(店長)	・近いうちに、店舗前で道路工事が始まることになったので、客の店への出入りが難しくなると思われるため、売上は若干落ちるのではないかと懸念されている。
		衣料品専門店(販売担当)	・当店では年金頼みの客が相当数を占めている。過去には年金支給の偶数月は比較的良好な部分もあったが、暮れあたりから全くそういう雰囲気はなく、ますます財布のひもが固くなって、買物をして客単価は相当落ちてきている。この状況がずっと続くと、本当に店の展開もおぼつかなくなるような危険さを感じている。
		乗用車販売店(経営者)	・3月後半になると受注が少なくなる。
		その他専門店〔燃料〕 (従業員)	・受注も前年に比べ減少しており、下落傾向になっている。
		一般レストラン(経営者)	・この時期はお年玉等の出費も重なり、飲み歩けないとの声もあるが、2~3月には行事も多く、その動きに期待するものの大きく変わることはない。
		一般レストラン(経営者)	・当市は人口50万人の都市だが、非常に中途半端な様子である。地方都市であるので、なかなか景気が良くなる傾向にはならない。
		一般レストラン(経営者)	・良くなる要因が見つからない。また、春の行楽シーズンに向けて天候も大きく影響してくる。
		一般レストラン(経営者)	・米国の新大統領就任による影響の様子見して、お金はあるが使わないようである。人手不足が深刻で新しい仕事を増やせず、前向きな投資が出来ない状態である。
		観光型旅館(経営者)	・前年春は大河ドラマの影響で、来客に動きがあり売上は好調だったが、今年は期待できないため、景気は悪くなる。また、大雪の影響で予約の動きがやや鈍っている。
		旅行代理店(副支店長)	・米国の情勢や大雪などの天候不順が要因となり、渡航者の減少や国内企業低迷も懸念されるため、旅行消費は思わしくなく陰りがみえる。今後の受注も前年同時期と比べて7割程度となっている。
		ゴルフ場(支配人)	・今年は天候の変化が激しく、プレーヤーも天候の状況をみてから予約をするケースが多く、当日または2~3日前の予約が多い。また、コンペは非常に少ない。
		競輪場(職員)	・全国発売の記念競輪レースの売上が、60億円の大台を超えられなくなってきたからである。
		美容室(経営者)	・2月は冬型の天候で強い寒気が入ると考えられ、髪を切る人が少なくなり、売上が低迷するとみている。
		美容室(経営者)	・客の消費動向に変化が出ている。ヘアスタイルも旧来のきちっとしたものでなく、不ぞろいでもそれほど気にならず、むしろ不ぞろいを楽しんでいるようである。そのため、来店頻度に変化が起きている。当店は歴史もあるので固定客がほとんどで、新規客の獲得は難しい状況である。
		その他サービス〔自動車整備業〕(経営者)	・米国の新大統領就任による影響が悪い方に出るのではないかと懸念されている。収益体制の悪化は更に進み、生活防衛意識を高めると考えられている。
		住宅販売会社(従業員)	・別荘販売の仲介実績は前年同期を割っている。
	×	商店街(代表者)	・大河ドラマ館の入場者は、目標が50万人のところ103万人を超えた。これからは大河ドラマロスである。
	×	コンビニ(経営者)	・景気が悪い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	家電量販店（店長）	・引っ越しに伴う需要が高まる春に入るが、少子化のため、入進学を迎える子どもの数が減っており、1人暮らしのパーソナルセット品の動きは鈍いスタートとなっている。金額を引っ張る商品群が見当たらない。
	×	タクシー運転手	・1回で千円以上乗る人が少なく、1回あたり平均千円がやっとなのである。東京では1キロ410円で営業するようだが、地方では3キロ千円くらいにしないとやっていけないのではないかと。
	×	通信会社（経営者）	・若者は仕事を求めて地方から都市部に出ていき、残るのは高齢者ばかりである。売上はギリギリとなり従業員の給料も上がらない。さらに、先行きも不安だらけとなればそうそう物は買わない。売れないために価格を下げ、それによって売上が減り利益率も下がる。これが地方の現実である。
	×	通信会社（経営者）	・一向に良くなる兆しはなく、2017年の地方は壊滅的である。
企業 動向 関連 (北関東)		一般機械器具製造業（経営者）	・正月の挨拶回りで多くの取引先を訪問したが、今後、悪くなる見込みの取引先は皆無で、このような状況は数年ぶりである。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・自動車は米国への輸出が増えている。
		その他製造業 [環境機器]（経営者）	・特に、太陽光発電施設の増設が大きく、売上、粗利の比重が大きくなっている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・リニア新幹線のトンネル建設工事が始まり、その効果が少しずつ現れてくるのではないかと。
		経営コンサルタント	・相変わらず雇用はひっ迫しており、個人の給与所得はやや増加している。今年度中の生産の仕上と共に、新年度に向けてこの流れが続き、更なる消費支出、投資活動がみられる。
		その他サービス業 [情報サービス]（経営者）	・引き合い、商談件数共にやや活発に推移しており、当面は続くともみている。
		食料品製造業（営業統括）	・米国の新大統領のTPP永久離脱宣言により、米国はもろろん、チリ、オーストラリアからの輸入ワインの動きにも大きく左右される恐れがあり、今後の影響が懸念される。
		化学工業（経営者）	・現状の受注、販売を継続できそうな引き合いがあり、現状維持が少し続くと思われる。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・受注見込みは少なく、いろいろと展開しているものの、反応も少ない。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・前年同期よりやや増加している。
		金属製品製造業（経営者）	・景気が良くなるという話は全くなく、仕事量も相変わらず少なくて困っている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・前月と状況は変わらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・以前より仕事の確保はしやすくなったが、先までの受注はなく、まだ不安定要素が多い。また、コストも上がってこない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・今後3か月の受注は現状維持で推移するが、内容的には非常に厳しい状況になっている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・2～3か月先はあまりよく分からないが、とりあえず3月までは決算があるのでこの調子で行き、4月からは若干良くなる会社が多いのではないかと。
		その他製造業 [宝石・貴金属]（経営者）	・相変わらず、店頭での宝飾品売上が低迷していること、また例年2月は売上が厳しい月であることもあり、しばらくは回復が望めない。
		その他製造業 [消防用品]（営業担当）	・しばらくはこのまま推移すると考える。
		建設業（開発担当）	・現政権誕生から3年間順調に推移してきた公共事業が、今年度発注額は前年比9%減で、特に、市町村発注は同22%減と考えられない状況である。当社の受注額も同9%減と大変厳しい。今後の受注に向け営業努力するしかない。
	建設業（総務担当）	・年度末に向けて、このまま推移していきそうである。	
	輸送業（営業担当）	・今後は、新生活関連商材、特に白物家電や寝具、インテリア等は増えてくる予定である。また、引っ越し等の依頼も例年並みの予定である。	
	通信業（経営者）	・変わる要素がない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		金融業（調査担当）	・米国の新大統領就任による影響を見極めたいと考える企業が多く、慎重な姿勢が大半を占め、業況感はやや低下する見通しである。大手企業の海外拠点戦略の見直しによる影響を危惧する中小企業があるほか、為替動向の急激な変化を懸念する企業も多い。	
		金融業（経営企画担当）	・日銀金融緩和により、都会への不動産投資が進んで加熱気味である。地方の建設業では、消費税増税前の受注により、住宅着工売上は横ばいである。公共工事の受注確保ができていない業者とできていない業者があり、横ばいである。全体的な景気は横ばいと判断する。	
		不動産業（管理担当）	・来年度案件の入札が多い時期になるが、競合相手を考慮すると、なかなか受注価格を上げることは困難である。前年と同額程度で落札できれば良いというところであり、思うように売上増とならないのが悩みである。	
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・有料地域紙の広告営業で、卒業、進学シーズンに合わせた企画を進めているが、広告主が乗ってこないと嘆いている。	
		司法書士	・やはり一過性のもので、変わらない動きになるのではないかと。	
		社会保険労務士	・良くなる要因はない。材料費や燃料費などが大きく上昇しない限り、今の状況が続く。	
		食料品製造業（製造担当）	・既に閉店する店があり、販売点数はさらに減る見込みである。新規出店もなく、悪くなる方向で進むようである。更に円安に進まなければ良いが、進んだ場合は製造原価が高くなるので、一層厳しくなる。	
		金属製品製造業（経営者）	・3月は多少まともな予定だが、2、4、5月は悪そうである。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・どうやら在庫を積み増し過ぎて、生産調整をしているようで、詳しくは分からないが、ここに来て受注量があまりにも減っている。売れなくなってきているのかと感じている。	
		広告代理店（営業担当）	・毎年4月以降は大きな商戦もなく、お金が動かない。特に、広告宣伝については停滞する時期である。	
		×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・利益が上がらず、引き続き資金繰りが大変である。
	雇用 関連 (北関東)		人材派遣会社（支社長）	・求職者と求人企業双方に動きが出てきており、案件数が右肩上がりが増えてきている。先行していた求人数に対して求職者が追い付きつつあり、3月に向けての繁忙が期待できる。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・製造業の募集広告が少し増えてきているなかで、1事業所あたりの募集人数も多くなっている。	
		人材派遣会社（経営者）	・会社全体で考えると、このところは大きな上下はない。	
		人材派遣会社（管理担当）	・年度替わりの時期だが、派遣依頼は相変わらず少ない。	
		人材派遣会社（営業担当）	・ベースアップがないために購買意欲が沸かず、わずかでも貯蓄に回す人が増えるともみている。	
		職業安定所（職員）	・求人数の伸びが、やや鈍化している。	
		職業安定所（職員）	・当職安の有効求人倍率は、依然高水準で推移しており、12月では1.88倍と高水準を維持している。今年度は前年を下回る月はフルタイム、パート共にみられない。一方、月間有効求職者数が10か月連続で前年を下回っている。それに反して月間有効求人数は、前年比で5か月連続で増加をみせており、当面は、求職者数と求人数の差が開いて、人手不足、高求人倍率の状況が続く見込みだが、決して景気が良いわけではない。	
		職業安定所（職員）	・新規求人数、求職者数共に前年同月比で減少となっている。派遣、臨時などの短期的な求人は増加しているものの、常用雇用の求人減少幅が大きくマイナスとなっている。	
		学校〔専門学校〕（副校長）	・地方の問題だと思うが、求人難の企業が出てきている。求職者がより好みできる状況になっているほど、求人市場はあるものの、景気回復と直結しているとは思えない。どちらかといえば、求職者に問題があると感じている。	
		人材派遣会社（経営者）	・天候不順でまだ寒さも厳しいころで、住宅は動きが一旦ストップするような状態。また、自動車関連部品、電機などは在庫調整に入るだろうから、多少落ち着く。衣料は動きが鈍いものの、春物に向けて動きは出てきている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（社員）	・弊社は清掃業がメインである。仕事の引き合いはあるが、人手不足が非常に深刻で対応できないため、仕様を減らしてもらったり、既存客のサービス内容を縮小する方向でお願いすることが、ここ何件かあった。それに加えて最低賃金の上昇も企業の経営を圧迫している。
		民間職業紹介機関（経営者）	・目先の業務は拡大基調で求人増加中だが、正社員採用に変化はない。米国の新大統領就任による影響で経済不安が大きく、製造業では受注縮小を懸念する企業が多い。
	x	-	-

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (南関東)		その他小売〔雑貨卸〕（経営者）	・売上と利益からみて、先行きは良くなる(東京都)。
		通信会社（管理担当）	・受注が好調である法人向けソリューション案件は、受注した分の売上が立つことが見込める。個人向けの携帯電話やその周辺機器の小売も、3月の中旬に年間で一番の商戦期を迎えるため、2～3か月先は良くなる(東京都)。
		一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・3月の卒業シーズンに向けて、前年より予約件数が増えているので、少しは売上につながるのではないかと。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・年配客が多く、来店はしないが電話で注文されることが多くなってきている。家の事情をよく知っている電器店には頼みやすいので、今後も電話の注文が増えていく。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・前年までは客の様子や会話などから、何を求めているのか、物を買いに来ているのか、全く分からなかったが、今年になって多少は会話できるようになり、場合によっては成約にも結び付いている。そのようなことから、多少良くなってきているのではないかと感じている(東京都)。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・3～4月は繁忙期のため、売上の増加が見込まれる。また、3月に予定している売出しも、新聞折り込みによって、今月より来客数の増加が期待できる(東京都)。
		一般小売店〔傘〕（店長）	・入学シーズンを迎え、買いそろえの購入が見込まれる。
		百貨店（総務担当）	・シーズンごとに定期的に行っている小規模改装と、手頃な価格で人気の大型家具雑貨店の新規導入に向けた工事が進んでおり、いずれもこの春先ごろにはオープン予定である。この改装による売上の増加とともに、新規家具雑貨店の集客効果による新規客の来店も見込まれ、店舗全体への波及効果を期待している(東京都)。
		百貨店（総務担当）	・商品領域によりばらつきはあるものの、雑貨、食品需要の回復を中心に全体的に堅調な推移が継続すると見込んでいる。
		百貨店（営業担当）	・米国経済への期待による株価上昇と、インバウンド売上の回復がまだ継続する(東京都)。
		百貨店（営業担当）	・昨年12月ごろから売上高が前年を下回る傾向にあり、それが一巡するため、前年比では良い傾向が見られる。ただし、米国を中心とした国際情勢の変化が読み切れないため、消費回復にはもう少し時間がかかる(東京都)。
		百貨店（販売促進担当）	・気候的にも、春が例年より1週間早まる予測であり、寒い冬から春への転換を望む消費心理も大きく好影響につながると期待している(東京都)。
		百貨店（計画管理担当）	・前年、消費税増税の話題が上がった際に、積み立て型の友の会カードへの入会者が急増した。その客の積み立てが満期になるので、消費が活性化する(東京都)。
		百貨店（店長）	・客単価の安定と、イベント以外のアパレルの伸長が見受けられる。
		スーパー（経営者）	・米国の新大統領就任による影響がよい方向に効いてくる(東京都)。
	スーパー（経営者）	・日々成長しているため、やや良くなる。	
	コンビニ（経営者）	・受験も終わり、学生も進学や就職が決まり、安心してるところである。新生活の始まりにあたって徐々に人の動きが活発になり、来客数も増えていく。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・周りの景気としては、サラリーマン客がかなり多く、給料が出た後は相対的に売上が増える。そういう観点から見た場合は、そう悪くはない。先行きは変わらないか、または若干の上向きとなる。
		衣料品専門店（統括）	・当社の場合、2～3月が年間で最も指数の高い月であり、販促効果や客の需要等が一番上がる。
		家電量販店（店長）	・下見のつもりが即決に至るケースも増えており、財布のひもは緩くなっている。
		家電量販店（経営企画担当）	・季節指数を除いても、国内消費者、インバウンド需要が、為替の影響により改善傾向にあり、このトレンドは継続する（東京都）。
		乗用車販売店（販売担当）	・運送業、建築関係、いずれも人が足りないようである。仕事量はあるが、人が入って来ない。運送業も建築業もあまり人気のない職業なので、人が足りないということなのか、本当に景気が良く仕事量が増えて人が足りないということなのか、今の段階ではよく分からないが、雰囲気としてはやや良くなるのではないかと（東京都）。
		乗用車販売店（渉外担当）	・新型、新車種が発売になり、来客数も増え、個人消費が上向いてきている。
		乗用車販売店（総務担当）	・3月は決算月でもあり、需要が伸びてくると予想している。
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	・3月発売の新機種の予約が好調なので期待したい（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・2～3か月先の景気だが、1月はあまり良くないので、3～4月はやや良くなっていく。例年3月は忙しいので、売上も今よりやや良くなる。
		一般レストラン（経営者）	・米国の新大統領就任による影響もあるが、滞った現状が打開される期待感もあり、短期的には改善に向かう。
		一般レストラン（経営者）	・毎年春に向かうにつれ伸びていることから、やや良くなることを期待している（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	・春節や春に向けて観光シーズンとなるため、需要が伸びる。
		旅行代理店（販売促進担当）	・3～4月の入込は、前年度より良い。これから春の旅行シーズンへ向かっていくので、直近の獲得等も含め、悪い材料はない（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・3～4月は気候が良くなるとともに、旅行需要が増加する（東京都）。
		タクシー運転手	・寒い時期はまだ続くようなので、昼、夜は今まで同様に利用が期待できる。夜の飲み会は近場で行う客が多く、終電前には帰宅する。深夜の利用が戻るの、まだ先になりそうである。
		通信会社（経営企画担当）	・年度の変わり目でもあり、新年度予算での商談が増える（東京都）。
		設計事務所（経営者）	・行政の仕事は金額的に大変小さく、また、身の回りの仕事もかなり小さくなっているが、社員の増強を踏まえながら、仕事を取りに行こうと考えている。現況では、まずは社員を増やすことが第一である。1月に頑張った結果が大変良かったため、今後も、社員の増強と小さな仕事でも積極的に取っていくことで頑張りたい。
		設計事務所（所長）	・今までの動向により、良くも悪くも先が見えてくるのではないかと。悪い要因が出そろってきているようなので、そろそろ上を向いてくる（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	・今年度の上半期に比べると、客の本気度が明らかに上がっており、具体的な商談が増えている。ただし、競合も激しいため、全て販売に結び付くとは考えにくく、景気はやや良くなる程度ではないかと。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（経営者）	・今、仕事の相談がきているので、暖かくなるにつれ、仕事が増えると期待している。景気も良くなってくるとはならないか。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・おおむね仕事量も増えていることから、先行きとしては以前の停滞ムードを脱してきた感がある（東京都）。
		商店街（代表者）	・米国の新政権になって1週間がたつが、米国の発言に振り回されている感じがしてならない。米国の新大統領の話は中小零細企業にはあまり関係がない。不安定な時期であり、また、今商売のやり方が変革期にきているというのを一番感じる。今後どうなるか見据えるのがなかなか難しい状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・最近の客の様子を見ていると、懐具合があまり良くないということがよく分かる。これは給料が上がらないためではないか。この先給料が上がると感じている人が少ないのが現状である。そのため、入ったお金は極力使わないという意識がある(東京都)。
		商店街（代表者）	・米国の新大統領が失政をし、株価がブレると大きく後退するのではないかと懸念している。ただし、その逆もあり、好景気で株価が上がると、高額品を中心に良くなってくることも大いにあり得る。また、春先の気候、天候も影響しそうである。穏やかで暖かい日が続くと、消費は恐らく良い方向に動く(東京都)。
		一般小売店〔印章〕 （経営者）	・インターネット通販が非常に売上を伸ばしている。今はショッピングセンターでもインターネット販売をやっている。高齢者にとっては、外に買物に出て、重い物を持ち歩くより、自宅まで配達してくれるインターネット販売のほうが便利である。それが全てを物語っており、今後ますますそういう形の買物が多くなる。
		一般小売店〔文具〕 （販売企画担当）	・競争相手から厳しいという声が相当聞かれるので、そういう意味では今後もあまり変わらないのではないかと懸念している。競争相手が厳しいと言っているということは、価格帯がますます下がっていくということである。当社は、一生懸命に努力し、仕掛け作りをしてきたことにより上向きにはなっているつもりであるが、最終的に上向きなもの、落ちているものを考えると、あまり変わりはないのではないかと懸念している。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・相変わらず販売が低調で、新規の受注はなかなか伸びない(東京都)。
		百貨店（売場主任）	・高額品需要は伸びてきているが、中間層の客の購買需要は弱く、将来に不安があり、消費よりも貯蓄する傾向が強い。
		百貨店（総務担当）	・特に大きく変わる要素はないが、株価が順調に高水準を維持すれば、含み益などから高額品である宝飾、美術品などが動く可能性がある。ただし、主力である婦人服は依然として厳しく、アパレルは浮上する要素が見受けられない。
		百貨店（営業担当）	・例年になく気温の低い1月となっている影響で、来客数が前年比で減少している。食料品は前年並みで堅調といえるが、婦人服、服飾雑貨、紳士服、子供服等の衣料関連を始め、リビング用品、家庭用品と幅広い分野で厳しい売上がなっている。景気が上向くのはまだ先である(東京都)。
		百貨店（営業担当）	・前年、前々年に比べ一時的に気温が低いことにより、コートやセーターを買換える客が多く、好調が続いている。ただし、今後も寒さが続くと、逆に春物が売れず厳しい状況になる可能性が高い。特に、中間層の需要が見込めない(東京都)。
		百貨店（営業担当）	・既存客の購買意欲はしばらく伸び悩み、依然として厳しい状況は続くとみている。一方、新規富裕層に対する取組は一定の成果を見せており、来客数を伸ばすことで、ある程度の売上は確保できる。今後は、同業他社との客の囲い込み、取り込みが売上を左右する(東京都)。
		百貨店（営業担当）	・主力の婦人ファッションはアパレル、雑貨とも復調の兆しが見えない状況であり、好材料が見つからない(東京都)。
		百貨店（販売促進担当）	・特選ブランドや宝飾品等で回復がみられ、売上がプラスに転じつつあるものの、主力の衣料品で相変わらず前年割れの状況が続き、回復の兆しがなかなか見えてこない(東京都)。
		百貨店（販売促進担当）	・米国の新大統領就任による影響を受けた株価の動きや、春闘による賃上げがどうなるか、また、それが実感として感じられるかなどがはつきりしないうちは、消費意欲は盛り上がることはなく、景気は変わらない。
		百貨店（店長）	・米国とロシア、中国、韓国等の動向が、しばらく不透明感を高めたままとなることで、景気に影響を与え続ける。
		百貨店（副店長）	・世界経済を含め、不安定要素が多く、先行きが見通せない状況が続く。
		百貨店（営業企画担当）	・米国の新大統領就任による影響に注視が必要である。日本企業が打撃を受けるようであれば、個人消費にも影響を及ぼす恐れもある(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（販売担当）	・競合店との価格競争もあり、商品の平均単価が下がっている。客の買上点数は前年を上回っているが、平均単価が下がっている分、客1人当たりの買上額が前年になかなか届かない。この状況はしばらく続いており、今後もまだ続く(東京都)。
		スーパー（経営者）	・このままあまり良くない状態が続くと思うので、先行きは現状と変わらない。ただし、米国の新大統領就任による影響やヨーロッパの状況が、日本にどのような影響を及ぼすかは分からない。それにより変わってくるのではないかと。
		スーパー（店長）	・午前中の来客数が特に落ちているが、これは年配客が多い時間帯である。当店は駅前にあるため、夕方～夜間、電車から降りてきた人が来店するのだが、やはり来客数、点数共に軒並み落ちている。今の状況に鑑みて、特にこれといった要因はないが、3か月後も同じような形でいくのではないかと。思われるので、先行きは変わらない(東京都)。
		スーパー（店長）	・春に向かい、生活雑事が増えてくるのは好材料になるが、全体的な底上げにはしばらく時間がかかる(東京都)。
		スーパー（店長）	・来客数は増えているが、客の様子からは高品質商品、または低価格商品の二極化がみられる。全体的には、1人当たりの買上点数が若干減少し、1品単価も下落傾向である。
		スーパー（総務担当）	・来客数は前年比5%割れの状況がこのまま続く。その理由としては、客の購買力の強さが見えないということ、客が追い求めるような大きな流行が見当たらないことである。また、イベント時には瞬間的に売上が増えるが、それ以外での来客数、買上額が落ちているため、全体としては月間を通して前年をやや下回る状況が続く。
		スーパー（営業担当）	・米国、英国を中心とした世界経済の動きが、今後日本経済に与える影響が大きくなっていく(東京都)。
		スーパー（仕入担当）	・米国の新大統領就任による影響で、TPPからの離脱、関税の引上げ等、米国に対する不透明感があり、不安材料となる。
		スーパー（副店長）	・米国経済や貿易の不透明さもあり、しばらくは様子見の状況になる。春の賃金改定のベースアップなどが弱い場合は、消費は上向かない。
		コンビニ（経営者）	・周辺の状態をみると変わらない。
		コンビニ（経営者）	・年度末にかけてやや良いが、今の状況からみるとそんなに良くはなく、変わらない。
		コンビニ（経営者）	・期待できる要因が今のところ考えられない。
		コンビニ（経営者）	・小売店でも周りに何かできるとか、東京オリンピックなど、上向き要素が全くないので変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・今後の円相場の変化により不透明なところはあるが、現状では大きく変わらない(東京都)。
		コンビニ（商品開発担当）	・来客数が回復するようなきっかけもなく、依然として厳しい状況が続く(東京都)。
		衣料品専門店（経営者）	・2月の端境期は、バーゲンセールで冬物衣料が厳しくなる。
		家電量販店（店員）	・今後、劇的な変化がない限り、景気の回復は難しい(東京都)。
		家電量販店（統括）	・米国の新大統領就任による影響で、4月以降は読めない。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備と販売をやっている。整備は順調に入っているが、販売はあまり芳しくない。新型車が出ており、客も結構来店するが、なかなか成約には結びついていない。
		乗用車販売店（経営者）	・既存客の新車の買換えは増えてきているが、新規客はまだ増えてきていない。
		乗用車販売店（営業担当）	・決算が過ぎると、エコカー減税の税率が変わるので、反動減が起きるのではないかと。
		住関連専門店（営業担当）	・リフォーム業界においては、住宅ストック循環支援事業による需要の刺激が期待されたが、現状その認知度は低く、効果は限定的である。今後も大きなプラス効果は期待しづらいが、特段の悪化材料もないため、しばらくは現状維持とみている(東京都)。
		その他専門店[ドラッグストア]（経営者）	・当店の販売量として、どうみても先行きが良くなるような動向とは思えないので、変わらない。
		その他専門店[貴金属]（経営企画担当）	・2016年後半から販売量は上向き傾向にあるが、販売単価の変化は見られない。同業他社の動向を見ると、前年並みの売上を確保することに苦戦を強いられている企業も多い。したがって、今後は一定の状態を維持する(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売〔ショッピングセンター〕(統括)	・世界的な経済不安要素も、前向きな購買マインドも生まれない(東京都)。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕(営業)	・こういう不安な時代では、財布のひもも固くなりがちなのではないか(東京都)。
		高級レストラン(副支配人)	・法人関連の宴会予約状況は、ほぼ前年並みである(東京都)。
		高級レストラン(仕入担当)	・先々の予約状況等からみても、ほぼ前年並みと見込んでいる(東京都)。
		一般レストラン(経営者)	・一時の爆買いのような現象は影を潜めてきている。外国人観光客も、増加している国柄、宗教、地域を見ると多岐にわたっている。受け入れ側の工夫もこれから大変重要となってくる(東京都)。
		一般レストラン(経営者)	・3か月後も今と変わらず決して上向きにはならない。米国の新大統領就任による影響で、日本経済もやや悪くなる。下手をすればすごく悪くなっているのではないかと。経済が安定しないと消費も安定しない。
		一般レストラン(経営者)	・相変わらずデフレが続いているが、仕入値は高騰し、原価率が上昇している。人手不足も深刻さを増してきており、人件費も上昇している。米国の新大統領就任による影響で、消費動向が不透明である(東京都)。
		その他飲食〔居酒屋〕(経営者)	・特に変わる要素が見当たらない(東京都)。
		都市型ホテル(スタッフ)	・米国の動きがどうなるかで相当左右されるので、変わらないというよりは分らない。
		都市型ホテル(スタッフ)	・海外情勢の不安や国内景気の低迷などの影響から、好調だった宿泊も勢いがなくなりつつあり、ホテル全体の先行予約も例年並みの状況が続く。明るい話題としては、大型コンベンションの開催が数件あり、期間中は多少なりとも恩恵が受けられると思うが、大幅に景気が改善されるわけではなく、変わらない状態が続く。
		都市型ホテル(総務担当)	・例年2月は来客数、販売量共に落ち込むため、平均すると良くなるというよりは変わらない。
		旅行代理店(従業員)	・新規の販売は前年並みで、伸びていない。
		旅行代理店(営業担当)	・バスツアー離れが続いている(東京都)。
		タクシー運転手	・正月も過ぎ、いよいよこれから新年度がスタートするが、どちらに動くのか、どういう動きをするのかまだよく分からない状態で、皆迷っている。いずれにしても、あまり期待できない話が多い。
		タクシー(経営者)	・米国の新大統領就任による影響で、しばらくは様子見が続く、財布のひもが固くなりそうである。
		タクシー(団体役員)	・市場の景気判断が難しいため、「分からない」と回答したい。
		通信会社(経営者)	・国家財政や米国の新大統領就任による影響への不安がある一方、個人資産、収入は増加しており、プラスマイナスゼロである(東京都)。
		通信会社(社員)	・客に動きがない(東京都)。
		通信会社(営業担当)	・繁忙期に向けた引き合いも増えてくるが、他社との価格面での競争も厳しくなっており、全体的には横ばいの状況が続く。
		通信会社(営業担当)	・マーケットをほぼ訪問し尽くしており、客への定期的な訪問期間が短くなっている。訪問回数も多く、入居の入替えない客の新規契約は難しい(東京都)。
		通信会社(営業担当)	・競合他社も手軽かつ安価なサービスで対抗しており、この傾向は続く。
		通信会社(管理担当)	・新入学シーズン前の戦略は、各社が同じように取り組んでいて、三つどもえのマーケットになっている。格安スマホがどれほど伸びるのが、今後の鍵である。
		通信会社(局長)	・4Kサービスに期待はあるが、まだその時期ではないので、当面は現状維持であろう(東京都)。
		通信会社(営業担当)	・景気向上につながる材料が見えない。株価は上昇基調ともいえるが、一般庶民レベルには何も降りてこない。
		通信会社(総務担当)	・大きな景気変動の兆しも見られず、米国の新大統領就任による影響を受けた経済変動も、今のところあまりみられない(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		ゴルフ場（経営者）	・前月まで非常に良い推移であったため良くなると回答したいのだが、今月が例年に比べてもあまりに不調なので、変わらないと判断している。
		ゴルフ場（従業員）	・米国の進む方向は、日本のみならず、世界に大きな影響を与えるが、良い方向に向かうとは決して思えない。せめて現状維持できればと期待している。
		ゴルフ場（企画担当）	・2～3か月先の予約状況は、例年に比べやや少なめである。
		ゴルフ場（支配人）	・例年並みの集客は出来ているが、客層の状況から判断して今後もあまり変化は感じられない。
		その他レジャー施設（経営企画担当）	・予約状況などは堅調であるが、賃上げによる消費マインドの向上は限定的で、景気の先行きに変化はない(東京都)。
		その他サービス[学習塾]（経営者）	・生徒数は下げ止まった感があるが、同業他社の授業料を勘案しても、生徒の奪い合い等が考えられ、今のところ単価が上がったり、生徒が増えたりする傾向にはない。
		その他サービス[福祉輸送]（経営者）	・最近の新車需要は、生産がモデレートに行われるため、始めの3～4か月はある程度効果がある。それ以降は納期が非常に長引き、徐々に落ちていくという形をとるのが普通なので、2～3か月先までは一定の需要が続く(東京都)。
		その他サービス[立体駐車場]（経営者）	・良くなる要因が特にない。
		設計事務所（経営者）	・今のところ、もらった話はほぼ全て動いており、更なる話はまだもらっていない。
		設計事務所（職員）	・米国の新大統領の政策方針からいろいろ言われているが、当面大きな変化はない(東京都)。
		住宅販売会社（従業員）	・ユーザーの検討時間が長く意思決定に時間がかかっている。これを改善する政策等の要素が感じられないため、ユーザーの慎重度は変わらない(東京都)。
		住宅販売会社（従業員）	・情報数は若干増えているが、客の動きはまださほど活発ではない。
		住宅販売会社（従業員）	・来場者の減少は新規顧客の減少に直結するため、受注が増えない。
		商店街（代表者）	・米国の保護主義政策の影響がいつ日本に出てくるのか、誰もが戦々恐々としている。そのため、将来への思い切った投資などが控えられている(東京都)。
		一般小売店[茶]（経営者）	・年末年始のお茶を買う客が戻ってきているが、来客数、売上共に1割の減少が続いている。
		一般小売店[家電]（経理担当）	・米国の新大統領就任による影響で、世の中がどうなっていくのか不安を口にする客が多くみられる。余計な出費を抑えとか、守りの姿勢の客が多い。欲しいと思う商品があまり見受けられないのは残念である。
		一般小売店[祭用品]（経営者）	・閉店が相次いでおり、先行きが不安である。
		一般小売店[家電]（経営者）	・米国大統領の今後の政策に対する不安感から、消費が落ちるのではないかと(東京都)。
		スーパー（経営者）	・買物回数が減少している。
		コンビニ（経営者）	・単価は横ばいだが、来客数がどうしても増えない(東京都)。
		コンビニ（経営者）	・世界的な政治状況からみて、後退していく(東京都)。
		コンビニ（経営者）	・店舗の増加により、1店舗の売上、来客数共に減少していく。1店1店の商圏は更に小さくなっている。
		衣料品専門店（経営者）	・物価が安くなった分、年金支給額を減らすとの報道がある。金額的には大したことではないと思うが、消費者心理が冷えてしまうのではないかと心配している。
		衣料品専門店（経営者）	・米国の新大統領就任による影響ではないが、経済にもいろいろ不安があふれていて、直接関係があるかは分からないが、客の動きが悪い。今後も良くなる要素がないので不安である。
		衣料品専門店（営業担当）	・なんら景気が上がる要因もなく、冬枯れの状況である。春物の動きも遅く、営業することが難しい。1～2月はかなり厳しい数字になってきている。
		住関連専門店（統括）	・現在のところ、景気が上向き要素が見当たらず、消費者の買い控えは今後も続く。
		その他専門店[ドラッグストア]（経営者）	・米国の動向による影響は、買い控えに走らせる可能性があるため、非常に危惧している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・ショッピングセンター内で物販の中心となるファッションは厳しい環境が続く見込みのため、やや悪くなる。
		高級レストラン（経営者）	・身の回りでは、企業の業績が伸びているという話はあまり聞かれず、家庭では外食に使える費用が減らされていると聞く。
		一般レストラン（経営者）	・どの客からも、今年は良くも悪くも米国の新大統領就任による影響次第というような話がよく聞かれる。米国からどのような政策が打ち出されるかまだ分からないので、期待と不安が入り混じった状態である。株価も不安定なので、しばらくは弱含みで進む（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・日本の現況で景気が良くなる要因はない。
		一般レストラン（経営者）	・来月の宴会予約数は少ないが、3～4月は歓送迎会シーズンなので、また予約数を増やせるように、今後も頑張っていきたい（東京都）。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	・人件費等を中心に経費増が見込まれ、利益改善の糸口が出てきては消える状態の繰り返しを強いられている。労働集約型の事業者にとっては非常に苦しい状況が続く（東京都）。
		旅行代理店（経営者）	・年度末になるため、客がなかなか動こうとしない。
		旅行代理店（従業員）	・日本を取り巻く環境がどのように変化し、我々の生活にどう影響を及ぼすことになるか、予測が難しい。良くなる材料が不明瞭である（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・米国の新大統領の対日政策が見えないなか、不安材料が先行し、景気上昇が見込めない（東京都）。
		タクシー運転手	・米国の新大統領就任による影響は、日本経済にプラス効果もあるが、政策運営次第では大きなリスクとみている。選挙戦で示した保護主義的な貿易政策やドル安志向を強く打ち出す可能性も否定できない。大幅な円高が進行し、輸出や企業収益が減少すると、日本の景気にもマイナス影響が生じ、景気はやや悪くなる（東京都）。
		タクシー運転手	・個人タクシーだが、資金力のある法人の時代になりつつあると感じている。個人タクシーが減車し、数が減っているため、客の流れが法人へ向かっている。特に、資金力のある4社が、客としての会社をまとめている。また、料金の改定があり、具体的には近距離がやや安くなり、遠距離がやや値上がりするが、今のところ客の反応が今一つつかめない（東京都）。
		通信会社（経営者）	・大手キャリア回線卸しを利用した他社モバイルによる固定インターネットの解約攻勢が引き続き活発化し、さらに大手インターネット通販サイトの提供する視聴サービスや、動画、音声などのコンテンツサービスの浸透によるテレビの解約も増えている。今後もこの動向は続く（東京都）。
		パチンコ店（経営者）	・パチンコ、スロットいずれも、高射幸性遊技機という、客にとってはギャンブル性があり面白い機械が、前年で全てなくなっている。そういったギャンブル性を求める客の来店が減っているため、その分がややマイナスである。ある意味では遊びという本来の形に戻ったので、客に楽しんでもらいながら、営業を続けていきたい。ただし、やはり厳しいので、先行きはやや悪くなる（東京都）。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・年度替わりに期待はできるが、売上や単価の低下は避けられそうにない。消費者の購入意欲に陰りがみられる。
		その他サービス〔電力〕（経営者）	・2016年の新築マンション販売状況が発表されたが、販売数も契約率も低い。原因となる販売価格の高止まりは今後も続くため、マンション供給量に影響を受ける当社としては、厳しい状況が続く（東京都）。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・最近の入塾者数が減少傾向にある。
		設計事務所（経営者）	・官庁頼みの受注から脱却して初めて景気の上向きを実感できるが、全くその気配が感じられない。受注のために価格競争に加われば、いずれそのツケは自身に降りかかる。日本の内外で不確定要素が多すぎることも不安材料である。
		設計事務所（所長）	・全体的に、仕事が非常に少ない。
		住宅販売会社（従業員）	・現在の販売は好調だが、金融機関の情報によると、エンドユーザー向けアパルトローンが徐々に厳しく審査される予定なので、富裕層や相続対策目的の客に絞られてきそうである。金融情勢をしっかりと押さえないと厳しい状況になる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	一般小売店〔食料雑貨〕(経営者)	・人口は減少しているのに、競合店の出店により、商業面積は増え続けている。
	×	コンビニ(経営者)	・人手不足が加速し、24時間営業が不可能な状況に近づいていると同時に、人件費の高騰や保険の負担増など厳しさが増し、本部との契約更新を諦め、順次店舗の閉店を考え始めている。
	×	衣料品専門店(店長)	・販売量の減少に加え、単価も下落傾向にある。
	×	タクシー運転手	・米国の新大統領就任による影響から、消費者は経済の先行きに不透明感を感じ、景気が良くなるとは思えない。良い材料がない(東京都)。
	×	観光名所(職員)	・観光地かつ山のため、2～4月は1年で一番の閑散期となる。そのため、1月よりは悪くなる(東京都)。
	×	住宅販売会社(経営者)	・住宅が全く売れないため、先行きの景気は悪くなる。住宅が売れると経済波及効果は大きいので、対策をとってもらわないと、もっと悪くなる。公共工事も発注価格の見直しをしてくれないと、利益の出ない工事ばかりで景気が悪くなるばかりである。
企業 動向 関連 (南関東)			
		食料品製造業(営業統括)	・現時点では鈍化しているものの、売りたいものが売れてきている。天気の良い悪しにもよるが、徐々に回復してくれることを期待している。
		出版・印刷・同関連産業(経営者)	・例年、年度末、新年度の時期に受注量が増加する(東京都)。
		出版・印刷・同関連産業(営業担当)	・法人関係では、機材を扱っている会社が、発展して広い新社屋に移転するという動きがあったり、珍しいことだが、ゴム印で同じものを8個、縦横で2種類ずつ、その他のものでかなりの特需があった。これから発展していく会社の動きを見た感じである(東京都)。
		プラスチック製品製造業(経営者)	・米国の新大統領就任による影響で、新しい政策が打ち出されているが、まだ不安定な部分が多く、全体的にいろいろ探っている状態である。そのため、しばらくは景気は良くなるらない。
		金属製品製造業(経営者)	・今年の上期は得意先の計画が増えている。
		電気機械器具製造業(経営者)	・世界経済の恩恵が広がってくれば、若干良くなると期待している(東京都)。
		建設業(経営者)	・政治も安定してきているので、マスコミが正しい報道をしてくれば良くなる。
		建設業(従業員)	・今後の米国からの影響が大きくなる前に、何か対処しようとしている。
		建設業(営業担当)	・春先に向けて、案件が増えており、客との調整をしているなかで受注確率も上がってきている。
		輸送業(経営者)	・新年度を迎えるため、2～3か月先の取扱量は現状より増加し、多少明るさが戻ると見込んでいる。燃料価格が上昇していることが気がりである(東京都)。
		通信業(広報担当)	・中小企業のIT投資はまだ不十分で、しばらくは底堅く推移する見込みである(東京都)。
		経営コンサルタント	・中国景気が低調のなかで、国内としては、ある一定の生産活動の動きが出てきたのではないかと。中国からの製造の引上げについても目につく(東京都)。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕(経営者)	・3月～4月と新規物件の受注が決まっている(東京都)。
		その他サービス業〔情報サービス〕(従業員)	・3月末まではこのまま若干の受注量増加傾向が続く。
		その他サービス業〔ソフト開発〕(従業員)	・人が動くようになれば、消費も上向きになり、上昇傾向になるのではないかと。
		食料品製造業(経営者)	・賃上げの話題がよく聞かれるようになり、小規模店舗では人材を集めにくくなってきている。
		化学工業(従業員)	・国内での先行受注状況は横ばいであるが、3～4月に東南アジアへの輸出が少しあるので、トータルでは変わらない。
		プラスチック製品製造業(経営者)	・これといった投資案件や新企画も見当たらず、たまに来る見積依頼も海外単価と比較されるため、成立に至る可能性は極めて低い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（経営者）	・仕事が切れ目なく続いており、受注残も増えてきている。
		金属製品製造業（経営者）	・生産コストを下げるために、設備投資を計画し、実行している。新規得意先を得るべく、活発に営業活動を行い、利益確保に努めたい。
		一般機械器具製造業（経営者）	・全体的に受注量が増えてきているが、来月の内示量はさほど多くないので、同じくらいのペースでいくとみている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・引き合い状況や取引先の動向から、今より多少は良くなる（東京都）。
		精密機械器具製造業（経営者）	・現在、各メーカーは米国の新大統領就任による影響で混乱している状態である。今後TPPや2国間交渉などいろいろなことが決まっていくが、当社の取引先は海外からの影響が大きいので、不安である。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	・得意先、材料屋等において、特に変わるような情報はないので、先行きも変わらない。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・米国の新大統領就任による影響等も美容業界には全くない（東京都）。
		建設業（経理担当）	・製造業の工場建設に向けての商談中である。仕事量は増加しつつあるようだが、単価が抑えられており、収入増があまり望めないようである。そのためか、設備投資額も抑え気味であり、VE（バリューエンジニアリング＝価値を下げずにコストを下げる）作業の連続で、予算削減に努力している最中である。製造業も含め、適正な利幅で活動しなければ、世の中の景気が元企業で終わってしまい、お金の流れが世の中には回ってこない。
		輸送業（総務担当）	・既存顧客からの新規案件はなく、今のところ新年度以降も良くなる気配を感じない。
		金融業（統括）	・米国の景気情勢がよく読めない。
		金融業（従業員）	・積極的に業容を拡大している企業と、地域の小規模事業者との間で、業況に温度差がみられる。また、米国の新大統領就任による影響で、主に製造業で為替の動向を懸念する声が聞かれる（東京都）。
		金融業（支店長）	・今後も米国の新大統領就任による影響で株高が進む可能性があるが、景気が良くなる見込みはあまりなく、当面、横ばいである。
		金融業（営業担当）	・不動産、小売業共に好調となるが、米国の新大統領就任による影響次第で先行きの景気が落ち込む可能性もあり、どちらともいえない（東京都）。
		不動産業（経営者）	・1月になって来客数が少ない。2月以降に期待したい（東京都）。
		不動産業（総務担当）	・合併が理由にせよ、大きなスペースの解約予告が出ている。新たなテナント誘致戦略を立てるが、今後2～3か月以上先は見通せない状況である（東京都）。
		広告代理店（従業員）	・売上、受注等は前年同期並みで推移している（東京都）。
		広告代理店（従業員）	・一時的に宣伝費が上がっても、ピークが過ぎればすぐに落ち着く。
		広告代理店（営業担当）	・現状ではなんともいえない。期末ということもあるので、当面は、世界及び国内情勢も踏まえ、変わらない（東京都）。
		税理士	・米国の新大統領就任による影響で、米国の景気がどんな展開になっていくのか。バブルがはじけると言われている中国の景気がどうなるか。米国、中国の動きによって日本経済は大きく影響を受ける。ただし、日本国内を見ると、アベノミクスや東京都知事など政治が経済をけん引しているので、やや良くなるか、変わらないというところである（東京都）。
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。
		税理士	・米国の新大統領就任による影響で、大手自動車メーカー批判や日本パッシングが具体化してくる。日本の実績や米国への取組を理解してもらうには時間がかかりそうであるが、すぐに景気に作用するとは思えないので、横ばいではないか。
		経営コンサルタント	・工務店経営者の話によると、一向に人手不足が解消されない。仕事の受注にはさほど苦労していないが、積極的に取りに行けない。また、現在在籍している従業員に辞められては困るので、競合他社を見ながら、給与、時給を上げている。このため、売上に占める人件費比率が上昇し、利益が出にくくなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス業〔廃棄物処理〕(経営者)	・市場を活性化させようと取引先も努力しているが、同業他社との競争も激しくなっており、値下げ対応に追われている。差別化、独自戦略をいかに打ち出していくかがポイントとなりそうである。
		その他サービス業〔警備〕(経営者)	・しばらくは現状維持で推移する。
		その他サービス業〔映像制作〕(経営者)	・海外輸出を主とする取引先が多いために、米国の今後の成り行き次第で変わってくる可能性があるため、今のところはよく分からない(東京都)。
		繊維工業(従業員)	・昨今、世界では驚くべき出来事が多い。まず、米国の大統領選における、事前の予想と異なる候補者の当選。また、英国のEU離脱問題等があり、世界経済において不安定感が強まっている。そうした意味では先行きが見えない状況なので、厳しいのではないかと(東京都)。
		建設業(経営者)	・米国の新大統領就任による影響で振り回され、安定しない。
		輸送業(経営者)	・海外の政治的な情勢が安定してくれば、景気もやや上向いてくるのではないかと。
		輸送業(経営者)	・米国の新大統領就任による影響で不透明さがあるため、やや悪くなる(東京都)。
		輸送業(総務担当)	・荷主の2月の出荷予定は、年末年始に比べ大幅に減少する見込みである。
		金融業(役員)	・米国の新大統領就任による影響が不透明であり、このまま積極的な経営を続けても大丈夫かという声が聞かれる。
		その他サービス業〔ソフト開発〕(経営者)	・株価の低迷により、予算の付き方が微妙である(東京都)。
	×	出版・印刷・同関連産業(所長)	・コスト見直しだけならまだ良いが、案件自体を中止するケースも多々出ている。今年は非常に苦しい年になりそうである。
	×	通信業(経営者)	・米国の新大統領就任による影響で悪くなる。
	×	広告代理店(経営者)	・次年度の見込みがついてきたが、最も粗利率の良い仕事で、次年度はなくなることがほぼ決定している。さらに、取引先自体も売上不調で荒れており、穴埋めの売上はほぼ見込めない。
雇用 関連 (南関東)		人材派遣会社(営業担当)	・2018年以降発生する労働者派遣法、労働契約法関連の期間制限についても、無期転換の方向へかじを切る企業が増えてきている(東京都)。
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	・年度末にかけて大きな動きが7つあり、その分がかなり見込まれるということで、3月は相当に良いと予測している。2～4月まではかなり良い状況が続く。
		人材派遣会社(支店長)	・求人数はわずかながら増加傾向である。
		求人情報誌製作会社(営業担当)	・人材確保に対して長期計画を立てている企業が増えている。
		民間職業紹介機関(経営者)	・米国の新大統領就任による影響が、一時的な高揚感があり、企業採用担当者の大学訪問が増え始めている(東京都)。
		民間職業紹介機関(経営者)	・新規事業、商品開発、海外事業の展開などには常に力を入れており、幅広い求人の増加につながる(東京都)。
		人材派遣会社(社員)	・中企業の経営者の話のなかでは、米国大統領選で予想外の候補が当選したこと、中国及び韓国の状況が非常に悪いこと、原油価格が徐々に上がってきていることなどから、3月ごろまでが非常に心配であるとの声が多い(東京都)。
		人材派遣会社(社員)	・各業界の求人倍率は依然として高止まりしている。求人意欲は旺盛だが、集客難が続く。広告予算投下についてはシビアになりつつあり、受注単価も下落傾向が続いている(東京都)。
		人材派遣会社(社員)	・構造的な人材不足が続くため、企業からの求人件数は堅調に推移する。
		人材派遣会社(社員)	・景気回復が見込める施策が見当たらない(東京都)。
		人材派遣会社(支店長)	・優秀な人材の争奪が歳月を追うごとに激しくなり、待遇の良い直接雇用が増えてくる。結果として、派遣で働く人は減少する傾向にある(東京都)。
		人材派遣会社(営業担当)	・求人数は増えているが、慢性的な人材不足の状態が続いている(東京都)。
		人材派遣会社(営業担当)	・自動車産業を中心とし、日本の製造業の勢いはまだ強い(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報誌製作会社（広報担当）	・あまり良くなる要素が感じられない(東京都)。
		職業安定所（職員）	・前年度と比較すると、新規求人数は7か月連続で増加している。また、月間有効求人倍率も2倍を超す高水準を維持している。
		職業安定所（職員）	・企業の採用意欲は依然として強く、新規求人数の増加傾向は今後も続く(東京都)。
		民間職業紹介機関（経営者）	・先が読めない。米国の新大統領就任による影響で、日本でも景気が良くなるのだろうかという待ちの姿勢がみられる(東京都)。
		民間職業紹介機関（職員）	・企業の来期の計画策定において、採用に関するトーンが変わっている傾向はみられない(東京都)。
		人材派遣会社（営業担当）	・人材派遣市場における求人数は増加していくが、それに逆行し求職者数は減少していく。そのため、採用数という観点では、全体的に若干減少するのではないかと。
		職業安定所（職員）	・平成28年11月の新規求人数は前年比4.2%減少と、前月に続きマイナスとなっている。また、月間有効求人数も、平成26年6月以降プラスで推移していた前年比がマイナスに転じている。なお、主要産業別の新規求人では、製造業を除く全ての産業で前年比マイナスで、特に、情報通信業及び卸売、小売業の減少幅が大きい。
		職業安定所（職員）	・米国の政策に影響される。
		職業安定所（職員）	・米国の新大統領就任による影響で、政策転換に伴い、株価、為替相場が変動している。
		学校〔大学〕（就職担当）	・米国の新大統領就任による影響で、やや悪くなる(東京都)。
	x	-	-

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (東海)		*	*
		商店街（代表者）	・米国の新大統領就任による影響で、先行きは更に良くなる。
		商店街（代表者）	・米国の新大統領就任による影響で株価が上昇し、景気全体に上昇感がみられる。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	・新年度で受注が活発になり、販売増加が期待される。
		百貨店（経営企画担当）	・株高を背景とする高額品需要、春節による外国人の購買意欲の高まりやバレンタイン催事の好調が見込まれる。
		スーパー（店員）	・客には買い控えはみられない。寒さのためか鍋物等の食材やみかん等が順調に売上を伸ばしている。
		スーパー（店員）	・少しずつ来客数が増加し、購入量も増えているので期待が持てる。
		スーパー（総務担当）	・節分の恵方巻きの予約数が、前年をやや上回っている。
		コンビニ（企画担当）	・規制緩和や経済政策によって働く人が増え人の動きが活発になれば、便利さを求めるニーズも高まる。東京オリンピックに向けて、インバウンドも増え続ける。
		家電量販店（店員）	・景気は底を打ち、じわじわと上昇へ転じている。
		乗用車販売店（従業員）	・年度末の決算時期を控え、新型車種の客への浸透も進み、客足が活発になる。
		乗用車販売店（販売担当）	・看板車種がフルモデルチェンジを迎える。主力商品なので、今後は販売量が増加する。
		乗用車販売店（経理担当）	・既存の車種については相変わらず厳しいが、一部の人気車種が支えてくれる。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・異動の時期を迎えるので、物品の購入が増える。
		その他専門店〔貴金属〕（営業担当）	・株価の上昇に伴い資産を蓄えようという動きもみられる。金相場が上昇しており、金を購入する客もいる。
		高級レストラン（役員）	・正月三が日の売上高は前年を上回る盛況で、降雪の影響を差し引けば、その後も来客数は前年同期を上回る状況が続いている。
		一般レストラン（経営者）	・職場での異動等、人の動きが増える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（従業員）	・年度末に向けての追い込みで、土木建築、水道工事関係者は忙しく、店に来る回数が減ると口にしつつも、飲食を楽しんでいる。
		観光型ホテル（経営者）	・大河ドラマ放送の効果が始まっており、県外からの大口団体予約が次々と決まりつつある。話題性による一時的なもので、どれくらい続くかはわからないが、追い風によって宿泊客の増加が見込まれる。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数の動きから先行きはやや良くなる。
		旅行代理店（経営者）	・春に向かって先行きに悪い材料もなく、少しは良くなる。
		旅行代理店（経営者）	・3月ごろには新年度の予定も決まり計画が立てやすくなるため、予約数が増える。暖かくなれば外に出かける機会も増える。
		通信会社（営業担当）	・料金よりもサービス面を重視する客が出てきている。
		美容室（経営者）	・卒業・入学等のイベントが多くなり、それに伴って来客数が増加する。
		美容室（経営者）	・2～3か月先は、暖かくなって外出機会も多くなる。パーマや毛染めをしたり、カットの客も増える。入学式や結婚式等で着付けの客も増えるため忙しくなる。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・働き方改革と残業時間管理の厳格化等により有効求人倍率は更に上昇する。働く人の意識も変化し、高齢になっても働き続けるため、高齢者の消費や生活の充足感を満たす消費は、増加が見込まれる。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・春にかけて福祉用具レンタルの出荷量の増加が見込まれる。
		住宅販売会社（従業員）	・足元の販売ペースはゆっくり推移しているが、3月の期末に向けて徐々に回復する。
		商店街（代表者）	・客はついで買いをしない。贈答用の必要な分だけでなく自家用にも買うようにならないと、販売量や売上高は改善しない。
		商店街（代表者）	・我が国と米国との関係は、良くなるのか悪くなるのか全く読めない。
		商店街（代表者）	・明るい兆しは全くみられない。変わるとしたら悪くなる方であり、良くなることはない。
		商店街（代表者）	・個人消費が上向きにならなければ、現状維持が精一杯で今以上は良くならない。
		一般小売店〔結納品〕（経営者）	・良い材料がないため、このままから景気が上向きようには考えられない。
		一般小売店〔高級精肉〕（企画担当）	・我が国の経済にとって、米国の新大統領就任における影響がプラスかマイナスかがわからない。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・大きなイベントもなく、当面はあまり現状と変わらない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・客の様子からも財布のひもは依然として固く、景気が良くなるとはなかなか思えない。
		一般小売店〔薬局〕（経営者）	・インフルエンザの流行で通院する人が安定的にいたので、調剤部門の業況はあまり変化しない。一部の企業を除いて景気は落ち込んだままで、商店街も閉店した店が多く人通りはまばらである。同じビルのテナントからも、嘆きの声しか聞かれない。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・プラスの状態で横ばいが続く。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・1～2月も飲食店では閉店が続き、取引先の5%くらいとなる。同業者の販売店でも廃業するところが出ている。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・客層は二極化しており、全体的にはバランスをして売上は変わらない。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	・以前は、期待を込めて少し良くなると見込んでいたが、政治や政策には変化がないため、米国でよほどの変化がない限りこのまま変わらない。
		一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは今の状況から変わらない。
		一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	・世界の情勢も国内の情勢も先行きが見通せない。贈答品や高額品等の商品に対する影響が大きいと、業況がどうなるかもわからない。
		百貨店（企画担当）	・1月は年始の初売りが好天に恵まれ、不調が続いていた衣料品も回復して前年同月を上回っているが、今後は米国を中心とした不安定要素が多く、数か月先まで回復傾向が続くとは思えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（経理担当）	・株価がこのまま順調に上昇すれば景気も良くなるが、先行きは不透明である。
		百貨店（販売担当）	・バレンタイン商戦の動きは、単価の低い商品が中心で、少し高めの商品になると前年よりも動きが良くない。
		百貨店（販売担当）	・米国の新大統領就任による影響で先行きに不透明感がある。為替や株価の動き次第でインバウンドや高額所得者の消費にも影響が出るため、楽観はできない。
		百貨店（販売担当）	・周辺のオフィスビルの開業等で、引き続き来客数の増加が見込める。販促施策も控えており悪化する要素はあまりないが、低単価な傾向は続く。
		百貨店（計画担当）	・少し高額品に動きが出てきてはいるが、このままの状況がしばらく続く。
		スーパー（経営者）	・例年は来客数の多い1月も期待していたほどではなかったので、現状維持であれば良い方である。
		スーパー（経営者）	・米国の新大統領就任による影響で、輸出型企業の動きは慎重になる。4月ごろは、米国自身が為替相場をドル安に誘導する可能性があり、そうなれば我が国からの輸出が抑制され工場の稼働も低下する。中国から米国への輸出も減り、我が国の経済にもマイナスとなる恐れがある。
		スーパー（店長）	・自店は好調に推移しているが、取引先の話では、近隣の他の店はほとんどが前年割れで、前年実績をクリアすればよい方だという話がある。
		スーパー（販売促進担当）	・ここ数年同じような状況が続いている、景気が上向くような大きなテコ入れが必要である。
		スーパー（支店長）	・米国の状況には不安要因が多いため、あまりムードは良くならない。値上げ等が重なれば消費は冷え込む。
		スーパー（販売担当）	・改装して3か月経過しても売上は微増が続いている。来年の改装までこの状態が続くと見込んでいる。
		スーパー（企画・経営担当）	・恵方巻等の季節商材の売上次第である。地元の自動車工場の稼働状況にも影響される。
		スーパー（ブロック長）	・不透明感の強い米国の新大統領就任による影響次第で円や株価が大きく動き、景気もその影響を受ける。
		スーパー（人事担当）	・大きな変化は見受けられない。
		コンビニ（店長）	・特に良くなる要因も、悪くなる要因も見当たらない。
		コンビニ（企画担当）	・販売不振の原因が不明なため、当面は現状と同様に悪い状態が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・1月のような好調な売上が今後も続く。
		コンビニ（エリア担当）	・相変わらず販売施策に対する反応が悪く、上向くようには感じられない。
		コンビニ（エリア担当）	・1月は、前年同月比の実績が12月よりも改善したので、外部環境変化への対応とキャンペーン等によって現状水準を維持する。
		コンビニ（店長）	・前年同期比で来客数の減少傾向が続く。
		コンビニ（商品開発担当）	・米国経済の動きに対する様子見が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・春物のシーズンとなるが、バーゲン期間でも一見客の購入がなかったので、先行きも販売量が伸びるようには思えない。
		衣料品専門店〔紳士服洋品〕（売場担当）	・新入学や新社会人向けのギフト需要が見込める時期とはなるが、足元の流れからは、確実に業績が回復するような要因が見受けられない。
		家電量販店（店員）	・毎日のように米国の新大統領の政策が出ている。我が国への影響がどのように表れるのかわからないが、経済的には確実に影響が出る。
		乗用車販売店（営業担当）	・我が国の企業への米国の新大統領就任による影響が不透明なので、先が読みづらい。
		乗用車販売店（経営者）	・米国を始め世界情勢に変化が表れ始め、経済的にも不安要素が多く、自動車業界にも大きな影響がある。2月の日米首脳会談に注目している。
		乗用車販売店（経営者）	・1～3月は決算期で、客には活発な動きが続く。
		乗用車販売店（経営者）	・米国情勢は気になるが、足元の消費の堅調さは変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・新車の販売が好調だが、それ以外の車が伸び悩んでおり、新車の増販期となる2～3月は一段と厳しくなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・これから春先に向けて変化する要因が思い当たらないため、今の状況から変わらない。
		乗用車販売店（総務担当）	・米国の新大統領就任による影響で、景気は急激に変わる可能性があり、2～3か月先も見通しが見つからない。
		住関連専門店（営業担当）	・住宅や建築工事全体で新築の動きは乏しいが、特別養護老人施設等の介護関係や保育園の現場が増えている。また、大規模改修やリフォーム工事も増えている。
		その他専門店〔書籍〕（店員）	・新入学に向けて商材が動く時期となる。文具等の売上は好調なので、書籍売上の不振をカバーして前年を上回ることを期待する。
		一般レストラン〔パン・カフェ〕（経営者）	・景気としてはあまり変わらないが、前年並みの売上を維持するには、イベント等に力を入れる必要がある。
		一般レストラン（経営者）	・米国を始め先行きの世界情勢が見通せない。
		一般レストラン（スタッフ）	・相変わらず厳しい状況が続くが、年度末となる3月後半にかけては、業績向上を目指す。
		スナック（経営者）	・米国の新大統領就任による影響は大きく、客には株価の動向や先行きへの不安等の話題が増え、しばらくは様子見となりそうである。
		その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・求人数は多いようなので、賃金として消費者が得られる金も多ければ景気としては底堅い。
		都市型ホテル（経営者）	・世界的な政情不安が経済にも影響しないか心配である。
		都市型ホテル（経理担当）	・来客数が前年並みで推移している。
		旅行代理店（経営者）	・サービス業では、業績の良い企業と悪い企業との差がますます広がり、小規模企業にとっては厳しい時代である。
		旅行代理店（経営者）	・景気は徐々に上向いていくが、タクシー料金の改定等もあり一気には回復しない。消費税増税の再延期の影響が出たり円高になった場合は、企業収益が落ち込む。
		旅行代理店（従業員）	・米国旅行への米国の新大統領就任における影響や日米首脳会談の結果等、不安要素があって不透明である。世界情勢に対する不安で海外旅行や業務渡航が減少すると、業界全体にも影響する。
		タクシー運転手	・寒さが厳しい時期には、寒さを逃れてタクシーを利用する客が増えるが、暖かくなるとそういう客は減る。
		タクシー運転手	・夜の繁華街は、長い間静かな状態が続いているので、2～3か月で良くなるとは考えられない。まだまだ静かな状況が続く。
		タクシー運転手	・米国のTPP離脱等、米国の新大統領就任による影響は大きい。2月の首脳会談等の結果は、我が国の景気を左右するかもしれない、関心を持って見守っている。
		タクシー運転手	・景気が上向き要素が見当たらない。
		通信会社（企画担当）	・米国の新大統領就任による影響がどう作用するかわからない。悪化するようにも感じるが、甚大なダメージとはならない。
		通信会社（サービス担当）	・4月からは年度替わりに伴う需要で、引き続き新規サービスの申込が期待できる。
		ゴルフ場（企画担当）	・3月の予約数は前年同月と変わらない。3～4月は少し暖かくなるので今後は予約数も増える。景気としては大きく変わらないが、業況は少し上向きことを期待する。
		その他レジャー施設〔鉄道会社〕（職員）	・冬から春へ集客企画も変わるが、ダイヤ改正も含めて大きな変更は予定していない。
		その他レジャー〔スポーツレジャー紙〕（広告担当）	・世界情勢が不透明で、先行きは良くなる可能性も悪くなる可能性もある。
		設計事務所（経営者）	・案件数は少なく規模も小さいままで、悪い状況から全く変化が見込めない。小さな設計事務所としては死活問題である。
		設計事務所（職員）	・建築業界は政治や経済的な政策の影響が大きい。業界の景気が盛り上がらない時期が長く続いている。
		住宅販売会社（従業員）	・しばらくの間は、状況には変化はない。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅建築は低迷したままで、回復の兆しが全くない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（経営者）	・天候が落ち着いていれば、客の動きは安定する。
		商店街（代表者）	・家電製品に関しては通販で購入する客が顕著に増えてきている。地域専門店は今後ますます厳しくなる。
		百貨店（売場主任）	・イヤホンをしたままの来店客が多く声をかけにくい。ネットで購入する方が安いからと試しに履くだけの客も多く、店の売上は厳しくなっている。
		百貨店（経理担当）	・米国の新大統領就任による影響や英国のEU離脱問題をめぐる交渉の行方等、先行き不透明感から消費心理は更に冷え込む。
		百貨店（販売促進担当）	・米国の新大統領の就任前後から下降基調に入った感がある。今後はやや悪くなる。
		スーパー（販売担当）	・購買意欲を高めるイベントがあまりなく、売上の伸びが見込めない。
		スーパー（商品開発担当）	・来客数は2か月連続で前年同月を下回っている。客単価や1品単価は前年並みであるが、来客数が回復しないうちは、厳しい状況が続く。
		コンビニ（店長）	・処分品や特價品の動きは良いが、それ以外は全体的に良くないため、低単価傾向がまだまだ続く。
		乗用車販売店（従業員）	・新年度からエコカー減税が厳格化されるため、駆け込み需要は見込めるが、その後の反動減が懸念される。整備車両の入庫数は右肩上がりであるが、車両販売の落ち込み分をカバーできるかは不透明である。
		乗用車販売店（従業員）	・米国の新大統領就任による影響や韓国の情勢等、見通しづらい部分もあるが、この先はどちらかというところ悪くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・仕入れ値が高く、この先にも変化する見込みはないため漠然とした不安を感じる。先行きの見通しは厳しい。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・米国の新大統領就任による影響で、消費マインドが冷え込む。
		一般レストラン（経営者）	・良くなる要素が見当たらない。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・先行きは、米国の新大統領就任による影響次第でどのようにも変わる。
		観光型ホテル（販売担当）	・宿泊者数、宿泊宴会の予約数は、前年同月を上回っているが、一般宴会が8～12%のマイナスと思わしくないため、先行きはやや悪くなる。
		都市型ホテル（支配人）	・当地域のホテルは、新規開設で春以降は供給過剰となる。
		都市型ホテル（営業担当）	・製造業を中心に、宿泊需要は不透明である。
		旅行代理店（経営者）	・問い合わせの数は少ないままで推移する。
		通信会社（営業担当）	・当面は、売上の減少が続く。
		テーマパーク（職員）	・国内客の動きがみえない。
		テーマパーク（職員）	・短期的には台湾からのインバウンドが増えているが、全体的にみると、先行きはやや減少する。
		テーマパーク職員（総務担当）	・米国の新大統領就任による影響等、海外事情により先行きが不透明になっているため、消費は落ち込む。
		観光名所（案内係）	・政治情勢が不安定である。
		パチンコ店（経営者）	・監督官庁の規制強化や業界全体での薄利多売のため、業界全体のパイが収縮している。
		理美容室（経営者）	・景気が良くないため、客はあまり金を使わなくなる。
		美顔美容室（経営者）	・例年2～3月は来客数が減少するため、販売も難しくなる。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・仕事量は増えているが、細かい工事ばかりで内容は良くない。同業者に聞いても、発注を受ける際には苦労が多いとのことである。
	×	衣料品専門店（販売企画担当）	・問い合わせは入るが、成約に結び付かなかったり時間がかかることが多い。
	×	美容室（経営者）	・地域から若い女性の流出が多い。
	×	理容室（経営者）	・地方ではまだまだ景気が良くなるとは思えない。
	×	住宅販売会社（経営者）	・住宅購入者が少しずつ減っており、この先も減少が続く。
企業動向関連		*	*
		窯業・土石製品製造業（社員）	・新規開発品を開発し、評価が1か月以内に出る。結果が良ければ、受注増加につながる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(東海)		一般機械器具製造業 (経理担当)	・受注量が増加傾向である。
		電気機械器具製造業 (企画担当)	・海外取引では保護主義的な動きはあるものの、短期的な影響は限定的である。
		電気機械器具製造業 (経営者)	・2～3か月先には新商品を出すため、販売増加が期待できる。取引先の設備投資の増加も期待している。
		輸送用機械器具製造業 (デザイン担当)	・受注量の増加や販売先の広がりからみると、景気は良くなる。
		輸送業 (エリア担当)	・年始で主要荷主を訪問した際、今年は明るい話が多かった。庸車も不足気味となっている。
		金融業 (従業員)	・東京オリンピックの影響なのか、客先では建築業界を中心に数か月先も順調な仕事量がある。
		行政書士	・物流業者では、東京オリンピックの関係で、原材料や部品等が関東より安く調達できる当地からの貨物の動きが良いという声がある。
		会計事務所 (社会保険労務士)	・客先ではこの先半年分の受注を確保しているところが多く、4月の給与改定時には昇給も予定している。
		食料品製造業 (経営企画担当)	・先行きには不透明なムードがあり、消費マインドは盛り上がらない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業 (総務担当)	・3月には決算期を迎え、景気は現状を維持しあまり変わらない。
		化学工業 (総務秘書)	・あまり悪くなる材料は見受けられない。保護主義的な発言もあるが、米国の新大統領就任による影響が我が国の経済に表れるのは、しばらく先のことである。
		鉄鋼業 (経営者)	・メーカーが急激に値上げした後は、2～3か月後に急激な値下がりが多いため、警戒感が高まり仕入れ等にも影響を与える。
		金属製品製造業 (経営者)	・引き合いの動きも横ばいで、このまま変わらなく推移する。
		一般機械器具製造業 (営業担当)	・やや円安で価格競争力はあるが、中米の自動車工場向けの設備投資計画がどうなるか不透明である。
		輸送用機械器具製造業 (品質管理担当)	・今後の仕事にも米国の新大統領就任による影響はあるが、どちらかといえば上向きと見込まれる。
		輸送用機械器具製造業 (総務経理担当)	・3か月先では、米国の新大統領就任による影響はまだ出ない。足元でも円高傾向にはあるが、影響が出るとしたらもっと先である。
		建設業 (経営者)	・今は大手自動車メーカーの業績に地域経済が支えられ、まずまずの売行きであるが、米国との関係に業績が左右される可能性が高く、見通しづらい状況である。
		輸送業 (従業員)	・石油製品が値上がりすると、転嫁できない業界・企業は厳しい経営を強いられ、車を使う旅行やレジャーも低調となる。米国の新大統領就任による影響で貿易摩擦の再燃もあり、我が国の景気にも影響しそうだ。
		輸送業 (エリア担当)	・荷主はしばらく様子見となる。
		輸送業 (エリア担当)	・爪に火をともしという表現はオーバーだが、消費者はそういう生活に慣れてしまっている。日常の出費は減らし、たまに豪華な消費をしてプラスマイナスゼロとなり、また出費を抑える日々となる。このような消費行動は変わらず、景気は横ばいである。
		通信会社 (法人営業担当)	・現政権の経済施策における姿勢は変わらず、自動車を代表に米国との通商関係も今より良くなるとは期待できない。実体経済でも、景気の良さを実感する要素は思い当たらない。
		金融業 (法人営業担当)	・客先の地元自動車部品メーカーの受注状況は前年並みで、さほど変化は見込まれない。
		金融業 (企画担当)	・株高、円安が定着すれば景気は一層良くなっていくが、状況次第であり、当面は現状と変わらない景気が続く。
	不動産業 (経営者)	・大きく変化する要因は見当たらない。米国経済の先行きを様子見する状況である。	
	不動産業 (用地仕入)	・景気を左右するような要因が見当たらない。	
	広告代理店 (制作担当)	・客からの値下げ要求等があり、売上や利益の改善は期待できない。	
	新聞販売店 [広告] (店主)	・折込チラシ、新聞購読者数共に、動きは落ち着いている。	
	公認会計士	・円安による輸入材料の価格上昇等、コストの問題は解決する方向にはない。1人ひとりの所得は増えていないにもかかわらず、人件費等も増加傾向にある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・要員契約は3月末の契約が多く、増員に対応する余裕がないためこれ以上の売上貢献もできないため、現状維持となる見込みである。	
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・米国の新大統領就任による影響が読めず、疑心暗鬼の状態である。世界的にみれば安定して豊かな日本の円が買われる展開になり、1ドルが100円を下回る円高の可能性もある。	
		食料品製造業（営業担当）	・春先は、飲料の購買率は低くなり、足元の受注量からみても業況は良くならない。	
		印刷業（営業担当）	・景気の良い企業と悪い企業との差があまりにも大きく、全体の平均としては、やや良いという状態である。格差がなくならない限り景気が本当に良くなっているとはいえない。身の回りでは、ほとんどのの人にとって景気はあまり良くない。	
		化学工業（営業）	・ナフサの価格上昇で原材料のポリエチレンが値上げとなる。	
		化学工業（人事担当）	・我が国の自動車産業に対する米国の新大統領就任による影響で、自動車メーカーが多い当地区では、景気の悪化が見込まれる。	
		金属製品製造業（従業員）	・しばらくは材料の値上がりや止まらず、収益を圧迫する。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・さほど良くもない経済環境のなか、鉄鋼メーカーは、鉄鉱石の不足や円安等の理由で2月から値上げを実施する。現在の原料価格で何とか成り立っている仕事は、値上がりにより受注できなくなる恐れがある。	
		輸送業（経営者）	・複数の荷主から、米国の新大統領就任による影響で先が見通せないため、在庫調整に入るとの話が出ている。	
		会計事務所（職員）	・これ以上の円安は考えにくく円高に向かう可能性もある。輸出関連企業には影響が懸念される。	
		x	建設業（経営者）	・我が国は米国の動きに非常に左右されるので、米国が不安定な状態では、今後も景気が良くなるとはとも思えない。
	雇用 関連 (東海)		人材派遣会社（営業担当）	・来期に向けた人材採用の動きが活発になっている。期初から就業開始の募集案件が多く、求職者もそれに合わせて転職活動を始めている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・企業、転職希望者共に動きが最も活発になる時期であり、中小企業でも採用決定者数の増加が見込まれる。	
		人材派遣会社（経営企画）	・特に変動要因はない。	
		人材派遣会社（社員）	・転職市場には、転職回数が多くスキルが低い求職者は多数存在するが、求人企業が求めるスキルの高い有能な人材は枯渇しており、マッチングができないため、採用が滞る企業が増加している。	
		人材派遣会社（営業担当）	・当地域は自動車関連企業の活況に支えられている。為替変動や米国の通商政策等の不安要素もあるが、2020年を目途とした先進運輸支援システム等、自動車の進化は加速しているため、2～3か月先の景況感が大きく後退することはない。不安要素もあるため、中期的には楽観できない。	
		人材派遣会社（営業担当）	・株価や為替には米国の新大統領就任による影響があるが、先行きにどのような影響が表れるか想定できず、漠然とした不安が大きい。	
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・この先も採用者を確保できる見込みが立たず、業績は横ばいである。	
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・景気を左右するような話題もなく、大きな動きにはつながらない。	
		職業安定所（所長）	・米国を始めとする海外情勢がどの程度企業運営にも影響するか、やや様子見の姿勢が見られる。生産活動を活発化させる特段の動きもない。	
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は、4か月連続で前年同月を上回っている。特に建設、介護並びにサービス業や中小企業では、人手不足の声が強い。米国の新大統領就任による影響については、不安の声がよく聞かれる。	
		職業安定所（職員）	・雇用はひっ迫しているが、転職市場を活発にするにはもう一段の賃金等の改善が必要である。	
		職業安定所（職員）	・新規求職者が減少気味で、あまり採用の動きは活発ではない。	
	民間職業紹介機関（窓口担当）	・若い世代の就業意識が二極化しており、意識の高い層は既に正社員として就業しており、派遣登録を確保する見込みが立たない。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関（支社長）	・採用計画数を減らす企業はなく、IoTやAI関連等、先々の事業変化を見据えての求人が続く。
		人材派遣会社（社員）	・1月が良すぎた反動で2月の予約状況は悪い。3月の予約状況は例年並みとなっている。
		人材派遣会社（支店長）	・企業では派遣人材の雇止めが非常に困難なことや労働契約法20条との兼ね合い等から、2018年4月までは、派遣需要にも改正労働契約法と改正労働者派遣法の影響が懸念される。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・有効求人倍率は高水準で安定しているが、求める人材が確保できず、求人企業では苦悩が続く。人材紹介等に要する費用が増加して設備投資や待遇改善に割くべき予算を圧迫しかねない状況を改善する必要がある。
		職業安定所（職員）	・米国の新大統領就任による影響で、我が国の経済もやや悪くなる。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・IT関連やシステム系企業による文系学生の採用が停滞しており、前年ほどの勢いが無い。
	x	-	-

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北陸)		通信会社（役員）	・例年は閑散期である1月が好調であった。2～3か月先は商戦期であり期待できる。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・寒波が長引いて集客力が少ない日が続いたが、販売量はそれほどの落ち込みなく推移している。今後も客の購買力はこのまま続くと考え。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	・働き方改革の取組に伴って、オフィス環境改善のための投資などが増えてくると期待している。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・3月からの観光シーズンは、客足が戻ると期待している。
		コンビニ（店舗管理）	・特に根拠はないが、ここ数か月の悪化は一時的なものと思いたいくらいである。
		衣料品専門店（経営者）	・現状を桜の開花状態に例えれば、1分咲きと2分咲きの間くらいである。3分咲きへと綻び始めるのか元のつぼみに戻るのか、うろついているところである。感じとしては3分咲きでストップするともみえる。力強さはなく、一服感がある。
		家電量販店（店長）	・進学等で新生活の需要が動き出す。昨年と比較すると単価が上がってきている。
		乗用車販売店（従業員）	・車検等の繁忙期であるため、来客数の増加に期待している。
		タクシー運転手	・観光需要として来月も、新幹線と合わせた当地の観光コースの予約が、まずまず入っている。
		通信会社（職員）	・年度末の異動や引越越しに合わせてサービス展開、販促を予定しており、売上増を見込んでいる。
		通信会社（営業担当）	・学生向けに検討する客が、実際に購入につながっている。また、家族割引も実施しているため、その家族の購入にもつながっている。
		住宅販売会社（従業員）	・ホームページや雑誌などの資料請求が増えている。
		百貨店（売場主任）	・米国の新大統領就任による影響は、まだまだ不透明であり見通せないが、今のままの円安株高傾向が続けば、高額商品需要が堅調に推移すると見込んでいる。
		スーパー（店長）	・良くなる理由が見当たらない。
		スーパー（店長）	・ここ数か月の来客数の動きをみても、今後が上向きになるか下向きになるかと判断できないことから、変わらないと判断した。
	スーパー（総務担当）	・米国の新大統領就任、英国のEU離脱問題、TPP問題等で世界経済情勢は見通せないが、日本の消費生活はすぐには変化しないと考える。	
	スーパー（総務担当）	・有効求人倍率は高いままで推移している。当社でも、時給をあげても応募が少ない状況が続いている。また、日々の食品購買の様子をみると、買上点数、単価共に上がる要素は乏しい。先行きは、変わらないと考える。	
		コンビニ（経営者）	・良くなる要素が見当たらない。競合チェーンがそりい踏みし、少ないパイをお互いに奪い合う状況に変化はない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・先日、客と話をしたが、小遣いが増えることはないようである。自分の使えるお金は増えておらず、買うに買えないとの話であったため、変わらないと判断した。
		衣料品専門店（経営者）	・衣料品に関しては、業界紙や一般紙、各ショッピングセンターの発表する数字のどれを見ても、回復の兆しはみられない。
		家電量販店（店長）	・新生活需要は年々減少している。今年はオリンピックなどのスポーツイベントもないため、テレビ販売数量は落ち着く傾向とみられる。
		家電量販店（本部）	・内需が拡大する政策などの好材料が乏しい。
		乗用車販売店（経営者）	・競合他社の状況を聞くと、同様に車両入替えの話が多い。しばらくはこの状況が続くと考える。
		乗用車販売店（役員）	・新型車種が出ているので、その効果がしばらくは続くと考えるが、今年後半には厳しい状況になると見込まれる。
		自動車備品販売店（役員）	・消費税増税の再延期により、春商戦はプラス要素がなく、期待が持てない。2～3月は車検需要期であり、自賠責保険価格の値下げに重なるタイミングで駆け込み需要を期待しているが、客の反応から保険料値下げの影響は低いとみている。
		住関連専門店（役員）	・観光を支えるインバウンド需要が、爆買いなどのモノの欲求から観光や食事などのコト消費へと価値追及が変わっている。また、昨今の話題となっている米国の新大統領の影響などから先行き不安が一層強くなり、地方では消費を控える傾向が、より強まるのではないかと考える。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・今までずっと降らなかった雪が降り出して、外出する人がいなくなった。業務用の売上也減っている。家で酒を飲むかということのような状況もなく、この悪循環は続くと考える。
		高級レストラン（スタッフ）	・歓送迎会などの大型宴会の受注が始まったばかりである。景気が大きく変わる要因は見当たらないが、この1年は下げ止まりが見えてくると考える。
		一般レストラン（店長）	・地場産業の回復がなかなか期待できない。
		一般レストラン（統括）	・世間一般では景気が良くなってきた話が聞かれるようになった。しかし、外食産業にはまだその実感が無い。一方で、この先は円安による輸入原料価格アップの懸念しかないが、売価への価格転嫁が難しい状況にある。
		スナック（経営者）	・国内外の状況によっては、先々も全く期待できない状態が続く。
		観光型旅館（経営者）	・北陸新幹線開業効果が薄れて、平日の集客が悪くなっている。しかし、一昨年と比べると来客数、売上共に上回っている。
		観光型旅館（スタッフ）	・1月以降の予約状況は、前年比70～80%で推移している。1月の予約仕入数は前年を上回った。
		都市型ホテル（スタッフ）	・販売単価が依然として前年を上回らない。高単価の商品が選ばれる手応えは感じない。少し贅沢というよりも、安くて良い商品を選ぶ傾向が続いている。
		都市型ホテル（役員）	・宿泊、レストラン、宴会部門といずれも前年と同程度で推移しており、景気動向は変わらないとみている。前年と比べ降雪は少なく、足元が良かったためレストランの利用増に期待している。
		旅行代理店（所長）	・大きな話題性のある旅行先に乏しい。需要が大きく変わることは見込めず、原油高や為替等の影響が不安定要素となる。
		タクシー運転手	・観光客が減少している。週末には少し人出があると見込めるが、平日は期待できない。全体的には大きな変化はないと考える。
		通信会社（店舗統括）	・通信業界は春先に向けて繁忙期に入っていくが、例年のことである。それ以外の変化要因はみられない。
		通信会社（営業担当）	・来客数は増えているものの、販売量に増減はなく横ばい状態が続いている。
		通信会社（役員）	・取扱商品ごとに販売量に差が出ているが、今後数か月はスマートフォンの契約数が伸びると見込んでおり、全体の販売量は横ばいとみている。
		競輪場（職員）	・年未年始には売上が回復したものの、結果として一時的なものに終わっている。今後も上昇する要素が見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	・社会全体が不安定な雰囲気の中で、なかなか積極的な気持ちになれない。
		住宅販売会社（従業員）	・問い合わせやイベント来場数は例年どおりの動きである。ただし、客の年齢が若くなってきており、住宅価格は今後も安価な方向に進みそうである。また、成約数は変わらないものの、成約金額は減っていくと考える。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅の購入を考えている客が、最終決定し契約に至るまでの時間が長くなっている。数社の比較となることが多く、競合状態が激しくなっている。
		商店街（代表者）	・米国の新大統領就任によって何かと変化はありそうだが、その影響で景気がより一層と悪くなると考える。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・米国の新大統領の影響が少なからずあると考える。
		百貨店（営業担当）	・月の後半からは、セール品であっても吟味して買うことが目立つようになった。こしばらくは客の様子が変わらないので、良くなるとは見込めない。
		スーパー（店舗管理）	・人手不足により売上は減少し、競合新規出店によって来客数は分散される。そう簡単に状況が良くなるとは見込めない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕	・衣料や住まいの品の売上で、苦戦する状況がずっと続いている。食料品は売れてはいるが、買上点数、単価共に昨年に比べて落ちてきている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・前年に好調だったシネマが、通常期程度の稼働に落ち着く見込みである。そのため、来客数の前年割れが続くとみられる。それに伴って飲食店等の売上に影響が出るとみられる。
		テーマパーク（役員）	・インバウンド客はやや増加傾向にあるものの、国内の個人客、団体客は前年と比べて先行予約の動きが鈍い。全体としては悪くなる傾向にある。
		その他レジャー施設（総支配人）	・競合店が4月にオープンするため、影響は避けられないと考えている。
	x	-	-
企業 動向 関連 (北陸)		食料品製造業（経営企画）	・販促費用をより積極的に投じるなどして、売上増に取り組んでいる。
		繊維工業（経営者）	・米国の新大統領就任による影響次第であると考えている。特に変わったことはない。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注の入り具合を見て、やや良くなると判断した。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・米国の次期大統領就任による影響で、北米市場の製造業が活発になれば、工作機械の受注が伸びると考えている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・欧米を中心に3か月先まで受注が確実に入ってきている。欧米の政治経済に不透明感はあるものの、目先の受注を確実に取っていけば、結果はしっかり残ると考える。
		精密機械器具製造業（役員）	・市場全体としては、なかなか好転する気配が感じられない。しかし、当社では新商品がいくつか投入されるため、今後2～3か月先の生産量は増えていく予定である。
		建設業（経営者）	・年度末に向けて、工事の発注が増えるの見込んでいる。
		不動産業（経営者）	・2～3か月先の要望や問い合わせがあると聞いている。また、法人も3月ごろにはという問い合わせが、ぼちぼち出てきている。
		司法書士	・駅周辺が、これまでは駐車場が増えるばかりだったが、複数の再開発事業や大きなホテル建築などの様々な動きがみられる。
		税理士（所長）	・年度末に向けて、大企業の新年度の計画が大分固まってきており、その需要見通しが中小企業に及んでいるとみられる。取引先の経営者に聞くと、2～3月以降の需要に見込みはあるようである。ただし、米国の新大統領就任による影響で、計画の見直しやキャンセルにならないかを懸念している。
		繊維工業（経営者）	・車関係の資材用途では受注が堅調だが、衣料関係では先行きが不透明なままである。
	プラスチック製品製造業（企画担当）	・主力事業を支える新設住宅市場で大きな伸びが期待できない。また、米国の新大統領就任による影響が不透明で、将来の景気を読み解くことが難しい。	
	建設業（役員）	・米国の新大統領就任による影響で、設備投資の先行きは不透明感が高まっている。先行きの予想は不可能である。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信業（営業担当）	・当地域は自動車関連の製造業が多いが、まだ米国の新大統領による影響は出ておらず、比較的好調を保っている。
		輸送業（配車担当）	・建築関係の需要がここ2～3か月で一段落がつくと、物量が減少するとみている。
		金融業（融資担当）	・世界情勢の変化から景気の下ぶれが懸念される。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・売上の前年比との落差は以前ほどではないものの、前年比100%を維持できない状況にある。今後、伸びるであろう業種が見込めない。
	x	-	-
雇用 関連 (北陸)		職業安定所（職員）	・企業の採用意欲は高い状況である。今後も、こうした状況が続くと見込まれる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・2～3か月の短い周期で人手不足が解消されるとも思えない。国際情勢は不安が多いが、労働条件は少しずつよくなっていると考えられる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・企業説明会の案内や特に採用につながると思われるインターンシップの案内が、12月以降は増えてきている。
		人材派遣会社（役員）	・有期雇用契約に応募する求職者数が全く伸びない。
		人材派遣会社（社員）	・今期3月までの求人依頼は増加傾向だが、来期の4月からは不透明感がある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・大きな雇用につながる話が出てこない。
		職業安定所（職員）	・業績が良い事業所からも、為替変動の影響や人材不足の影響等の、先行き不安の声が多く聞かれる。
		職業安定所（職員）	・製造業、医療、福祉を中心に求人が増加している。今後も同じような傾向が続くとみている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・年度替わりの不足要員の求人は若干増えるが、増員分としての求人はまだ少数である。
		x	-

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連		コンビニ（経営者）	・マンションやホテルの建設が始まっているため、昼間の人口が増え、売上増につながる。
		家電量販店（店員）	・総決算セールと引っ越しシーズンが重なるため、良くなる。
(近畿)		一般小売店〔花〕（店員）	・卒業、入学シーズンに向けた予約注文が入っている。この時期での予約は早く、本格的なシーズンには更に注文が入ることが見込まれる。
		百貨店（売場主任）	・これから当店はほかの郊外店と同じように縮小に向かう。5層のフロアを4層にし、5階に家具専門店が入るので、新たな集客が期待できる。
		百貨店（服飾品担当）	・必要な物や、化粧品のような買足しアイテムなどは、好調を維持している。また、顧客の買い方が節約志向や価格志向に流れる一方、何らかの提案やエピソードのある商材の動きは決して悪くない。今後の実店舗が生き残るヒントとして、なぜこれを買ってもらいたいのか、発見はあるのかという顧客の心に響く商材や、売り方を開発することで、まだまだ可能性はある。春にかけて、株価が上昇した場合、しっかりとアクションを行えば、顧客の購買意欲が決して低いわけではないため、小売は微増となる可能性がある。
		百貨店（販売推進担当）	・米国の新大統領に対する懸念などはあるが、基本的には、足元の業況は上向いている。化粧品、食料品が顕著に伸びており、昨年や昨年末と比較しても、販売量、来客数共に増加傾向にある。さらに、仕掛け次第ではミセス、キャリアなどの婦人服の動きも活発になってきており、今後もその傾向は続くと予測される。
		コンビニ（経営者）	・コンビニで軽く食事をしたり、ドリンクを飲むといったライフスタイルが定着しつつあるため、ドリンクとフードの売上はまだまだ伸びることが期待できる。
		衣料品専門店（経営者）	・良くなるように皆で取り組んでいる。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・冬物スーツの受注が遅くまで続いた一方、春物スーツの注文は早い時期から入ってきている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（企画担当）	・ガスの小売が自由化される直前に、ガス機器の買換えが進んでいく。
		家電量販店（人事担当）	・低い気温が続いており、決算に向けて暖房器具などの処分が進む。
		乗用車販売店（営業担当）	・2～3月は決算のキャンペーンが続く。顧客への乗換え訴求を強めることで、販売増加を見込んでいる。前年比ではなく、1月との比較であれば収益増加が期待できる。
		一般レストラン（経営者）	・春節で海外からの客が増え、学生も春休みで大阪への旅行が増えるなど、集客の見込まれる要因が増えるため、満を持して臨めば、景気はやや良くなる。
		一般レストラン（企画）	・米国の金利引上げで、ドル高、円安傾向となれば、日本の景気も少しは良くなると思う。ただし、円安がもたらすデメリットの大きさが少し心配の種である。
		観光型ホテル（経営者）	・昨年の低迷をようやく脱した模様で、ようやく一昨年の好調時に戻る兆しが出てきている。
		観光型ホテル（経営者）	・大雪で消費が鈍っている反動で、例年よりも良くなると期待している。
		観光型旅館（管理担当）	・米国の新大統領による言動で、一時的に株価が上昇しているため、この3か月くらいは景気が若干上向く。
		旅行代理店（役員）	・店頭では、2～3か月後は夏休みやお盆の旅行受付の最繁忙期に当たるが、商品の品ぞろえや価格は昨年よりも充実しているため、旅行増加への期待感がある。
		タクシー運転手	・年度末にかけて、これからも忙しくなる。
		タクシー運転手	・京都では暖かくなると、桜関連の動きが出てくる。
		通信会社（社員）	・今年は少し景気も持ち直しているのが、テレビの購入やスマートフォンのリニューアルなどを行う動きが活発になってきている。
		テーマパーク（職員）	・やはり米国の新大統領就任に伴い、その政権の浮沈が国内経済にも大きな影響を与える。今後、米国内で実行しようとしている経済政策が、どのような形で世界に影響するのかが予測しにくく、先行き不透明である。成功すれば周辺国にも波及するため、何とか成功してほしい。
		その他サービス[マッサージ]（スタッフ）	・オイルマッサージのため服を脱ぐので、いつも寒い時期になると来客数は減少し、暖かくなると増加する。
		その他サービス[学習塾]（スタッフ）	・現時点での6年生が中学校に上がっても続ける可能性があるほか、新学期に向けて新たに入会する生徒が見込まれる。
		住宅販売会社（経営者）	・春のシーズンに向けて、動きが良くなってきている。
		商店街（代表者）	・ここ数年、インパウンド以外は同じ傾向が続いており、急に変わるとは考えにくい。
		一般小売店[衣服]（経営者）	・50店舗の小さな商店街であるが、以前と同じように一所懸命頑張るだけではなく、全ての店が工夫を凝らした経営にほぼ移行していると感じるため、今後も売上を維持できそうな状況である。
		一般小売店[精肉]（管理担当）	・米国の新大統領就任による影響が、少しはあると予想される。株価などが落ち着くとどのようになるのか、まだまだ不透明だと感じる。
		一般小売店[鮮魚]（営業担当）	・本当に良くなる材料が見当たらない。少し暖かくなってから動きが出てくると予想される。
		一般小売店[衣服]（経営者）	・数か月後も春物衣料の動きには期待できない。消費者が買物をする場所が確実に変化していることもあるが、新しい購入先が増えていない年配者も、気軽に買物をせず、必要な物を必要なだけ買うという姿勢が強い。
		一般小売店[酒]（社員）	・販売額は伸びているが、来客数は増えていないため、一過性の動きと予想される。
		百貨店（売場主任）	・引き続き、来客数の減少が止まらず、富裕層による売上が中心となっている。
		百貨店（売場主任）	・米国の新大統領就任による株価の上昇や、為替の変動などで、景気の上向き動きが一部でみられるものの、消費者の所得には大きな増加が期待できない。生活防衛意識が強まり、ファッションなどのモノに対する消費意欲の減退傾向も大きく変わらないと感じる。さらに、百貨店以上に取引先の苦境が目立つため、回復は期待できない。
		百貨店（売場主任）	・恐らく、例年のように気温の影響で春物衣料が動かない。メーカー各社も製造ロットを減らしてくるため、売れ筋商品でも品切れという悪循環になってくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場主任）	・インバウンド消費は消耗品を中心に伸び代があるが、依然として国内客の購買行動は慎重である。
		百貨店（企画担当）	・今月の売上の内訳は、インバウンドと富裕層である外商顧客による売上で48%を占めている。現状の為替レートや平均株価の水準が継続するならば、引き続き売上の増加が見込まれる。
		百貨店（営業担当）	・周辺に新規出店があり、回復の兆しがみられないため、不振が継続しそうである。
		百貨店（営業担当）	・高級な海外ブランド品は今後も好調に推移すると思われるが、一般の衣服や日常雑貨などは今後も厳しい状況となる。
		百貨店（サービス担当）	・来月もパレンタイムフェアを中心に前年実績を確保できる見通しであるが、外国人観光客の減少傾向に歯止めがかからない状況も懸念されるため、いろいろな催事などで集客の確保に努めていく。
		百貨店（外商担当）	・米国の新大統領就任以降、米国の政策が全く見通せなくなっている。それに伴い、日本の株や為替の動きも乱高下する可能性が高く、景気も一進一退で推移すると考えられる。
		百貨店（マネージャー）	・高額商材の消費回復や、訪日外国人売上の好調な推移については、一過性の動きであることが否めない。売上の大部分を占める中間層の消費が依然として少ないため、全体的に厳しい商戦が続くことが予想される。
		百貨店（売場マネージャー）	・春の賃金アップがニュースで取り上げられれば、気分的にも消費が改善すると思われる。現状は不透明な対米貿易の動きなどで、先行きが見通せない。
		百貨店（販促担当）	・消費傾向が良くなる具体的な要因は見当たらない。作り手が価格を安易に下げたり、売り手がセールに傾注すると、買上点数は増加せずに客単価だけが低下していく。消費者の吟味に耐えられる商材の提供が重要となる。
		百貨店（商品担当）	・米国の新大統領就任以降、円相場や株価の先行きが見えず、景気が不安定な動きになることで、消費も大きく左右される。
		百貨店（マネージャー）	・米国の新大統領による言動や、施策の影響が出てくるものが予想されるものの、当面の国内消費は大幅な改善が見込めないとされる。そのため、可処分所得の拡大につながる今春の賃上げ交渉が注目される。
		百貨店（営業企画）	・ダウ平均の2万ドル超えなどの明るい材料もあるが、实体经济や個人消費の改善が実感できない。
		百貨店（マネージャー）	・百貨店の中心顧客層である、シニア世代の中間ボリューム層による来店が減少している。高齢化により、ファッションなどの消費からコト消費に移っているほか、将来不安で貯蓄などへもシフトしている。特に、人口の多い団塊世代が65歳を過ぎたため、消費動向の変化は当面続くと予想される。
		スーパー（経営者）	・米国の新大統領就任による影響で、景気の先行きが見通せない。チラシの立ち上がり日は来客数が増える一方、それ以外の日は低調な状況となることが予想される。粗利益が稼ぎにくいなか、パートタイマー確保のための時給アップや、電気代などの昨年比でのアップなど、様々なコストアップ要因が収益を圧迫し始めている。
		スーパー（店長）	・節分やパレンタイム商戦も前年を下回る見込みで、先行きは厳しくなる。良くなる要素が見当たらない。
		スーパー（店長）	・競合各社共に、状況が厳しいことは周知の事実であり、価格競争は避けられない。季節などに合わせた動きも、年を追うごとに縮小傾向であり、それに代わる商機を見出しにくい。
		スーパー（店長）	・昨年オープンした競合先の影響が一巡するので、少しは落ち着く予想もあるが、安心することはできない。
		スーパー（店長）	・一部のブランド品など、高額商品の動きが良くなってきているが、100円均一ショップなどのディスカウント業態へのシフトが進んでいる。
		スーパー（店員）	・雪の影響で短期的には値上がりが進み、厳しくなりそうであるが、暖かい日が続くと客の入りも良くなるので、それほど変わらない。
		スーパー（企画担当）	・大きな変化はみられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（企画担当）	・更なる競合店の出店が予想されるなか、価格競争の影響で利益が減少する。また、今年は2月が前年よりも1日少ないため、売上も前年の水準はクリアできない。節分での売上獲得が2月のスタートダッシュとなるので、計画を立てて取り組んでいく。
		スーパー（経理担当）	・米国の新大統領が矢継ぎ早に大統領令を出しているが、実現性も含め、今後の行方は不透明である。日本の景気への影響も読めないため、様子見が続く。
		スーパー（社員）	・経済情勢や企業収益の悪化が予想されているが、当社のような食品中心のスーパーにはすぐに影響は出ない。これまでの賃金上昇による堅調な消費が、当面は期待できると考えている。
		スーパー（開発担当）	・原油価格高騰による物価の上昇で、景気がどう変化するかが問題である。
		コンビニ（店長）	・今後数か月で、来客数が急変することはないと思うが、求人を出しても人が採用できない状況が続くなか、店のレベル維持が、来客数や販売量を左右する大きなポイントになる。
		コンビニ（広告担当）	・今後も、米国の新大統領による発言などで変化が生まれると思うが、現実の生活面においては、まだ極端な影響は出てこない。先々になって、徐々に出てくることが予想される。
		コンビニ（店員）	・客の買い控えが続くと予想される。
		衣料品専門店（販売担当）	・低所得者の給料が上がらない限り、買い控えが続き、値段を抑える傾向も継続する。
		家電量販店（経営者）	・消費者が財布のひもを緩める要素が見当たらない。将来不安を払拭する施策や、所得増につながる施策に期待する。
		家電量販店（店員）	・特に大きな変動要因がないため、見通しは明るくない。
		乗用車販売店（経営者）	・1月にしては、修理用品などが売れたことは確かであるが、中古車を含めた車両が売れないため、今後に不安が残る。
		乗用車販売店（経営者）	・新車販売や車検、一般修理の予約台数において、今後はあまり変化がなく、現状維持である。
		乗用車販売店（販売担当）	・他メーカーが好調なので、その波及効果に期待している。
		住関連専門店（店長）	・不穏な世界情勢、政治情勢が続く時は、いつも売上がかなり落ちていたが、昨年末の米国の大統領選による影響はあまりなかった。取引先との会話では、あまりにも先行きが不透明すぎて、世間も様子をみているようだとの声が多い。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・医薬品や健康食品は、対象者がある程度限定されていて、それ以上の動きは期待しにくい。ドラッグストアも、新しい業態のサービスや食材など、消費者の目線で取り組まなければ、既存店売上の積み上げができない。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・景気が上向いている気はするが、数字などで実感することができない。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・為替にも大きな変化がないとすれば、良くも悪くも消費者を引き付ける話題や価格が提示できない。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・米国の新大統領を発端とした、世界情勢の不安定さが気がかりである。
		高級レストラン（スタッフ）	・気温が低いうちは、客足はあまり伸びない。
		高級レストラン（企画）	・婚礼や一般宴会は、4月以降の予約が前年と比較して伸び悩んでいる。一方、宿泊需要は受注客数が好調である。円高などのリスクが顕在化しない限り、インバウンドはこのまま好調をキープすると予想される。
		一般レストラン（店員）	・2月に節分があるが、恵方巻の予約がいつもよりも少ないように感じる。今後は特にイベントもないため、外食を抑える傾向となる。
		その他飲食〔コーヒーショップ〕（店長）	・朝方の来客数は増加傾向にあるものの、客単価は前年を下回っている。コーヒー1杯分の小銭を握りしめて、レジを待つ客をよく目にする。無駄な購入はしないように、財布のひもを強く締めていると感じる。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・米国の新大統領就任により、今後の景気は良くなると思われるが、2～3か月では変わらない。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・新しい商材もなく、かといって悪くなる大きな要因もない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル（経営者）	・経済的に、これから先が明るくなるか、暗くなるかについて、大きな兆候が全く感じられないので、現状のままである。
		観光型旅館（団体役員）	・耐震工事は来年まで続き、受入可能な客数は少なくなっていく。それに伴い、街全体の経済も現状維持が精一杯である。
		都市型ホテル（支配人）	・輸入食材や燃料の価格がいまだに定かでなく、景気動向は先がみえない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会部門は例年開催の大型宴会が受注できたものの、そのほかに目立った予約もなく、例年並みと予想している。一方、宿泊部門は前年に比べて単価の上昇が見込めず、柔軟な料金設定で予約件数を伸ばしていく。
		都市型ホテル（スタッフ）	・客室の改装が3月末まで続くため、収入自体は減収であるが、改装を考慮すると前年並みと思われる。宴会は直近の予約が伸びていないので、やや不透明である。
		都市型ホテル（管理担当）	・しばらくは悪くならないと思うが、今までのような勢いは感じられない。また、客室単価についても、これ以上の上昇は難しいように感じる。
		旅行代理店（営業担当）	・引き続き個人消費に上向く兆しがみられない。
		旅行代理店（支店長）	・寒波による公共交通機関のまひなどの報道で、旅行意欲が減退している。天候の影響だけではなく、世界情勢が不安定ななかで消費マインドそのものが低下し、お金を使わないようにする意識が広がっている。
		タクシー運転手	・最近寒い日が少なくなっている。寒さが厳しくない日は、駅にいても状況が芳しくない。
		タクシー運転手	・企業関係の年始の営業回りなどで収入は増えたが、一時的な動きと考えられる。
		通信会社（経営者）	・米国経済や為替などの動きが、どのように変化するかが流動的である。
		通信会社（企画担当）	・1～3月はアミューズメント機器が売れにくい。
		観光名所（企画担当）	・来場者数には若干の回復がみられるものの、安定していない。しばらくはこの状態が続くと考えている。
		遊園地（経営者）	・国内外の経済情勢が変わる要素は見当たらず、客の様子からも変化が感じられない。
		競艇場（職員）	・全国規模で発売されるG1競走も、ほぼ横ばい状態で、急激な変化はみられない。
		その他レジャー施設 [イベントホール] (職員)	・景気は緩やかに良くなっていると感じられるものの、消費に対する慎重さがみられる。
		その他レジャー施設 [球場] (経理担当)	・プロ野球が開幕し、4月には公式戦が予定されているほか、多くのコンサートが開催されるので、多数の来場者数を見込んでいる。
		その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設] (企画担当)	・米国の新大統領就任による影響が、国内景気やインバウンドの流れにどのように出るかが、今のところ全く不透明である。
		美容室（経営者）	・近隣の大型商業施設が閉店してから4年。その影響で各商店街はまるで暇になっている。
		その他サービス [ビデオ・CDレンタル] (エリア担当)	・カフェ複合店などの改装によって、店舗全体の売上がカバーしている状況である。
		住宅販売会社（経営者）	・米国経済の先行きは読めないが、大きく変化することはないように感じる。
		その他住宅 [情報誌] (編集者)	・一次購入者向けマンションの販売価格上昇により、戸建住宅との競合が進む傾向にある。郊外物件については、販売環境が好転する気配は少ない。
		商店街（代表者）	・昨年に比べてヒット商品がなく、消費者が欲しいと思う物が少ない。生きていくための消費には、夢がないと感じる。
		一般小売店 [珈琲] (経営者)	・取引先の経営環境は改善する見込みが薄く、今の状況が続いていく。
		一般小売店 [時計] (経営者)	・今月は良くても、安定した根拠がないため、2～3か月先に同じような数字が上がるとは考えられない。むしろ入園や入学に伴って物入りになるため、時計にお金が落ちることは難しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔花〕(店長)	・寒気の影響で、日本海側や北陸からの出荷量が激減している。今後も単価の高騰につながるので、買い控えは避けられない。
		百貨店(営業担当)	・米国の新大統領の保護主義的な政策の本格化による、グローバル企業の業績不透明感や、円高、株安の動きが懸念される。それに伴い、富裕層の消費の伸び悩みや、更なる節約志向の高まりが予想される。
		スーパー(経営者)	・競合相手の販売方法もディスカウントの傾向にあり、価格競争が厳しくなっている。
		スーパー(店長)	・米国の新大統領による保護主義的な政策が明らかになりつつあり、今後は金融市場が不安定になる可能性が高い。円高、株安傾向となり、経済状況が悪化する懸念がある。
		スーパー(管理担当)	・とにかく米国の動向次第である。
		コンビニ(店員)	・春休みシーズンになれば、また旅行客も多くなるが、近隣で来客数が増えるようなイベントもないため、その後は通常の動きに戻る。
		衣料品専門店(販売担当)	・米国の新大統領就任により、今後は日本にも影響が出るのではないかと心配している。
		乗用車販売店(経営者)	・米国の新大統領の内向き指向により、悪影響が徐々に出てくる。
		乗用車販売店(経営者)	・米国の新大統領による発言で、日本経済も振り回されそうになっている。新政権の方針をしっかりと確認するまで、日本の景気は安定せず、一喜一憂する動きとなる。しばらくは先行き不安のため、消費は刺激されない。
		一般レストラン(経営者)	・世界情勢を含めて、まだまだ不安定なため、消費意欲は高まらない。
		一般レストラン(経理担当)	・米国の新大統領に対し、市場は過剰な期待を寄せており、投機的な動きが続いているように感じる。今年は欧州やロシアの動きも気かりである。大きな方向性は判明しつつあるものの、まだまだ不透明なため、日本経済の動きも左右される。
		観光型旅館(経営者)	・客の動きが鈍っている。
		観光型旅館(経営者)	・例年よりも動きがかなり悪い。
		都市型ホテル(客室担当)	・宿泊の売上に占める、訪日旅行客の割合が高くなってきている。来年度も訪日旅行客は増える予想しているが、新築ホテルや民泊などの選択肢が増えていることから、稼働率に影響が出ると予想される。
		住宅販売会社(従業員)	・マンション分譲の市況は不動産投資によって支えられており、株価の動向次第で一気に落ち込む可能性がある。
		住宅販売会社(総務担当)	・来客数が毎月減少傾向にあり、今後の受注量にも陰りがみられる。イベントなどを実施しても、寒さの影響などで客足が伸びない。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕(経営者)	・不動産取引件数の減少、金融機関の融資姿勢の厳格化、不動産物件の在庫の増加などで、景気は少し悪くなると思われるが、元々良くはない。
		その他住宅〔展示場〕(従業員)	・低水準の住宅ローン金利という追い風はあるものの、新築住宅の取得意欲を喚起するような政策もないため、消費税増税の再延期による様子見状態が今後も続く。
	×	一般小売店〔野菜〕(店長)	・今後の展開として良い話があるようには思えず、世界情勢も米国、欧州共に、決して良い動きになるとは思えない。安倍政権が動き始めて5年目になるが、今年は株価も下がるなど、厳しい状況が続くであろう。
	×	コンビニ(店員)	・客が新しい店に流れてしまう。
	×	衣料品専門店(経営者)	・心理的な不安要素が多い。米国の新大統領のほか、国内でも国会審議などで先行きが不安である。また、様々な要因で消費者の負担増となることも懸念される。
	×	衣料品専門店(経営者)	・客が来店しないため、売場が店員だけになり、ますます入りにくくなって売上が下がる。
	×	その他専門店〔宝石〕(経営者)	・日本に対する、米国の新大統領の方針を考えると、マイナスの影響の方が多くなる。
	×	競輪場(職員)	・良くなる要素が見当たらないので、良くなるとは思えない。
企業動向関連 (近畿)		木材木製品製造業(経営者)	・需要に対して供給が間に合わなかったが、徐々に解決が進み、需要量に見合う生産ができるようになったため、今後は販売量が増えていく。
		食料品製造業(営業担当)	・春先に向けた気温の上昇に伴い、飲料の売上が増えてくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		プラスチック製品製造業（経営者）	・現行の試作や受注が伸びていけば、売上、収益共に増えていく。既存の業界は頭打ち状態であるが、業界以外にも引き合いがあり、受注につながり始めているなど、雰囲気は悪くない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・本当は分からないのが本音であるが、とにかく自社の努力や能力に依存する部分が多い。円安が続いていることはありがたい環境であるが、効果が出るまでには時間が必要である。
		建設業（経営者）	・徐々にではあるが、このまま良くなっていくことが予想される。
		建設業（営業担当）	・デベロッパーに限らず、製造業の投資意欲も盛んであり、不動産購入の依頼が多い。今後の欧米の動きが気になるが、当面はこの状態が続く。
		輸送業（商品管理担当）	・2～4月は、新学期などを迎えた引っ越しシーズンとなるので、物流の需要が増える。
		通信業（管理担当）	・米国の新大統領就任による影響が出る。
		広告代理店（営業担当）	・1月だけをみると、上向いてきている。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・世界経済はともかく、国内、特に大阪に関しては引き続きインバウンド効果が続くと思われる。高額な買物は下火になったものの、割安な各地のオリジナル商品といった土産品を中心に、今後も売上は好調に推移する。
		食料品製造業（従業員）	・国内はそれほど大きな動きはないと思うが、先行きは為替の変化や、政治的な動きもあって不透明である。例えば、韓国向けの商品企画も決まっていたが、一時休止の状態が続いている。当社には関係がないと思っていたが、じわじわと影響が出てきている。
		繊維工業（総務担当）	・商品力や営業力というよりも、価格や特典によって販売の活路を見出している。
		家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・配達量に変わりはない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・顧客からは変化につながる情報が聞かれない。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・製薬会社の研究、開発部門の海外移転に伴い、印刷関係にも影響が出ている。また、マーケティング部門の東京移転や組織編成の変更などで、印刷、広告会社の競争も激化している。現在は動向を注視している状況である。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・昨年の11～12月から受注量や販売量が少なくなっている。今年になって米国の新大統領の状況がつかめないが、商売の面でしばらく変化はない。
		金属製品製造業（経営者）	・米国の新大統領の方針次第では、やや波乱もあるが、大きくは変わらないと予想される。
		金属製品製造業（管理担当）	・東京オリンピックやリアモーターカー関連で、関東方面には物件があふれているが、関西には目立った情報が少ない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・受注状況は少し良くなっているが、一時的な変動ともいえる。しばらくは平均的にみて、景況は変わらないと考える。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・多少の上下はあるものの、現状維持ペースに落ち着きそうである。
		電気機械器具製造業（経営者）	・米国の新大統領による政策が読めず、不透明感が漂っている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・景気の良くなる材料がない。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・良くなる要因が思い当たらない。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・航空機の受注の遅れが気になるところである。相変わらず、中小企業の設備投資意欲は鈍い状況にある。
		その他製造業〔事務用品〕（営業担当）	・新商品もないので、今までの動きと変わらない。
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	・年始から3日までの百貨店の売上は好調であったが、それ以降は前年割れが続いており、個人消費の低迷が続いている。
		輸送業（営業担当）	・先月からの運賃値上げの影響で、荷物の数量は若干減っているが、利益は横ばいである。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	・2～3か月程度では大した影響もないが、米国の好景気が見込まれるなか、日本も追隨して景気が上向く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		広告代理店（営業担当）	・年度末までは好調が続く。
		司法書士	・休日の多い1月は事件数が少なく、また不動産の動きもない。新しい案件が少ないため、現状が維持できればよい。
		経営コンサルタント	・米国の新大統領就任による相場の変化については、ごく一部の資産家や富裕層を除けば、今のところプラス材料は少ない。
		コピーサービス業（店長）	・問い合わせ件数が若干減少気味であり、明るい材料がない。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・忙しくなることもなく、このままの流れが続きそうである。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・全体として消費は底堅いと考えられ、あまり大きな変化はないと予想される。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・2～3か月後も、引き合いや見積り依頼、設備の注文などを含め、少ないままで変わらない。
		食料品製造業（経理担当）	・国の政策は力強さに欠けるほか、米国の新大統領就任による影響もどう出るかが分からない。
		繊維工業（総務担当）	・中間価格帯から低価格帯の靴下も、売上が減少している。消費者の心理として、安くても不必要なものにはお金を使わない傾向が出てきたように感じる。
		化学工業（経営者）	・新年の挨拶などを聞くと、調子がとても良い会社、普通の会社、とても悪い会社に、極端な形で分かれているが、良い会社でも、先行きは厳しくみていることが多い。今後、景気が良くなりそうな気配は感じられない。
		化学工業（管理担当）	・米国の新大統領による保護主義政策や、国産ナフサ価格の高騰で、化学製品の価格が上がるため、消費が落ちると予想される。
		化学工業（企画担当）	・年末年始の最需要期にもかかわらず、販売量の伸びが例年を顕著に下回っている。市場での商品価値の低下も顕著であり、特殊な市場での需要を除いて、食品市場は全体的に低迷すると考えられる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・受注が伸びてこない。
		建設業（経営者）	・公共工事の発注予定が少なくなってきた。今後も期待はできない。
		広告代理店（営業担当）	・プレミアムフライデーが始まるが、まだ本格的には始動しないと思われる。気温の低い日が続くため、新しい服を買う気持ちにもならない。また、光熱費や油関連など、生活費で値上げにつながる物も多い。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・製品の価格も底まで下がった感がある。これ以上LEDの発光効率が上がっても、光を伝える新たな手段がなければ意味がない。
	×	金属製品製造業（営業担当）	・需要が伸びないなかでの強引な鋼材値上げは、ユーザーに理解してもらいにくいいため、価格転嫁が進まないと予想している。その分はどうしても減益になる。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・今後の世界情勢の変化に日本がどう対応するかを含め、非常に大きな問題もあり、先行きは混んとしている。
雇用 関連 (近畿)		-	-
		人材派遣会社（支店長）	・今後は年度末に向けて求人数が増える。
		人材派遣会社（役員）	・労働力人口の増加が見込まれる。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・新聞求人からは、景気が良くなる情報を読み取ることはできない。ただし、米国経済に少なからず依存している日本の景気は、米国の景気が良くなれば上向くことが予想される。米国の新大統領が全ての公約を実行できるとは考えられないが、就任早々、自身の政策を進め始めており、一定の実行力があるとみている。主張している財政政策や規制緩和についても、かなりの割合で実行していくことが予想される。
		職業安定所（職員）	・管内では、飲食店の出店が数件予定されているが、これは個人消費の持ち直しへの期待が背景にある。また、外国人観光客の宿泊が引き続き多いことから、宿泊業における求人数、求人数共に、高止まりが続いている。
		人材派遣会社（経営者）	・ほとんどの業種からオーダーが入ってきている。現在は政府関係の入札が活発になっているが、来月には落ち着くと思われる。一方、IT関連の人材不足が目立っている。
		人材派遣会社（営業担当）	・米国の政権交代により、先行きがよくみえない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・年度末に向けての企業の動きが鈍い。
		職業安定所(職員)	・ハローワークの窓口では、求人数の増加、求職者数の減少が継続しており、雇用失業情勢は改善傾向にある。また、管内事業所への今後の展望についてのヒアリング結果では、現状維持とする事業所が多い。
		職業安定所(職員)	・12月の景況感について、大阪府内の320社にヒアリングを行った結果、1年ぶりにプラス圏となった。従業員の不足感 は製造業で若干緩んだものの、非製造業では高止まりしている。3か月後の見通しは若干低下したものの、プラス圏で推移し、ほぼ横ばいとなっている。
		民間職業紹介機関(営業担当)	・新入社員が入るため、求人数の動きが落ち着く。
		学校〔大学〕(就職担当)	・中小企業からの求人数は増えているが、採用予定数に満たなかったためであり、義務感によるものが多い。
		学校〔大学〕(就職担当)	・求人の動きは米国の新大統領就任とは関係がなく、変化が感じられない。
		学校〔大学〕(就職担当)	・求人意欲はまだ高いが、米国の動向によって変化する可能性がある。
		アウトソーシング企業 (管理担当)	・通常商品がない時期になるので、イレギュラーの仕事が入らないと暇になる。
		民間職業紹介機関(職員)	・建設業では4月以降、社会保険未完備の会社から下請ラインから排除する措置が取られるほか、日雇いの雇用保険における印紙貼付の厳格化により、末端は労使とも混乱しており、求人を探る傾向が出そうである。
		民間職業紹介機関(営業担当)	・就職サイトへの掲載状況や、合同企業説明会への参加状況が、昨年に比べて悪化している。まだまだ企業の採用意欲は高いが、予算の使い方に変化がみられ、費用をできるだけ抑えて採用したいという企業が出始めている。
	x	-	-

8. 中国(地域別調査機関:公益社団法人中国地方総合研究センター)

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (中国)		商店街(代表者)	・バーゲン時期であるが売上は低迷している。客の財布のひもは非常に固く、より良い物をより安くよりタイムリーに購入する姿勢が見受けられ、今が底である。
		競艇場(職員)	・2月の末日から3月に予定されているG2レースの全国発売があるので売上が見込める。
		商店街(代表者)	・天候が回復して観光シーズンに入れば景気は良くなる。
		一般小売店〔紙類〕 (経営者)	・若い世代の客が定着すれば景気は良くなる。
		スーパー(店長)	・気温が上昇し、雨が少なければ景気は良くなる。
		スーパー(店長)	・客の購入する商品の単価が上昇する。イベント時はちょっと良い物や大量目の商品が売れるようになる。
		コンビニ(エリア担当)	・客単価の伸び悩みは続いているが、前年からの来客数増加傾向は継続する。
		家電量販店(店長)	・来客数が増加する。
		家電量販店(販売担当)	・春商戦に入り販売量が伸びる。
		乗用車販売店(統括)	・1~3月は販売量が毎年増える月である。新型車効果もあって販売量の増加が見込まれる。
		乗用車販売店(業務担当)	・1~3月の年間最大販売期間に入ったので、しばらくは現状が継続する。
		一般レストラン(店長)	・前年から3~4月にインバウンド客が増える傾向にあり、今年は前年を大幅に上回る予約が入ってきている。一般客は例年並みだと予想されるので、インバウンド客分で全体の売上が伸びる。
		観光型ホテル(営業担当)	・春先に向けて来客数が増加する。
		都市型ホテル(スタッフ)	・歓送迎会のシーズンになるので来客数は増加する。
	都市型ホテル(企画担当)	・1月からガソリン価格が上昇し、急激な寒さで個人消費が低調な状況にあるが、3月以降の宴会関連や宿泊の団体などの予約受注が好調である。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・燃費不正問題を起こした大手自動車メーカーは持ち直し、夕方の乗車が増えてきたので、この状況が継続する。
		通信会社（営業担当）	・通信系サービス需要期になり、プロ野球開幕などで販売量が増加する。
		通信会社（総務担当）	・年度替わりで新たな客の加入が見込める。
		通信会社（工事担当）	・客の様子から景気は上向く。
		テーマパーク（営業担当）	・春の行楽シーズンに入り客の動きが出てくる。
		住宅販売会社（営業担当）	・年度末に工事が集中する傾向にある。
		住宅販売会社（営業所長）	・良い場所で土地の確保ができています。
		商店街（代表者）	・売上が低下し来客数も減少しており、近隣商店街の店主からは今後少しずつでも良くなっていくなどの話が聞こえてこない。
		商店街（理事）	・季節の変わり目になるので季節需要は発生するが、それ以外に景気が良くなる要因はない。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	・商業エリアから出たことにより、独自の営業展開ができるようになって商いが安定する。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・名刺の注文が少ないので活発な動きにはならない。
		百貨店（経理担当）	・景気が良くなる要素がなく今の状況が続く。
		百貨店（営業担当）	・イベントがあれば売上は伸びるものの、大きな流れは変わらないため最終的に変化はない。
		百貨店（営業担当）	・株高、円安が日本経済にプラス要因となっているように見えるが、米国の新大統領就任による影響で今後の動きに不安要素が多く、このまま景気回復には進まない。
		百貨店（販売促進担当）	・新入学やバレンタインなど春の大型商戦がスタートするが、衣料品については低迷が続く。堅調な高級品マーケットもこのままの状況が続くとはいえず、全体的には消費の上向きに時間がかかる。
		百貨店（売場担当）	・店舗の優待会やポイントアップの初日にしか大きく売上が伸びない傾向にあり、食品への客の節約志向が今後も強くなる。
		百貨店（購買担当）	・物産展は売上がかなり良く、客が食に対しては金を惜しまない傾向が続く。洋服はセールを行っても販売量が伸びず、ヒットアイテムも出ていないので厳しい状況が続く。
		百貨店（売場担当）	・地域柄、世界情勢に即座に反応するような状況ではなく、前年実績にやや達しない程度の状況が継続する。
		百貨店（営業推進担当）	・これといった好材料はなく、天候も今のような寒さが続けば厳しい状態が続く。
		スーパー（店長）	・景気の良し悪しを判断する材料はない。
		スーパー（店長）	・米国の新大統領就任による影響で日本の政局が不安定なので景気の判断がしづらい。
		スーパー（総務担当）	・客単価があまり変わっていないので期待は持てるが、上向きとは言えない。
		スーパー（業務開発担当）	・今の少し良い状態が継続する。
		スーパー（販売担当）	・ここ数ヶ月の傾向から良い月と悪い月が交互にやってくる状況が今しばらく続く。景気の好不調の判断はしづらいが、今のところ売上が好調な月が比較的継続しており、明るい兆しとなる。
		スーパー（管理担当）	・来客数の増加が期待できず、現状脱却は今のところ見えてこない。
		スーパー（営業システム担当）	・今年のバレンタインは平日となるため、友チョコなどの需要が前年より高まる。恵方巻の予約は前年と同じか落ち込む予想であり、大幅な売上増は見込めず、ひな祭りも同様である。
		スーパー（販売担当）	・今年の2月は前年より1日短いため、景気が上向きになる要素がない。
		コンビニ（エリア担当）	・客は特売品のみを購入する傾向にあり、ディスカウント店の参入も重なって価格競争が激しくなる。
		コンビニ（支店長）	・上向き状況にある来客数に変化はない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ(副地域ブロック長)	・特に大きなイベントや環境の変化がないので、乗客数は現状維持で推移する。県外からの観光客誘致とともに、中国人向けの電子マネーが取扱可能となったことを始めとして決済手段の選択肢が増えるため、訪日外国人観光客の誘致が鍵である。
		衣料品専門店(店長)	・乗客数に変化はなく、客単価の伸びも期待できず、景気が良くなる要素はない。
		家電量販店(店長)	・売れる物が多いが、売れる物がない。
		家電量販店(店長)	・現段階では乗客数が大きく変わる要素がない。初売りの勢いが続くことを願うばかりである。
		家電量販店(企画担当)	・景気を判断する材料がない。
		乗用車販売店(営業担当)	・決算時期に入り一時的には需要が伸びるが、自動車取得税や自動車重量税の税率上げも行われるため、4月からは厳しい状況になる。
		乗用車販売店(店長)	・業界は最大の需要期を迎えるが、新車はもちろんサービス在庫客が増加する要素はない。
		乗用車販売店(総務担当)	・年度末の決算時期を迎えるが、現在の納期状況を考えると年度内の売上につながらない。前年よりラインナップが良くなっているため、商談成約は多くなる。
		その他専門店[和菓子](経営者)	・乗客数が変化する要素が見当たらない。
		その他小売[ショッピングセンター](所長)	・撤退した店舗の次のテナント次第で乗客数は増える。
		その他小売[ショッピングセンター](管理担当)	・これから新生活シーズンとなり購買意欲が高まる時期となるが、冬物バーゲン期間と間の谷間に入るため、この時期景気回復までには至らない。
		高級レストラン(宴会サービス担当)	・予約状況は前年並みであるが、ここ数か月伸びが非常に悪い。今後の予約状況にもよるが、先行きは不透明である。
		一般レストラン(経営者)	・米国の新大統領就任の影響で日本の経済情勢がどのように変化するのか不透明であるが、しばらくすればプラスなのかマイナスなのかが分かってくる。
		一般レストラン(経営者)	・当地方の景気は報道で報じられるほどには良くない。特に外食を含め客の節約傾向に変化はなく、イベントやセールに対する反応が希薄になっている。
		一般レストラン(外食事業担当)	・卒業、転職の時期になり歓送迎会が増えてくる。外食の機会は増えるが、祝日が土曜日に重なることや10～12月に減少していた食べ放題の注文が若者を中心に増えており、特に時間無制限の注文が二けたの伸びであることから、客席の回転率が低下し乗客数を維持できても売上は頭打ちの状態になる。
		スナック(経営者)	・景気対策がないのに良くなるはずがない。
		その他飲食[サービスエリア内レストラン](店長)	・閑散期に入るので交通量と乗客数が減少する。
		観光型ホテル(宿泊担当)	・客は少しでも安い単価に流れる傾向にある。
		都市型ホテル(企画担当)	・宿泊やレストランの予約状況にあまり変化はない。
		都市型ホテル(総支配人)	・米国の今後の方針が不明瞭であり、国内旅行に大きな変化はないが、インバウンド客は伸びる。
		旅行代理店(経営者)	・当面米国の様子うかがいとなり、景気が良くなるか悪くなるか不明である。
		通信会社(社員)	・景気が良くなる兆しがない。
		通信会社(企画担当)	・新年度に向けて定額通話込みの新SIMサービスのリリースがあり、端末のラインナップも増えるので、乗客数は増加する。
		テーマパーク(管理担当)	・地方は市場変化が緩く個人消費も伸びない。
		テーマパーク(業務担当)	・春のイベントが始まるが、年度末の時期とも重なることから、大きな集客は望めない。
		ゴルフ場(営業担当)	・インターネットでの予約が若干伸びているが、3～4月の予約状況は例年とあまり変わらない。
		美容室(経営者)	・2～3か月では景気に大きな動きはない。
		設計事務所(経営者)	・冬場は伸びがある状況にはなく、現在客の動向からして今後も伸びはない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		設計事務所（経営者）	・公共事業に依存している地方都市には明日が見えない。
		設計事務所（経営者）	・建築を取り巻く環境に大きな変化がなく、今の状況が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・起爆剤となる新しい金融財政政策はなく、しばらくは停滞期が続く。
		商店街（代表者）	・米国の新大統領就任による影響や株や為替相場の状況によっては景気が悪くなる。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・当地域は人口減少と少子高齢化が続き、行政も含めて先行きは守りの姿勢である。企業も黒字経営を維持するためには事業縮小も考慮せざるを得なくなる。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・石油価格の高騰や円安による原材料費の高騰で景気は悪くなる。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	・米国の新大統領就任による影響で外交や通商で日本にとって厳しい状況になる。小売業にとっても商品価格が高騰して消費減退につながる恐れがある。
		百貨店（営業担当）	・政治情勢に伴い状況が変化する。
		スーパー（店長）	・天候が回復して青果物や野菜の地物が多く出まわり始めるので、今まで野菜価格で訴求していた客が周辺の小売店に分散する。
		スーパー（店長）	・現在の地域経済状況が良くなる兆しがなく、客の節約志向はより一層強くなる。
		スーパー（店長）	・米国の新大統領就任の影響が早くも輸出産業に及びそうな状況を踏まえると、輸出大国の日本経済に少なからず悪影響が出る。
		スーパー（財務担当）	・生鮮の相場が高値で安定してきており、消費者の節約志向もあいまって売上の伸びは鈍化する。
		衣料品専門店（経営者）	・米国の新大統領就任の影響が生じる。
		衣料品専門店（経営者）	・経済的不安から客の購買力が落ちている。
		乗用車販売店（営業担当）	・何か注目する商品やイベントがないと消費者の動きは鈍くなる。
		自動車備品販売店（経営者）	・米国の新大統領就任の影響で早くもメーカーは予防線を張っている。海外での業績が良くなれば自社のもうけとし、悪くなれば国内へ付けをまわすようでは景気が良くなるはずがない。このまま大手優遇をやめなければ、いずれ地方の販売店はなくなってしまふ。
		住関連専門店（営業担当）	・客が少ないので新築、リフォーム、婚礼情報が入らず、先行きは不安である。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・都心や人口の多い密集地に人と物が集まり、企業の少ない地方は活性化する人材がいない。
		その他専門店〔海産物〕（経営者）	・客の購買意欲が低い上に観光で集客の目玉になる材料がないことにより明るい見通しが無い。
		旅行代理店（営業担当）	・米国の新大統領就任による影響で円相場が左右され、旅行需要にも大きく影響することが懸念される。
		タクシー運転手	・例年2～3月は閑散期である。
		通信会社（広報担当）	・販売価格が下がれば客は購入する傾向にあるので、景気が良い状態にはならない。
		美容室（経営者）	・客が商店街に戻ってくる状況ができれば良いが、現状のままでは駅前人が流れる。
		美容室（経営者）	・客の所得が増える話はなく、節約ばかりなので景気はやや悪くなる。
		設計事務所（経営者）	・ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス支援事業は在来工法の住宅ではスピード感に欠け、募集期間に間に合わず使い難いことも含め、新築住宅の着工件数は確実に減少する。
	×	コンビニ（エリア担当）	・ここ2～3か月工事がほとんどなくなり、昼の工事客や朝夕の客が減少している。加熱式たばこを購入する客が増え、何とか売上は前年をクリアしているが、来客数が増えないと全体売上は伸びないので厳しい状況は続く。
	×	自動車備品販売店（経営者）	・地方の少子高齢化は加速度的に進んでいるので消費量が落ち込み、米国の新大統領就任による影響で景気が悪くなる。
企業 動向 関連		輸送用機械器具製造業（経営者）	・新車種が立ち上がるので忙しくなる。
(中国)		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・鉄鋼向け需要の増加を見込んでおり、生産量増加を計画している。
		鉄鋼業（総務担当）	・活動水準は大きく変わらないが、市中での鋼材需給のひっ迫感は継続し価格改善が進む。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（支店長）	・通信販売関係やフリマアプリを利用した発注荷物の動きが想像以上に良く、しばらくは現状が続く。
		不動産業（総務担当）	・賃貸物件の需要時期となるため、例年同様来客数と成約件数は増加する。
		広告代理店（営業担当）	・卒業、入学、就職シーズンの販売促進での受注情報が来ており、上向きに推移する。
		食料品製造業（総務担当）	・取り扱っている製品の売上は見込めるが、大きく伸びることはない。
		木材木製品製造業（経理担当）	・住宅着工戸数は増加傾向にあるが、12月の住宅ローンの契約件数の減少と米国の新大統領就任による影響で、株価や為替の動向が不明確であり、将来の景気動向を読めない状況である。
		鉄鋼業（総務担当）	・国内景気の先行きは米国経済によるところが大きいが、米国の新大統領就任による政策変更の影響で先行きは不透明である。
		非鉄金属製造業（業務担当）	・金属相場の下げ要因がないため好調が続く。自動車もハイブリッド車は引き続き好調であるが、電気自動車やプラグインハイブリッド自動車は3か月連続で前年を割っており、パソコン、タブレット、携帯電話の台数は横ばいで推移している。また米国の新大統領就任による影響で相場変動が不安要因になっている。
		金属製品製造業（総務担当）	・4月から受注が増えるとの情報を客先より聞いているが、根拠に乏しく希望的観測と受け止めている。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・デフレは解消しつつあると政府は発表しているが、地方では価格の値引き交渉が激しく、適正価格以下での取引が続いているため、将来に対して不安がある。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・対ドル円相場の動きが不明瞭である。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・主要客からの受注内示量は減少傾向である。
		建設業（総務担当）	・今年度中は受注物件と予定物件で技術職が手一杯の状態が続く。
		建設業（総務担当）	・今のところ順調であるが、米国の新大統領就任による影響で今後の展開が読めない。
		輸送業（経理担当）	・例年なら期末に向けた動きが見えはじめる時期であるが、目立った動きはなく当分の間は変化が表れそうにない。
		通信業（営業企画担当）	・製造業の客に新サービスの提案を行い、先月までは進捗中であったが、今月に入り検討の保留が発生しており計画が延びている。
		通信業（営業担当）	・既存客に積極的な通信設備更改がなく、新規客開拓も伸び悩んでいる。
		金融業（融資企画担当）	・米国の新大統領就任による自動車業界への影響が不透明であるが、世界経済の回復基調により自動車部品メーカーの受注には好調さが続く。
		化学工業（経営者）	・中国の景気後退感が続くとともに米国の新大統領就任による影響が加わって、景気により一層の不透明感が広がり、特に自動車部品向け受注が減少基調となる。
		化学工業（総務担当）	・米国など海外の情勢が不透明であり、投資や新規開拓が低迷する。
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	・新規案件がほとんどない中で、手持ち工事量の消化が進み、景況感の悪化は継続する。
		その他製造業 [スポーツ用品]（総務担当）	・今後ますます商品の開発が進み製造が複雑化する一方で、販売価格の上昇が抑えられる傾向はますます強くなる。
		輸送業（総務担当）	・米国新政権のハネムーン期間後の落ち込みが懸念材料である。
		会計事務所（職員）	・米国の新大統領の政策次第では自動車産業が相当の痛手を受ける可能性がある。関連の業界では先行きを不安視するところもある。
	×	食料品製造業（経営者）	・客の消費動向が悪く、物が売れず今後も厳しい状況が続く。
	×	一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きが悪い。
雇用 関連 (中国)		求人情報誌製作会社（広告担当）	・2016年と2017年とを比較すると、採用予定人数は正社員と新卒採用は横ばいである一方、4割近くの企業が既卒者と第二新卒に高い採用意欲を見せている。また中途採用は新卒と同じ枠で採用することとしている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・大手自動車メーカーの生産水準が引上げられ、関連する企業群にもやや一服感がうかがえ、当県の各種経済指標も横ばいか緩やかな回復基調を示している。ただし製造業を中心に給与が引上げられていないため、個人消費の伸びが鈍化している点がやや気になる。
		職業安定所(所長)	・鳥取県中部地震の雇用への影響が比較的小さかったことと共に、医療福祉や建設業など慢性的に人手不足の業種もあることから、今後の求人数は増加傾向で推移する。
		職業安定所(産業雇用 情報担当)	・この数か月は1.3~1.4倍で推移していた有効求人倍率が1.61倍に上昇している。
		学校〔大学〕(就職担 当)	・米国の新政権への期待感から株価が上昇しており、企業の動きが活発化する。
		人材派遣会社(社員)	・米国の新大統領就任による影響は今後考慮しなければならないが、引き続き有効求人倍率が1.7倍となっており、求職者のマッチングに苦戦する状況に変わりはない。
		人材派遣会社(支社 長)	・諸外国の様々な不確定要素により、製造業を中心として人材採用に慎重な姿勢が見られはじめたものの、大部分の業種では引き続き人手不足感は強い。
		人材派遣会社(経営企 画担当)	・3月末の契約終了者が発生する時期が迫っており、1人でも多く次の職場を紹介することが求められる。また求人活動、仕事紹介活動はもちろん、1人でも多くの派遣スタッフの状況を確認することで採用側との関係強化を図ることが求められている。
		人材派遣会社(支店 長)	・米国の新大統領就任による日本への影響がまだ不確定であり様子見の状況が続くため、景気に変化はない。
		職業安定所(産業雇用 情報担当)	・地元紙の主要企業アンケート調査結果によると、来年度の業況見込みについて、悪くなるが33.1%と高く、業種別では建設業、卸小売業にその割合が高い。前者には大型受注が見出しにくい状況、後者には消費者の低価格志向の継続と県外競合店の新規出店による更なる低価格競争の激化が予想される状況などを示す回答がある。
		職業安定所(雇用開発 担当)	・人員不足のため様々な方法で充足を図り求人を出す、採用に至らず滞留してしまうことから、あたかも求人企業が増加しているように見えるようになる。
		民間職業紹介機関(職 員)	・米国の新大統領就任により地場の自動車部品メーカーに大きな影響が及ぶ恐れがあり、特にメキシコに展開しているメーカーは様子見をしている。
		民間職業紹介機関(人 材紹介担当)	・景気を底上げする良いニュースがない。
		学校〔短期大学〕(学 生支援担当)	・都会では待機児童数が問題になっているが、地方では人口減少から児童数も減少し、保育関係の求人は厳しい状況になりつつある一方で食物栄養関係は現状維持が見込まれる。
	x	-	-

9. 四国(地域別調査機関:四国経済連合会)

(-:回答が存在しない、*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (四国)		-	-
		商店街(代表者)	・3月には、近くに博物館がオープンして記念イベント等もあることから観光客や県内の消費者も来街すると予想している。4~5月は、大型客船の入港が多数予定されているので、より多くの来街客を見込んでいる。
		コンビニ(店長)	・買上点数や客単価の上昇が続いている。
		コンビニ(商品担当)	・春頃には統合の効果が数値として出ることを期待している。
		乗用車販売店(従業 員)	・決算商戦に向けて少しずつ動きが出てきているように感じる。
		乗用車販売店(役員)	・過去最高益を更新できる見込みで、従業員への利益還元も検討している。同業他社も概ね好調である。
		住関連専門店(経営 者)	・最近、土地造成や分譲住宅が増えているので、新築の場合は当社の売上が伸びる。金利が低下しているため、改装や新築が多くなると期待している。
		その他専門店〔酒〕 (経営者)	・花見などのイベントが多くなり、良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（営業部長）	・4月から四国デスティネーションキャンペーンも始まるので、全国からの誘客が見込め、期待感が大きい。海外旅行については円安傾向が少し気がかりだ。
		タクシー運転手	・春になるとお遍路の仕事が増えるので、今よりは良くなる。ただ、お遍路客が多かった昨年ほどではないだろう。
		通信会社（営業部長）	・新生活時期で販売が活発化する。
		通信会社（営業担当）	・新生活需要の活気は例年どおりと期待したい。
		通信会社（企画）	・引き続き解約件数が減少し、良くなっていく。
		観光遊園地（職員）	・四国デスティネーションキャンペーン等で集客が見込める。
		商店街（事務局長）	・株高傾向は消費環境にとっては追い風であるが、先行きの不透明感を払拭するには至っていない。賃上げや世界経済の行方に安心感が得られると、地方も景気が少しずつ上向く可能性を感じられるのではないが。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・百円ショップ等の競合他社の影響からお客様の価格訴求の傾向が強く、今後もこの傾向が続く。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・来月以降の予約が順調に入ってきている。多くなるとは言えないが、昨年並みを予想している。
		百貨店（販売促進担当）	・天候と件の追い風のなかでも衣料品売上は前年を下回り、高額品の動きも安定しない。
		スーパー（企画担当）	・顧客の買いまわりは、ドラッグストアなどとの比較購買が続いている。生鮮食品では、野菜に続いて海産物も気象の影響を受けて不漁となるなど、明るい話題は無い。
		コンビニ（総務）	・天候や気温に大きく左右されるが、景気が大きく変動する要因は見当たらない。
		衣料品専門店（経営者）	・今後良くなる要素がない。
		衣料品専門店（総務担当）	・店舗前の通行量に変化はなく、セールも終了し、客の動きが弱くなる時期に入る。顧客から景気の良い話は聞こえてこないこともあり、現状とそれほど変わらないと考える。
		家電量販店（副店長）	・若年層を中心に販売価格にシビアになっており、競合店との価格競争がある。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車が相次いで発売されているが、売上にはあまり貢献していない。既販車を含めた総販売台数は今後しばらくの間、昨年並みになると予想している。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車投入で販売台数の伸びが期待されたが、計画通りには販売台数が伸びていない。例年と変わらない動きで推移すると予想する。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・寒さが厳しくなり、来街者も少し減っているように感じられる。
		観光型旅館（経営者）	・「変わらない」というよりも「分からない」。国際的な政治・経済情勢等から、先行きが見えない。もう少し様子を見ないと判断できない。
		タクシー運転手	・3～4月には卒業、新入社員、異動等があるので、人が動く。
		通信会社（支店長）	・年度末に向けて、特段の変動要因は見当たらない。
		ゴルフ場（従業員）	・季節的にも気候的にも良くなる時期に入るが、予約はあまり伸びていない。
		設計事務所（所長）	・仕事はあったとしても慢性的な人手不足で、受けきれない状況にある。
		商店街（代表者）	・当社の業種は利用顧客数の微減状況で同業他社との競争もあり、厳しい状況が続いていく。地方では景気回復感が浸透しておらず、厳しい状況にある。
		衣料品専門店（経営者）	・米国の動向が読めないため。
		乗用車販売店（営業担当）	・自動車販売は2～3月の需要期を過ぎると極端に動きが止まる。4月以降このまま推移する要素はない。
		競艇場（職員）	・2月は各地区選手権競走が開催され、地元有力選手、若手の期待選手の活躍が売上増加に繋がる。3月是对岸のポート場でレースが開催されるため、売上は少なくなる。
		美容室（経営者）	・周辺の店が閉店するなど、当店だけでなく活気が無くなっている。
	×	商店街（代表者）	・中心市街地の活性化事業が白紙になり、極めて厳しい状況が起きている。
	×	一般小売店〔酒〕（販売担当）	・景気が悪いので消費者の購買意欲も無く、とても不安だ。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	コンビニ（店長）	・地盤産業である造船会社で働く人達の収入が増えず、目減りしている話も聞く。先行きは厳しい。
	×	スナック（経営者）	・周囲の人の話でも、ますます景気は悪くなっているようだ。
	×	住宅販売会社（従業員）	・受注数やイベント来場者数は変わらないが、受注につながる名簿数は減少している。受注増につながるプラス要因が思い浮かばない。
企業 動向 関連 (四国)		食料品製造業（商品統括）	・政府が求める賃上げ、プレミアムフライデー実施、保育士の給与改善などに対し、企業は答えようとしている。消費拡大に向かうのではないが。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・3月以降は売上、利益とも良くなっていく。
		通信業（営業担当）	・3～4月のテレビ広告受注が上向いている。特に自動車、不動産、情報通信などがけん引している。
		繊維工業（経営者）	・厳しい状況に変わりはなく、地方は当面この状況が続く。
		鉄鋼業（総務部長）	・回復の気配が見えない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・全国的に再生エネルギー事業は下降しているが、当社を含め周辺ではまだ需要がある。
		電気機械器具製造業（経理）	・得意先からの受注は数%程度の増減は生じるが、市場のデマンドは概ね安定的に推移すると見込む。
		建設業（経営者）	・変わらない。
		建設業（経営者）	・年度末までは手持業務の売上を順調に上げていける。年明け後に発注された次年度案件や2か年継続案件の発注量ならびにその受注量は、4月以降の景況に大きく影響されるため、受注に向けては厳しい競争下にある。
		建設業（総務）	・先行き不透明なため。
		輸送業（経営者）	・やはり不安が解消されないと長期的に良くならない。思い切った政策を打ち出してほしい。
		輸送業（営業）	・米国の新大統領就任による影響が心配される中、景気動向は極めて不透明感が強く、繁忙期の3～4月の景気は予想がつかない。
		金融業（副支店長）	・取引先企業へのヒアリング調査によると、今後2～3か月の業績予想は概ね現状並みとする回答が多い。ただ、人手不足を不安視する企業が多く、先行きに不透明感を感じている様子が目撃される。
		広告代理店（経営者）	・県外娯楽関係の新規出店に伴う販促広告が予定されているが、多くの得意先は変わらない見込み。
		公認会計士	・多くの関与先企業が為替動向を非常に気にしている。そのため設備投資も控えめで、様子見の顧客が非常に多い。米国の新大統領就任による影響で、先が読めない状況が続いている。
		農林水産業（職員）	・農業分野にも間接的に、米国の新大統領就任による影響が予想される。食に対する消費者の意識は二極化しているが、いまは低価格志向が上回っている。大企業の業績が悪化すれば、この傾向が一段と強まる。
		食料品製造業（経営者）	・円安の影響で原材料が高騰しているが、小売店のデフレ傾向は変わらないため、利益が圧迫されると推測する。
	木材木製品製造業	・昨年10～12月の大手住宅メーカーの契約状況は前年を下回っている企業が多く、主要8行の住宅ローン申込件数（12月）も前年より減少しているため、やや悪くなる。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	・中国経済の減速、原油・資源価格動向、地政学上のリスクに加え、米国の政策や欧州の政治動向もあり、不透明感が強まっている。	
	×	輸送業（支店長）	・原油価格高騰による燃油費のコスト増が最大の不安要素だ。
雇用 関連 (四国)		-	-
		人材派遣会社（営業担当）	・当面はこのまま継続する。
		人材派遣会社（営業）	・年度末に向けた景気対策や、事業の見直し・拡充に伴い消費意欲は増していくだろう。人の入れ替わりも増えるこの時期に、求人数・求職者数に動きがみられ、景気は良くなる傾向にある。
		求人情報誌製作会社（従業員）	・異動時期に入り、求人数の増加が見込める。
		職業安定所（職員）	・12月の有効求人倍率は1.52倍で、5月以降上昇が続いており、前年比0.15ポイント上昇している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		学校〔大学〕（就職担当）	・いまでも今春卒業予定の学生に対する求人が多く見られる。大手企業も含まれている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・低調維持という営業感覚がある。
		職業安定所（職員）	・現在の人手不足感がいつまで続くか先行きが見えず、条件の好転には至っていない。
		民間職業紹介機関（所長）	・29年度の新卒者採用計画が立てられない企業が多いのは、28年度の新卒者を予定通り採用出来ていないことにある。新卒採用には閉塞感が強いようだ。
		人材派遣会社（営業担当）	・求人数は増加にあるが、派遣登録する人が減っているのでスタッフを募集するのに経費がかかり過ぎている。また、製造関係の仕事の求人が減っていることが懸念される。
		求人情報誌（営業）	・人員不足の解決策が見当たらず、今後も続く見込み。さらに、愛媛県の基幹産業の一つである造船の受注状況が悪くなっている。先行き不透明で、造船と周辺業界の景気が悪化していく。
	x	-	-

10. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (九州)		一般小売店〔生花〕（経営者）	・春の卒業式などで花が最も必要とされる時期になるので、使用頻度の少ない1～2月に比べて確実に売上が見込める。どの程度の売上になるかは予測できない。
		通信会社（企画担当）	・客の予算の消化や、新年の販売及び新商品の紹介に向けて、資金の動きが活発化している。
		商店街（代表者）	・時期的に、必需品を購入する客が増える。
		商店街（代表者）	・年度移行時期のため、来客数増が見込める。製造業も増加が見込めるため景気は良くなる。ホームページをリニューアルし、問い合わせが増加しているので今後インターネットからの注文が増える。
		百貨店（営業担当）	・株価により消費が左右されている。今後企業業績が発表されるが、為替水準を105～110円で算定しているようなので、それを好転できるような為替水準になれば業績も良くなる。百貨店の場合、フローというよりストックにより支えられているので不透明ではあるがやや持ち直してくる。
		スーパー（総務担当）	・来店頻度、購入点数、購入単価ともあまり増える傾向になく、売上が上昇する要素がない。
		家電量販店（店員）	・当地では今冬は暖冬で、客の財布にはまだお金が残っている。落ち込んだ分、3か月後は若干上向く。
		家電量販店（従業員）	・新学期に向けて新生活用品などが売れる。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・12月の繁忙期に比べて1月は業界的に売上が下がる時期である。春先にかけて少しずつ増えていく。
		その他専門店〔書籍〕（副店長）	・2月に日本人有名小説家の新刊の発売がある。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・スポーツ関連のキャンプがあり、東南アジアからの観光客も増えてくるため、土産品の販路が拡大する。
		一般レストラン（経営者）	・予約状況も良く、問い合わせも多い。客を見ていても景気が悪い感じが見えない。
		一般レストラン（スタッフ）	・熊本地震からようやく1年がたとうとしており、観光客数が少しずつ回復していく。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況や現在の売上から判断すると、消費は上向いている。
		旅行代理店（企画）	・今年度の下期はあまり良くなかったため、上向き傾向に向かう。
		タクシー運転手	・与党は補正予算を支持しているが今後の状況をみていきたい。
	タクシー運転手	・大型クルーズ船の入港予定は今年も300回は軽く超える予定で、観光客も増加し、催物も充実しており堅調さを保つ。	
	通信会社（業務担当）	・2～4月にかけて繁忙期ということもあり、受注数が増加する。	
	通信会社（営業）	・毎年、異動に伴う需要がある。今年は繁忙期にあわせて新サービスを導入するため、販売促進にも力を入れている。春から夏にかけて1月より販売数や客単価が上昇し、これまで取り込めなかった客層に広がる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（営業担当）	・年度末に向け、転居が増えるタイミングで消費や契約等が動く。
		美容室（経営者）	・当業界は、春に景気が良くなる傾向にある。オシャレは景気が良くないと伸び悩む。オシャレをすればするほど景気は回復する。景気回復のてこ入れをしてもらえると伸びる。
		商店街（代表者）	・なかなか、良くはならないが、底値安定である。
		商店街（代表者）	・年金受給者が多いところでは衣料費等がかかるため、新たな購入意欲がない。収入が増えないため売上也伸びない。
		商店街（代表者）	・地方の小売店では景気が上向き気配が全くない。
		商店街（代表者）	・1年で最も寒い時期になったため、来客数が減ると同時に消費が上向き理由が見つからない。このままの状態が続く。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・お中元、ギフトなどの売上がかんきつ類の売上に影響する。前年末もそうだったが生産量の割には相場がなかなか立たなかった。温暖化の影響もありかんきつ類の水分が少なくなり、今後のかんきつ類の出荷も厳しくなってくる。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・本当に景気は良くなっているのか、全然実感がない。むしろ悪くなっているようである。2月3日の節分の恵方巻を売る店が増えている。店で作った海鮮巻きや、仕入れた太巻きなど様々だが、皆販売している。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・景気変動の要素が見当たらない。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・冬期売上は上向きになるのが普通だが、低迷が続いているためどこが底なのか不明である。景気とは関係なく毎月の売上は深刻である。
		百貨店（総務担当）	・主力の衣料品に元気がないため、テナント退店が多く申入れられており、空室率増となる。
		百貨店（営業担当）	・価格にシビアな状況が続いている。
		百貨店（営業担当）	・全店割引や恒例のギフト解体セールでは必要な商品を見極めて購入している。催事では買物券還元催事の利用が多く、買物への慎重な姿勢が続く。一方で、輸入ブランドや時計が好調で、買物の二極化が続いている。
		百貨店（販売促進担当）	・新生活がスタートし、新しい客が増えるが、既存の客の購買意欲は変わらない。
		百貨店（経営企画担当）	・客数減以上に客単価の減少トレンドが続いており、客の購買意欲の減退が強まっている。一部富裕層を除き、ボリュームゾーンの低価格志向が今後も継続する。
		百貨店（業務担当）	・熊本地震の後、耐久消費財のような買換えが必要な商材の売上は堅調だが、衣料品やファッション用品の動きは変わらない。客の支出に対する意識は、より厳しくなっている。
		百貨店（企画）	・来月には近隣の商業施設が閉鎖するため、町中のにぎわいへの不安がある。景気を上下させる要素が不明瞭で、目先の動向についても予測が困難である。
		百貨店（売場担当）	・前年のうるう年の反動が予想されるものの、約3,000万円の絵画が売れる予定なのでその反動を相殺でき、現状の流れがそのまま続いていく。状況的には前年の分を差し引くと変わらない。百貨店については下降傾向が続いている。
		百貨店（マネージャー）	・インバウンドについては、現時点で円高に振れてきているものの、売上は毎週前年比増で推移していることから、復調の流れにある。ただし、国内消費については、株高も一服し、大きなプラス要素も見当たらないことから、ここ2～3か月で大きく景気が上向きことはない。
		百貨店（営業統括）	・2～3月は女性客が春物衣料品の購買を控える。
		百貨店（店舗事業計画部）	・春は進物・返礼・行事等が多い時期で、必要なものは売れるため、ある程度売上は持ちこたえる。一方で、ファッション消費については強いトレンドがないことや春物の期間が年々短くなっていることもあり伸び悩む。
		スーパー（経営者）	・春闘の目安がつかないと先行きに不安が生じる。
		スーパー（店長）	・競合店の出店等もあり、価格競争を含めた競争が今後も厳しくなる。
		スーパー（店長）	・熊本地震の影響で閉店していた競合店が12月から再開し、周りの競合店の状況はほぼ地震前と同様になったものの、地震前の勢いはない。生鮮食料品は生花を中心に前年比115%で推移しているが、一般食品が苦戦する。
		スーパー（店長）	・生鮮食料品を含む食品の動きが良くなっているが、衣料品の売上が悪い。衣料品も良くなると全体的に良くなってくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（統括者）	・米国の新大統領の政策があまりに独善的なものばかりで、日本企業にとってマイナスの影響の方が多くなると心配している人が多い。このような状況では、財布のひもが緩んで景気拡大につながることはない。
		コンビニ（経営者）	・客が変わる要因がない。
		コンビニ（販売促進担当）	・米国の状況等がどう影響を与えるか見通せない。
		衣料品専門店（店長）	・相変わらず来街者数が少なく、好転の兆しが見えてこない。
		衣料品専門店（総務担当）	・前年度の百貨店やスーパーマーケットの衣料品売上推移を見ても、今後状況が好転する要素はない。
		衣料品専門店（取締役）	・米国の新大統領就任の影響なのが株価が上がっているが、日本の景気が良くなる要素は何もみられず先行きの不安が大きい。現場では左右されずにやっていく。
		家電量販店（総務担当）	・業界全体も厳しく価格競争が激しくなっている。
		家電量販店（広報・IR担当）	・白物家電は高付加価値商品が好調で買換え需要も底堅いので、家電全体での大きな落ち込みはない。
		乗用車販売店（総務担当）	・当分、新型車効果が続き、新車販売が好調を維持する。今期の決算は高実績になる。
		乗用車販売店（代表）	・変わる要因がない。
		住関連専門店（経営者）	・米国大統領の発言や決定に、経営者や消費者が関心を持っており景気が減速する。耐久消費財である置き家具の購入には客も慎重である。
		その他専門店〔書籍〕（代表）	・百貨店もセール時期以外の平日は客が少なく、小売や飲食の現場では人が入っていないのが顕著である。生活防衛の姿勢である。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の小売価格の今後の動向は、仕入価格が見通せないため不透明なところがあるが、寒さも例年並みのようで、販売量は前年並みになる。当地では、1月下旬から2月中旬にかけて、大きな祭りの開催が予定されており、前年以上の県外からの自動車等での来訪数と当地での消費に期待する。
		ドラッグストア（部長）	・自社の販売促進の取組の効果が出ており、経済状況は比較的堅調である。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・商圈内の収入拡大や、大きな消費トレンドがない限り横ばいである。プレミアムフライデーについても、動向を見守りたい。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	・消費状況に大きな変化は期待できず、米国の新大統領の政策で、今後の日本に大きなマイナスの影響がある。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・衣料品不振は変わらない。円安が現状のまま維持できれば、インバウンド売上は期待できる。
		高級レストラン（支配人）	・来月以降の予約状況も変わらない。
		高級レストラン（専務）	・地元客も観光客も少ない。このままでは良くない。
		旅行代理店（従業員）	・来客数は増えているものの、購買数の増加があまり見られない。学生の動きも例年に比べ鈍い。
		タクシー運転手	・2月は会社関係の予約が大変好調で良い状態が続いている。今後このような状態が続くと良い。
		タクシー運転手	・球団のキャンプがあるので利用する客が多い。
		ゴルフ場（従業員）	・今月末から春節のためにインバウンドもあるが、3～4月の予約は前年比1割減である。地元の客を取ろうとすると単価を抑えなければならず更に厳しい面があるが、新規客を取り入れないといけない状況である。
		競輪場（職員）	・業界全体の売上は頭打ち傾向であり、良い方向へ動く要素があまり見当たらない。
		競馬場（職員）	・何か変わるきっかけとなるものが見当たらない。
		美容室（経営者）	・やや悪くなる様子だが、これ以上みんなが苦しめない世の中になるように変わらないといけない。
		理容室（経営者）	・業種によって良かったり悪かったりするようだが、平均すると良くない。3～4月は卒業・入学式などで少しは良くなるが全体的に厳しい状況は変わらない。
		美容室（店長）	・急に良くなるとは思えないが現状維持できれば良い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		音楽教室（管理担当）	・春に向けて募集を行っていくが先行きは不明である。
		設計事務所（所長）	・国際情勢の不透明さが影響するが、プラスマイナスで現状維持である。
		設計事務所（所長）	・仕事の結果が2～3か月先に出てくるので、今変わらないということは先も変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅購入のきっかけとなる国策や金利などの材料もあり今後も続く。
		商店街（代表者）	・当地区においての商圈環境は大型店の増床もあり、一段と激しさを増している。その影響は商店街にも及ぶ。
		商店街（代表者）	・2月は最も消費が冷え込む月なので3～4月が良くなる。
		商店街（代表者）	・卒業、入学により家庭での金銭的負担が多く先の見通しが立たない家庭が多い。
		スーパー（店長）	・来店客の低価格志向が更に強まっているので、今後も単価は下落傾向である。
		スーパー（総務担当）	・競合先の新規出店による客獲得競争が更に激化し、人材確保や設備の更新等で経費は増加する。
		コンビニ（エリア担当）	・客の動きがどう変化するのか、米国の経済やTPP撤退等の影響が出てくる。少しの変化が客の購買に大きく影響するので、厳しい状況は続く。
		コンビニ（店長）	・米国の新大統領の政策で経済が混乱する。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・道向かいに学校を建設中であったが、その工事もほぼ終わり工事関係者が減るので、当店の駐車場が若干広くなったが、客数は減る。
		衣料品専門店（店員）	・今月は良かったが、この先良くなる要因がない。
		家電量販店（店員）	・米国の新大統領就任の影響で製造業など先行きが見えない状況である。米国がくしゃみをすると日本は風邪をひくと言われたが、消費に関しても客は様子見をしている。日本への影響が見え隠れしており明るい要素は少ない。
		高級レストラン（経営者）	・2月中旬に市議会議員選挙があるため接待や飲食に使われることが少なくなる。2月は1年の中で最も動きの悪い月だが選挙で更に動きが鈍くなり、売上や景気は良くならない。
		スナック（経営者）	・秋から年末にかけて前年割れが続いている。年が明けても同じ傾向である。2015年をピークに緩やかな下降傾向である。
		観光型ホテル（専務）	・熊本地震の影響が九州への旅行がまだ回復していない。
		都市型ホテル（販売担当）	・2月は売上がいつも悪く、3月は突発的な宴席が多いためあまり売上が見込みめない。
		都市型ホテル（副支配人）	・4～6月の予約が前年比で非常に少ない。大きな団体でMICE関係の予約が減っている。
		観光名所（従業員）	・閑散期に入っており、客の入込状況がより一層悪くなる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・国の方針に基づき、訪問介護、通所介護においては、介護保険制度見直しに伴う70%前後の報酬減が平成29年度から本格化するため、経営にも大きな影響を与える。
		設計事務所（代表）	・金利の動向など先が不透明である。
		住宅販売会社（従業員）	・ようやく建設業にも仕事が回ってきて求人も多い。少しはお金が出るようになってきた。株価は上昇しても景気が良くなった様子はなかったが、これから少しは景気が良くなる。輸出産業がどうなるか気になる。
	x	衣料品専門店（店長）	・気候の影響かもしれないが、季節商材が売れない。
	x	乗用車販売店（販売担当）	・自動車購入時の税金制度に変化があるため、買い控えがある。
企業 動向 関連 (九州)		家具製造業（従業員）	・家具小売の動きは需要期を迎えるため、徐々に良くなっている。業務用家具については受注までの期間があるため動きは鈍いが、2～4月にかけて受注見込みの家具物件が多くなっている。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・春は最も需要期であり、催事も多いので大分伸びる。
		鉄鋼業（経営者）	・今後着工される物件が多数あることから、受注・販売量は増加する。ただ、その回復の速度がいまだ分からない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・客によると前年、悪材料が出尽くしたようである。輸出を主体にしているメーカーが多いが米国の動きが気になる。各ユーザー、それなりに対応していくので現在の状況が続く。
		一般機械器具製造業（経営者）	・客の引き合い案件が増えつつあり2～3か月後の受注量は増える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（取締役）	・資金繰りも向上し、次の設備投資も具体化してきた。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・今後3か月は当初計画数量に対して増産である。
		その他製造業（産業廃物処理業）	・客が新機種の開発や新事業の取組をしたり、徐々に回復の兆しがみえている。相場も前年中旬に比べると上向き傾向である。
		建設業（従業員）	・見積案件は、やや少なくなっているが、少ない中でも受注に結び付いている。今後も受注に結び付く物件が控えている。
		金融業（従業員）	・有効求人倍率が高水準に達しているなど、労働需給が順調に改善しており、給与支給額も増加傾向である。また、スーパーマーケットなどの売上が好調なほか、輸出関連企業の生産水準も高まってきている。
		金融業（営業）	・製造業は年度末に向けて高水準の需要がある。建設業は東京オリンピックまでも言われているが、供給が追い付かず、アパートの建設は着工が秋口になる等遅れている。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・熊本地震のグループ補助金の締切りが3月末になっているが、それに向けて解体作業等、建築関係の動きが多くなってきている。解体後はほとんどが空地になっており、それ自体はあまり良くないが、今後建築等が動いてくると年度末に向けて良くなる。
		経営コンサルタント（社員）	・購買サイクルが短くなった。
		その他サービス業〔物リース〕（支社長）	・新年度に入り、官公庁の発注が増加し景気は良くなる。
		農林水産業（経営者）	・3月は行楽シーズンで居酒屋やスーパーを中心に期待できる。冷凍食品メーカーも3月はメニューの変更時期や年度末の追い込み時期で例年からしても期待できる。ただし、今年は前年ようにはいかない。ここ3～4年、畜産関係が好調であったため各社生産増に動いており、その反動が今年度の後半に出てきており、価格の下落がある。
		農林水産業（営業）	・大きな動きはない。
		食料品製造業（経営者）	・比較的安定した受注が見込みめている。
		繊維工業（営業担当）	・当社はたまたま良いが、閉鎖する工場があるので良くはない。大企業でも超過労働しないと利益がでないのに、中小企業には保険などの負担も相当なものがある。零細企業の社長たちは夜遅くまで働かなければならない。最低賃金のアップ率はありえない速さである。
		化学工業（総務担当）	・世界経済の先行きが不透明であり、予測がつかない。
		金属製品製造業（事業統括）	・事業ごとに異なり、建築関係は受注残のみが増加し、売上まで至らない。液晶関係は好調だが、土木関係は熊本地震の影響で、当社製品についてのみ出遅れている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・将来の景気については半年くらい変動はない。設備投資についても検討中である。
		輸送業（従業員）	・来月以降も悪くなる材料はないが今月が好調なため、今月以上となると難しい。しかしながら前年比では上向く。
		輸送業（従業員）	・メーカーは物流費を抑えるため、できるだけ倉庫に物を置かないようにしている。
		輸送業（総務担当）	・米国大統領の新政権が発足し、市場がどのように動くか懸念される。すぐに景気には反映されないが、日本政府の対応次第で企業側としても対策をとる必要が出てくる。
		通信業（職員）	・来年度の折衝件数は徐々に増えつつあるが、年度内の状況に大きな変化はない。
		金融業（営業担当）	・人材の確保がスムーズにできない限り、中小企業の景気は良くならない。当市都市圏の不動産価格が高騰気味であり、価格急落の不安感が不動産、建設会社の間で広がっている。
		金融業（得意先担当）	・景況感は上向き傾向にあるが大きく動いているわけではないので現状維持である。
		不動産業（従業員）	・商業施設の売上が横ばいに推移している。
		新聞社〔広告〕（担当者）	・来月は明るい材料が見え始めたが、一過性の広告出稿によるところが大きい。旅行広告は前年を下回り、他業種の出稿マインドも高くない。九州ふっこう割りが終わり、各地域の観光プロモーションも大きな動きは見られず、厳しい状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		広告代理店（従業員）	・1月の新聞折込枚数は前年同月比91%と悪い状態が続いている。正月商戦は前年とほぼ変わらなかったが、正月期間の1週間以降、再び低迷状態になった。米国大統領が代わり、大きく日本の政治状況が変化する。景気が良くなるか、悪くなるかはわからないが、一つのきっかけとなり消費が活況を呈するよう期待する。
		経営コンサルタント（社員）	・研究会の会員が減少気味であることが一番の理由である。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・問い合わせ件数、受注見込み案件数に大きな変化がない。
		農林水産業（従業者）	・市況が上がるべき時期に下がっている。
		精密機械器具製造業（従業員）	・今の生産量は横ばいであるが、今後は為替の影響で海外向け製品の生産量が落ちる。
		建設業（社員）	・官公庁の発注が極端に少ないため、下請見積も少ない。早期に国債や県債の発注があれば良い。
		通信業（経理担当）	・しばらく様子見ではあるが、米国の政治経済に引きずられるかのように日本の経済環境もどちらかというところ下降線をたどる。
		金融業（従業員）	・スポーツチームのキャンプにより観光客の宿泊が増加する。2月がピークになり3か月先には景気はやや悪くなる。
		不動産業（従業員）	・賃貸の動向が悪い。1人暮らしをさせる親が少なくなっている。経済的に難しいという声も多い。
	x	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・市町村の発注する市民意識調査や計画策定の委託業務は、年度末になっての発注がなくなっている。また、年度末に受注して繰越される業務も少ないため、景気が悪くなる。
雇用 関連 (九州)		職業安定所（職員）	・平成28年の新規求職申込件数は、前年同月比平均9%減少で推移しており、労働力人口減少が一層進展している。一方で管内の雇用保険被保険者数は過去最高を更新している。
		人材派遣会社（社員）	・年度末の欠員補充や新年度の社員不補充枠の依頼で派遣補充の動きがある。
		新聞社〔求人広告〕（社員）	・年度末が決算月となる企業が多く、新聞広告の出稿も増えてくることから景気はやや上向き。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・熊本地震から1年の節目を迎え、追悼を含む様々なイベントが開催される。また中心市街地に新ファッションビルが登場する。
		民間職業紹介機関（社員）	・年度末を控え、求人依頼が増加している。
		民間職業紹介機関（支店長）	・客からの依頼内容は、新規も増加しているが、追加や増員の依頼が多い。これは既存取引先が繁忙のためである。反面、派遣する労働者の確保が大きな課題となる。
		人材派遣会社（社員）	・人事異動等による欠員補充等の依頼があるが、例年並みである。
		人材派遣会社（社員）	・年度末の需要も例年どおりきている。長期的に派遣の利用を考えている企業も多い。派遣で長く利用するか直接雇用をするのかを検討し始める企業もそろそろ出てきている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・例年年度末にかけて求人は活発になるが、既に慢性的な人手不足が続いているので、例年通り企業側の求人意欲が高まるのか不透明だ。また、同業大手による価格競争が一段と激化する。
		職業安定所（所長）	・有効求人倍率の高い傾向は当面変わらない。
		職業安定所（職員）	・新規求人は順調に伸びているが、新規求職が増えないため人材確保が難しくなっており、事業活動に影響が出ている。
		職業安定所（職業紹介）	・今後も求人数の増加傾向、及び求職者の減少が続き、有効求人倍率が高い水準で推移する。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・2018年3月卒業生の採用活動が前年比で活発になるが、将来的な労働人口不足への対策の一面もある。景気そのものと求人との動きが直接的に関係があるとは明言できない。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・米国経済の影響を受ける。
	人材派遣会社（社員）	・労働契約法や改正労働者派遣法の影響が出始め、派遣取引数が徐々に減り始める。	
	人材派遣会社（社員）	・労働契約法や改正労働者派遣法の影響で、徐々に直接雇用への切替えが進む可能性も高い。継続的な派遣活用が見通せなくなると企業からの派遣求人依頼数が減少し、採用時から直接雇用化を望む企業が増加してくる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・低金利も続き、消費税増税が先延ばしになっている。米国の新大統領就任の影響がささやかれるが、特に身の回りに影響はない。雇用では、パートやアルバイトの人手不足が多く、こうした状況が改善されないと徐々に景気が悪化する。
	x	-	-

11. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (沖縄)		-	-
		コンビニ（経営者）	・来客数が伸びていて、デザートやファストフード等の客単価が良い。
		旅行代理店（マネージャー）	・企業の研修旅行や、報奨旅行など近年減少していた部分が増え出した。
		ゴルフ場（経営者）	・計画より多少は下回ったものの、客単価は上がっているの で、それほど大きな動きは無いとみられる。良くも悪くも ないという印象である。
		一般小売店〔菓子〕	・特に材料がない。
		一般小売店〔靴・袋物〕（経営者）	・インバウンドの爆買いがかなり落ち着いており、急激に インバウンドの購買が上がるとは考えられない。
		百貨店（店舗企画）	・免税売上は徐々に伸びるが鈍化傾向にあるが、海路、空 路ともに増加傾向は続くため、インバウンドで押し上げる ものと予測している。
		スーパー（販売企画）	・特に変わる要因が見つからない。
		コンビニ（経営者）	・自社競合はしばらく続くとみている。
		コンビニ（代表者）	・観光客数は順調に伸長しており、この傾向は当分の間続 くと考える。
		衣料品専門店（経営者）	・今月はセール時期もあり、少し客の出はあるように見え るが、売上アップにはまだつながっていない。景気上昇の雰 囲気は見えておらず、まだまだ様子見だとみている。
		乗用車販売店（経理担当）	・観光客の勢いはインバウンドを中心に今年も好調そうであ る。
		その他専門店〔書籍〕 (店長)	・特に大きく変化する要因は見当たらない。
		観光型ホテル（マーケ ティング担当）	・旧正月期間の外国人観光客の予約増や、春休み期間へ向け ての予約状況が好調に推移すると見込まれる。今月同様、客 室稼働率が前年同月実績を上回る状況が推測される。
		住宅販売会社（代表取 締役）	・当面は現在のやや良い状況が続くとみられるが、現場での 職人不足が懸念材料である。
		住宅販売会社（営業担 当）	・住宅ローン金利も最低金利で推移しており、客の動きも特 段変化がない。
		-	-
	x	商店街（代表者）	・商店街では売れなくなっており、特に婦人衣料等の物 販が売れない。全体的にみれば大変な状況下であるとみ ている。店舗が閉まると、そこに飲み屋が入ってくるの がほとんどで、売上等の状況の把握は少し難しい。飲 食の店舗が多く、その分は将来的には少し良くなるの かもしれない。
	x	その他飲食〔居酒屋〕 (経営者)	・飲食の店舗は全般的に慢性的な人手不足によりシフト が組めず、店休日を取ってスタッフを休ませているので、 売上を上げることができない。営業中の人数も少ないた め、基本的なサービス力の低下を避けることができず、 困っている。
企業 動向 関連 (沖縄)		-	-
		輸送業（代表者）	・ホテル建設や、クルーズ船等の観光客対応の店舗建設 などの民間工事が動き出している。また公共工事も増 加しているため、離島への生コンクリート出荷が増勢 となっている。
		食料品製造業（総務）	・観光関連商品の動きはずっと上向き傾向だとみ られるが、日常の消費に関しては現状とそう変わら ない気がする。
		窯業・土石製品製造業 (経営者)	・年度末に向け、公共工事の需要を期待したい。
	輸送業（営業）	・全体的な取扱物量は増える見込みがあるが、人材不足 が要因となり積極的な新規貨物取得には走れない状 況が続く見込みである。また、既存荷主への労務費 増に伴う業務改善や料金改定を行うも、荷主も同 様の悩みを抱えており、厳しい状況が続くとみ られる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		広告代理店（営業担当）	・今年周年を迎える県内企業が多く、販促予算を増額、又は新設することを期待しているが、全体的に見た場合の販促活動は、さほど変わらないように感じている。
		コピーサービス業（営業担当）	・良くなる兆しが見えない。企業として努力はするものの、社会全体の景気が悪くなっているのは売上にも出ている。
	x	-	-
雇用 関連 (沖縄)		-	-
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・例年通り繁忙期になり求人数が多くなる。
		人材派遣会社（総務担当）	・政府の打ち出す働き方改革、同一労働同一賃金を受けて、県内大手事業所が契約社員を正社員化し、人材確保する動きがある。
		求人情報誌製作会社（編集室）	・前年1月の週平均1,084件と比較して微増であったので、今後数か月は1月同様、高い水準で推移するとみられる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・景気上向きの情報はいまだ聞こえてはくるが、求人の動き自体は上昇を感じ取れるようになって以降、更なる上昇は感じない。現在は、やや停滞の印象を受ける。
	x	-	-